ISSN 0912-8182

Vol. 70 通巻809号　平成元年8月25日発行・毎月1回25日発行・昭和24年3月19日第3種郵便物認可

建築と社会

ARCHITECTURE AND SOCIETY

1989 8

特集■建築とアート



日本建築協会

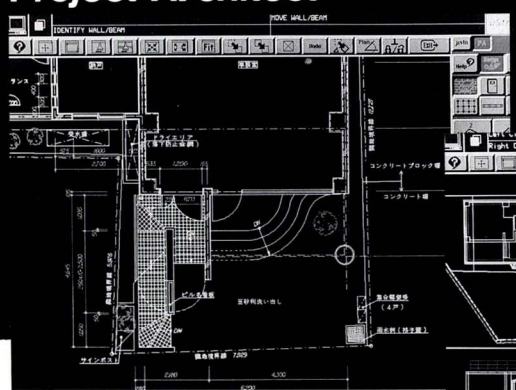
MUTOH

みえてくる、明日のかたち

ネットワーク上のデータを、
高度に活用できるインターグラフ。
画期的なローコストを実現して、
EWSベースで登場。



DRAFTING
Project Architect™

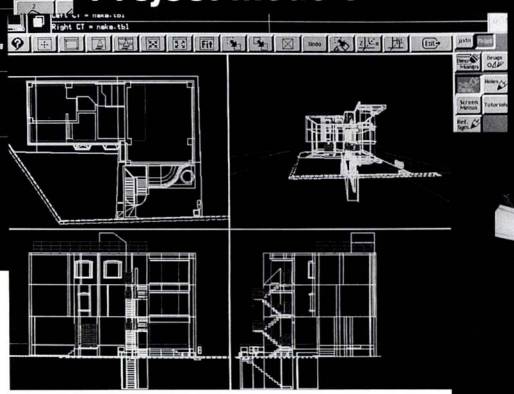


フロアプラン：プロジェクト・アーキテクトを利用して作成した平面図

建築製図の自動化は、プロジェクト・アーキテクトでさらに進化する。

建築製図を効率化、自動化するために、数々の独創機能を搭載したアプリケーションソフト、プロジェクト・アーキテクト。ここで作成した図面は、一つひとつの建築要素が高度な意味をもつ「インテリジェント・ドローイング」となり、図面・材料集計・面積表の作成を容易に行ない、3次元モデルへの展開までも自動化します。

MODELING
Project Modeler™



マルチプルビュー：正面、平面、側面、パースを4分割画面で同時に表示。

完全3次元の優れた操作環境を実現した、プロジェクト・モデラー。

プロジェクト・モデラーは、完全3次元の優れた操作環境を実現した、建築モデリングのためのアプリケーションソフト。ワイヤーフレームとサーフェスを中心としたモデリング機能は、シンプルでしかも高速レスポンス。高精度で大規模なモデルの作成にも大きな威力を発揮します。

PRESENTATION
Model View™



これからのプレゼンテーションの標準、レイ・トレーシングをいち早く採用。

モデルビューは平面図から立ち上げたモデルを、画面上でさらに表情豊かに、現実のイメージさながらに描き出すアプリケーションソフト。インターグラフがいち早く採用した高度なCG手法レイ・トレーシングが、グラフィックスの常識を、またひとつ新しくします。



EWS Based Super CAD System
INTERGRAPH
INTERPRO Serles
単体価格475万円から

COMPUTER AIDED DESIGN & DRAFTING SYSTEMS

INTERGRAPH

あなたに確かに応えるシステム
Expert-ner
MUTOH CAD SYSTEM

●カタログを差し上げます。ハガキに希望製品の資料請求券をお貼りのうえ、下記住所総合企画室までご郵送ください。

資料請求券
建築と社会
INTERGRAPH

武藤工業株式会社 東京都目黒区中目黒4-6-1 〒153 TEL(03)760-6111(代) **技術者募集中** お問い合わせ 人事部 TEL(03)795-0111

出版委員会企画「プロのノウハウ」講座シリーズ（第２回）

―建築設備の健康診断―

日　時　平成元年 9 月27日㈬　開場17：30
開会18：00→閉会20：00

会　場　日本建築協会・ラウンジ（大阪駅前第３ビル21階）

講　師　牧野　茂氏（株式会社竹中工務店大阪本店設備課長）

近年、情報ビルとして〝インテリジェントビル〟の建設がさかんに行われており、このインテリジェントビルは建築設備の高度化を要求しています。このように、最近の建物の建築設備はますます複雑化し、建築と電気、機械のすべてに精通していないと建築設備の設計や施工が現実に行えないところまできています。

「プロのノウハウ」講座シリーズ（第２回）では、建築技術選書〈特装版〉「建築設備の健康診断」の著者、株式会社竹中工務店大阪本店設備課長の牧野茂氏を講師にお招きし、建物の高層化、大規模化、高度化に伴って複雑化していく〝建築設備〟の〝健康診断〟をする必要性、その方法についてわかりやすく解説していただきます。

また、各建築設備のシステムを単独に、あるいは個々にみるのではなく、電気設備を給排水衛生設備や空調設備からながめ、反対に空調設備を電気設備の診断手法を用いて行うなど、建築設備を〝建築設備士〟的立場から診断し、より質の高い建築設備の構築と、その運用や保守の最適化による運転費の削減などについても説明していただけます。

講師の牧野氏は、竹中工務店で長くその道で実績を積まれた第一人者であり、わかりやすく、実務に即役立つお話が伺えます。

多数のご参加をお待ちいたします。

定　員　30名

受講料　会　員 4,000円
会員外 5,000円
（消費税を含みます）
※当日受付にていただきます。

テキスト　建築技術選書〈特装版〉「建築設備の健康診断」を使用（テキスト代１部特価**3,700円**〔消費税含む〕にて頒布、当日ご持参の方は不要です）

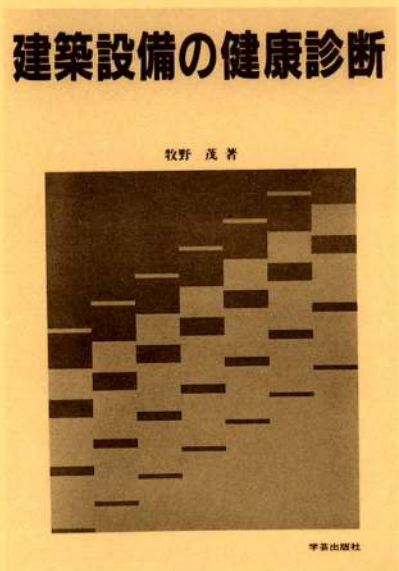
申　込　はがきかＦＡＸまたは電話にて、氏名・勤務先名（学校名）・連絡電話番号・参加証送付先及び所在地・郵便番号・会員、会員外の種別及び催し名称（「建築設備の健康診断」）を本会事業課までご連絡下さい。申込締切日９月20日㈬。定員超過の場合は抽せんにて決定の上、参加証をお送りいたします。

日本建築協会事業課：〒530 大阪市北区梅田１－１－３－2100（大阪駅前第３ビル21階）TEL06－348－0633
FAX06－348－0634

牧野 茂（まきの つとむ）氏 略歴

1939年　生まれる。
1962年　関東学院大学工学部建築学科卒業
同　年　株式会社竹中工務店大阪本店入社、現在にいたる。

B５判・160 頁（カラー48頁）



1 建築設備のできるまで
2 建築設備の健康診断
3 建築設備とは
4 電気設備の診断
5 空調設備の診断１－冷熱源設備の診断
6 空調設備の診断２－配管系機能診断
7 空調設備の診断３－空調器の診断
8 空調設備の診断４－小型空調器の診断
9 これからのビル管理設備
10 故障予知と異常監視法
11 配管腐食の測定
－管内水腐食速度の測定
12 資料編１
13 資料編２
14 資料編３
－健康診断にあたっての基礎資料

◀大阪市立科学館見学会

中之島西部地区文化ゾーン（大阪大学移転跡地）に大阪市立科学館が完成しました。これは関西電力の出資により、今まで四ツ橋にあった電気科学館が閉館され、新しく生まれ変わったものです。10月上旬のオープンを目の前にしてお忙しい時期ではありますが、関係各位のご配慮により見学会が実現したものです。ぜひこの機会にご見学下さい。

日　　時　9月26日(火)　集合13：30～解散16：00
集合場所　現地　正面（北側）玄関（大阪市北区中之島4－2）
＊地下鉄「肥後橋駅」下車西へ徒歩約8分
定　　員　50名
参 加 費　会員 500円、一般 1,000円（含、消費税）
＊当日、受付にていただきます。

◆　この建物は、大阪市市制100周年事業として建設された「エネルギーへの理解と科学技術の啓発」に資するための施設であり、将来、中之島西部地区再開発構想における「文化ゾーン」に位置する。建物外観は大阪の新しいランドマークとしてふさわしい「未来・宇宙」をイメージしたデザインとし、南・北面の大きなカーテンウォールにより外部広場との融合を図っている。

建物内部は、高さ30mの大きなアトリウムを中心にそれぞれ独立して立った円形のプラネタリウムと馬蹄形の展示スペース、頂部ドーナツ状の展示スペースで構成されている。展示スペースは約 3,200㎡を有し、アトリウムに配したシースルーエレベーターと、大空間を横ぎるエスカレーターにより、来館者の回遊に連続性をもたせている。プラネタリウムには直径26.5mの世界最大級のドームを設け、全天周映像も併せて上映される。この施設が市街地における市民の憩いの場として親しまれるものと期待している。（関西電力）



所在地　大阪市北区中之島4－2
設計監修・監理　関西電力
設　　計　環境開発研究所
施　　工　竹中・大林・鴻池・錢高ＪＶ
敷地面積　16,086.75㎡
建築面積　3,165.78㎡
延床面積　8,920.79㎡
構造規模　SR（一部S）、B1、4F、PH3
外装仕上　3丁掛磁器タイル(PC版打込み)
客　　席　318席
工　　期　1988年1月～1989年8月

◆　中之島は、御堂筋と並んで最もプレステージの高い都心業務地区を形成する地区であり、水の都・大阪を代表する街の景観を形成している地区でもある。大阪市立科学館の建つ中之島の西部地区は一部を除いて必ずしも都心に相応しい利用がなされているとは言い難い状況であり、大阪市においても中之島地区再開発調査委員会を設置し、各種の検討が続けられている。大阪市立科学館は、これらの答申を踏まえた中之島再開発の第一号であり、文化ゾーンとして位置づけられた中之島4丁目（大阪大学移転跡地）の核施設のうちの一つとして計画された。

建築計画においては、川岸のオープンスペースの確保に最も留意している。開放的な広場を創るために地盤を防潮堤のレベルまで嵩上げし、その下部を利用して地下駐車場を設けた。建築はオープンスペース確保のために所要機能の積層構成としたが、広場の天空率確保のために角のない形態とし、かつ中央部を両面、透明ガラスカーテンウォールのアトリウムとすることにより、建物の反対側の景色が透けて見える構造としている。

ＣＡＤにより建物の全構成エレメントの形状および取付位置を数値化しており、製品取付位置の墨出しに、コンピューター連動の光波測量を採用することにより、最先端の施工精度が実現されている。
（環境開発研究所）

申込方法　ハガキ、FAX、電話で9月18日(月)までに、日本建築協会事業課へお申込みください。催し名（大阪市立科学館見学会）、氏名、会員・一般の別、勤務先、参加証送付先、電話番号をお知らせ願います。

日本建築協会事業課　〒530 大阪市北区梅田1－1 大阪駅前第3ビル21階
FAX 06－348－0634　☎06－348－0633

＊追って参加証をお送りします。なお申込者多数の場合は抽選にて決定します。

◀宝塚造形芸術大学見学会

20世紀の巨匠ル・コルビュジエの弟子であり、現在ル・コルビュジエ財団理事長であるフランスの建築家アンドレ・ヴォジャンスキーの原設計による宝塚造形芸術大学が、2年前に宝塚雲雀丘の山腹に姿を現しました。日本側の協同設計は、長谷川紘氏が担当、幾度にもわたる国際的な打ち合わせが重ねられて完成されました。

眺望の素晴らしい南斜面のランドスケーピングと、コンクリート打ち放しにカラフルな原色の取り扱いは、日本離れした独特な景観を呈示しています。

当日は、日本側設計者の長谷川紘氏に設計コンセプトの説明と、今後増加が予想される海外建築家との協同設計の先駆けとしての貴重な体験談などをお聞きし、見学します。

また、同大学においてちょうどル・コルビュジエ展を開催中ですので、合わせてご観覧いただきます。

日　　時　9月30日(土)　13：00～15：00

集合場所　現地　宝塚造形芸術大学MMCホール
（兵庫県宝塚市切畑長尾山2－1658）
＊阪急宝塚線「雲雀丘花屋敷駅」(梅田駅から急行で約25分）下車、駅前から阪急バス愛宕原ゴルフ場行(11:30、12:00、12:30発)「長尾台」(約5分)下車すぐ

講　　師　長谷川　紘／長谷川紘都市・建築研究室所長
宝塚造形芸術大学助教授

定　　員　100名

参 加 費　会員 1,000円、一般 1,500円
（含、ル・コルビュジエ展観覧料、消費税）
＊当日、受付にていただきます。

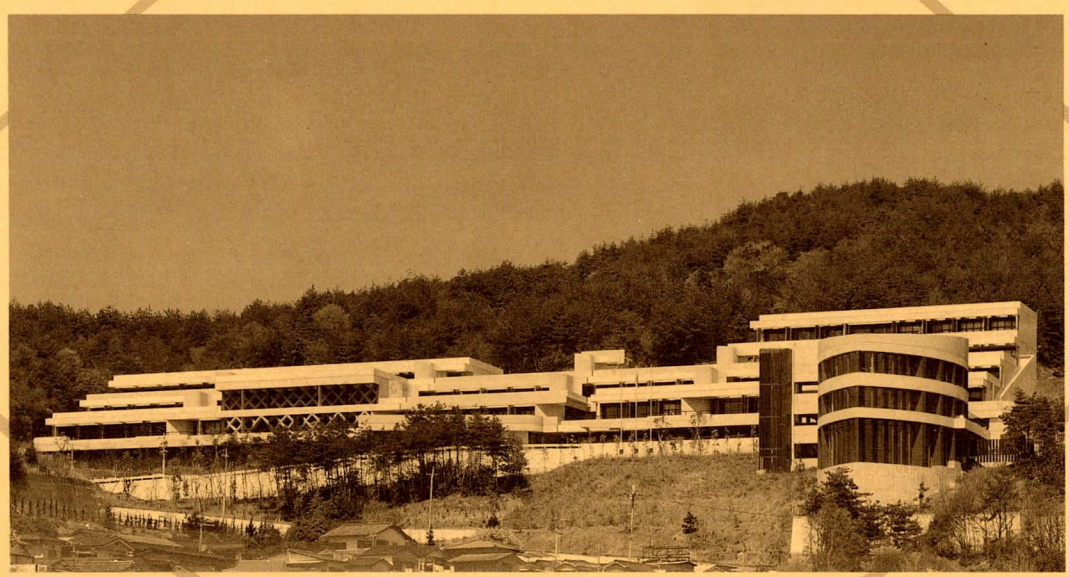
宝塚造形芸術大学建築概要

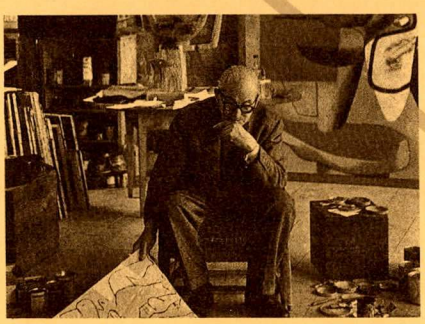
所在地　兵庫県宝塚市切畑長尾山2-1658
設計　アンドレ・ヴォジャンスキー
長谷川紘都市・建築研究室
施工　奥村組
敷地面積 94,607.0m²
建築面積 6,934.6m²
延床面積 8,197.6m²
構造規模　RC(一部SRC)、6F
設計期間　1979年5月～1985年12月
工事期間　1985年5月～1987年3月



長谷川　紘

1942年横浜生まれ
1965年東京大学建築学科卒業
1965－74年鬼頭梓建築設計事務所勤務
1974年長谷川紘都市・建築研究室設立
1987年宝塚造形芸術大学助教授
主な作品
関西女子美術短期大学第4・5期（1977年、1980年）日野市立高幡図書館
（1980年、第1回日本図書館協会建築賞、「優秀賞」受賞・1985年）





●ル・コルビュジエ展

ル・コルビュジエ（1887－1965）が残した絵画、彫刻、素描、建築図面、建築デッサン、模型、タピストリーなど約250点が展示されます。

日　時　9月10日(日)－10月22日(日)　ただし月曜日は休館
10：00－17：00（入館は16：30まで）
観覧料　一般 1,000円、団体 800円
主　催　宝塚造形芸術大学、日本建築学会ル・コルビュジエ展実行委員会、ル・コルビュジエ財団、毎日新聞社

申込方法　ハガキ、FAX、電話で、9月22日(金)までに、日本建築協会事業課へお申込みください。催し名（宝塚造形芸術大学見学会）、氏名、会員・一般の別、勤務先、参加証送付先、電話番号をお知らせ願います。

日本建築協会　〒530 大阪市北区梅田1－1－3－2100
FAX 06-348-0634　TEL 06-348-0633

※追って参加証をお送りします。なお申込者多数の場合は抽選にて決定します。

いま　関西はおもしろい

―168時間都市へのアプローチ―

日　時　1989年 9 月19日(火)　開場18：00　開会18：30→閉会20：30
会　場　大阪府立文化情報センター・多目的ホール
（大阪市北区中之島3-2-18　住友中之島ビル5F　TEL06－444－1011）
講　師　加藤 晃規 氏（建築家・大阪大学工学部環境工学科助手）
定　員　100名
会　費　会員 1,000円、会員外 1,500円（学生：会員 800円、会員外 1,200円）
〔消費税を含みます〕

21世紀へ向けて、私たちは〝都市の時代〟を迎えようとしています。こうした時代の流れの中で、私たちの住む関西はダイナミックに変貌しようとしています。

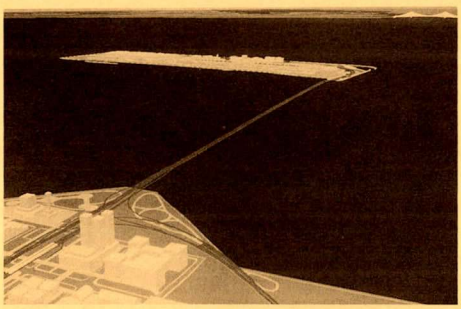
次代を担う私たちにとって〝いま関西ではどのような変化が起きようとしているのか〟非常に興味深いことです。

そこで、21世紀の関西の未来像を、様々な角度から継続して掘り下げていくシリーズを企画いたしました。

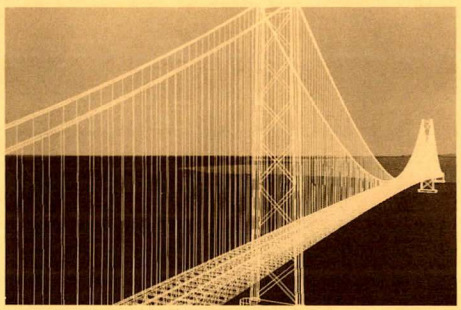
今回はマクロな見地から、最新のＣＧ技術や特撮を駆使して、大阪ベイエリアを中心に関西圏の21世紀像を克明に描き上げたビデオ「The KANSAI 21」(59分)を上映し、その制作委員会座長をつとめられた加藤晃規氏を講師に迎え、〝168時間都市へのアプローチ〟という新しい切り口から、関西の未来像についてお話しいただきます。

「いま関西はおもしろい」、「なぜ関西がおもしろいか」を皆様とともに考えてみたいと思います。ふるってご参加下さい。

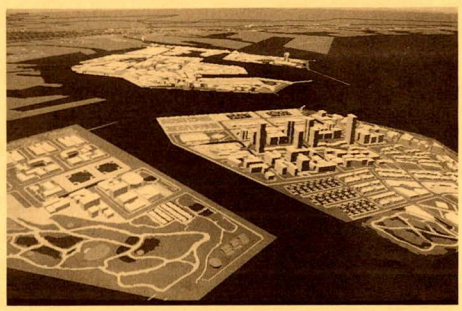
※「The KANSAI 21」のビデオは、株式会社映像館のご厚意によりご提供いただきました。



りんくうタウンと関西国際空港



明石海峡大橋



テクノポート大阪



加藤　晃規(かとうあきのり)氏

大阪大学工学部環境工学科助手
工学博士・建築家
1946年愛知県生まれ
京都大学大学院・建築学専攻・博士課程中退
フィレンツェ大学
G・デカルロ事務所(ミラノ)
黒川紀章建築都市設計事務所
を経て1978年より現職
建築・都市デザインを専攻し、
都市広場の比較研究に従事

●著・訳書
『南欧の広場』『ボローニャの試み』
『ピエール・ルイジ・ネルヴィ』
『都市と広場』(共訳)『The Kansai 21』(共作)
『鎮守の森』(共著)『都市デザイン』(共著)
『水網都市』(共著)『ポケット・パーク』(共著)など
●作　品
パビィア大学生物学部棟
中国新聞ハウジングプラザコンペ応募案
八幡屋公園基本計画コンペ応募案
新淀川ウォーターフロント構想案
中之島リ・インカーネーション案　など

申込方法　ハガキかＦＡＸまたは電話にて、氏名・勤務先名(学校名)・連絡電話番号・参加証送付先及び所在地・郵便番号・催し名称(「いま関西はおもしろい」)・会員、会員外の種別をご連絡下さい。申込締切９月12日(火)。申込者多数の場合は抽せんにて決定の上、参加証をお送りいたします。
(日本建築協会事業課：〒530 大阪市北区梅田1-1-3-2100 大阪駅前第３ビル21階　TEL06－348－0633　FAX06－348－0634)

音楽と建築
―バロックをあなたに―

「かつて、バロックの建築家ボルロミーニのサン・カルロ教会堂を訪れた時の強い印象を忘れることができない。この教会堂の身廊に入った瞬間に建築と音楽の極限の共鳴を身の内に覚え、激しい感動に打たれたからである。……まさに、建築と音楽の一体的な共鳴というしかない。いいかえれば、ボルロミーニのサン・カルロ教会堂の空間的構成と、バッハのフーガにおける調性と対位法の構成との間に、すぐれて等質な表現がみられるということである。」（渡部貞清）

バッハの音楽とボルロミーニの建築に共通点がある。こんな夢のある話をあなたは信じますか。

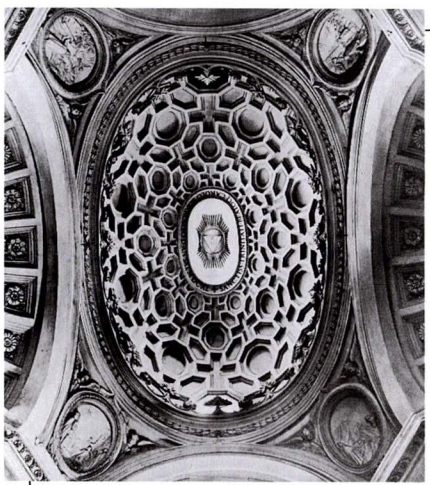
日本を代表する洋風建築の名作である中之島中央公会堂で、バロック音楽の巨匠ヨハン・セバスティアン・バッハの音楽の生演奏を聞きながら、スライドも交えてイタリア・バロックの建築家フランチェスコ・ボルロミーニを中心とするバロック建築の話を聞く。こんな素敵な講演会を企画しました。―バロックをあなたに―秋の夜のひとときを、あなたも体じゅうでバロックを感じてみませんか。

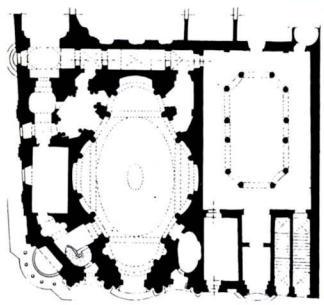
講師には、福井大学の建築学科教授を経て仁愛女子短期大学の音楽学科長を務められ、音楽にも建築にも造詣の深い渡部貞清先生をお迎えし、演奏は、大阪を中心に活躍されているアムジー室内合奏団にお願いしました。講演と映像と音楽が一体化したユニークな講演会にしたいと思います。

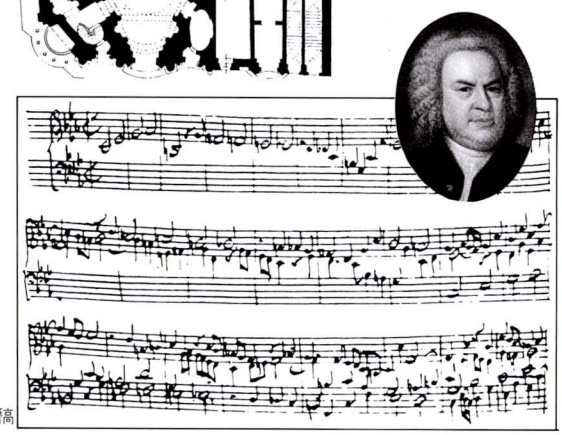
ふるってご参加下さい。

■演奏会「音楽と建築―バロックをあなたに―」■

日　時　**10月21日(土)**　午後６時開演
会　場　大阪市中央公会堂（大阪市北区中之島1-1-27 Tel 06－231－0631）
講　師　渡部貞清氏
演　奏　アムジー室内合奏団〔演奏曲目等は次号にてお知らせします〕
定　員　200名
参加費　会員 2,000円、会員外 2,500円（学生：会員 1,500円、会員外 2,000円）
（消費税を含みます）


サン・カルロ教会堂天井


サン・カルロ教会堂平面


「音楽の捧げもの」の手稿



■渡部氏ご紹介
1918年　生まれ
1941年　仙台高等工業学校（現東北大学工学部）建築学科卒業、鉄道省入省、日本国有鉄道鉄道技術研究所主任研究員
1968年　京都大学工学博士
1969年　福井大学工学部建築学科教授
1970年　日本建築学会賞（論文賞）受賞『バロックの建築論的研究』
1984年　仁愛女子短期大学教授、音楽学科長
その間、東京工業大学、福井工業大学、聖母女学院短期大学講師、日本建築学会理事（北陸支部長）等を歴任。退職後、現在、建築史家
■著書および論文　『バロックの建築論的研究』『バロック建築』『建築と音楽の共鳴』その他

■アムジー室内合奏団ご紹介

1981年、クラシックをより自然なものに、また、生の音の楽しさを感じてもらえるコンサートがしたいという思いで発足。観客の顔が見える広さでのコンサートを中心に、大阪を中心に活動している。アンサンブルの良さを大切に、心の通い合う演奏家が次第に集まり、現在の形となる。ジャンル・時代にこだわらず、新しい室内楽の方向を求め、あらゆる曲に挑戦している。特に、ヴァイオリン長野昭子氏のソリスティックな部分を活かした演奏は、多くのファンに喜ばれている。



●今までの主なコンサート
人権週間記念コンサート（国際交流会館）
能舞台における『四季』全曲公演（大槻能楽堂）
定期演奏会（ピロティーホール・労働センター）
長野昭子ヴァイオリンコンサート（労働センター）
バロックコンサート（毎日国際サロン）他
●定期的な催し
「ワインと室内楽の夕」
「ちょっと音にさわってみよう」
「ミュージックステーション中之島'89」他


サン・カルロ教会堂正面

申　込　ハガキかＦＡＸまたは電話にて、氏名、勤務先名（学校名）・連絡先電話番号・参加証送付先および所在地・郵便番号・催し名称(「音楽と建築」)・会員、会員外の種別をご連絡下さい。申込締切10月12日(木)。申込者多数の場合は抽せんにて決定の上、参加証をお送りいたします。
（日本建築協会事業課：〒530 大阪市北区梅田１－１－３－2100　大阪駅前第３ビル21階　ＴＥＬ06－348－0633　ＦＡＸ06－348－0634）



ホテルオークラ神戸　フロント　設計 丸ノ内建築事務所他

素材のちからを技術で高めあたらしい表現の翼を広げる



ホテルオークラ神戸　ロビーテーブル

力強く、ぬくもりがあり、いつまでも美しさを失わない美術陶板の世界。その迫力と魅力を、一度じかにお確かめ下さい。

軽量であり、複雑な色彩が再現でき、褪色することもない、という特性。自由自在な美術表現のこころみが全国各地のホール・エントランスなどの壁面や空間そのものを豊かに演出しています。

大塚オーミ陶業株式会社

本　　社／大阪市中央区大手通３丁目２番21号
〒５４０　代表　06(943)6695
東京支店／東京都千代田区神田司町２丁目９番地
〒１０１　代表　03(294)1388
工　　場／滋賀県甲賀郡信楽町大字柞原字寺谷926番地
〒529-18　代表　0748(82)3001

1917創刊
1989
70集
建築と社会 © ARCHITECTURE AND SOCIETY
CONTENTS
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

「建築と社会」8月号表紙
■作品名 SKYLIGHT DOME ■作者 大林組 ■使用ハード DEC/MICRO VAXII、INTERGRAPH/INTERACT ■使用ソフト INTERGRAPH/AMOD MODELVIEW ■作品解説 全天候型開閉式ドームをCGによってシミュレートしたものである。テフロン膜の透光性とオープン時の開放性をテーマに表現している。なお、このドームの開閉方式等については、日本建築センターによる技術指導をすでに完了している。

■特集予告
9月号／構造の省力化
鹿島建設大阪支店
創設50年記念設計部作品集
10月号／都市環境創造と設備II
ユーザー参加のハウジング
11月号／第36回青年技術者
12月号／最近の博覧会パビリオン

会長 佐野正一
副会長 足立 孝・市川 宏
鴻池藤一・薬袋公明
編集委員会（平成元年度）
■編集理事
金井 弘次
金多 潔
小島 雄
城 憲一
須賀 好富
竹中 錬一
長谷部朔郎
松村 慶三
若山 繁
渡辺 忠
■編集委員長
長谷部朔郎
＊上田 信也
■編集顧問
東 孝光
■編集委員
★計画系分科会
☆計画系
角島 健二
河端 秀直
小浦 久子
鈴木 克彦
○田中 直人
平岡 博
山尾 弘子
吉村 英祐
☆建築計画系
上杉 秀隆
江副 敏史
○加藤 晃規
北村 潤
鳴田 聖二
庄野 利博
西川 純一
前川 治彦
牧野由美子
三宅 淳
＊森田 晴美
矢野 裕芳
山中 恵子
山本 匡
☆インテリア・住宅
石倉 健彦
一ノ瀬満雄
大塚 慶子
○加藤 力
神谷 剛
＊北浦かほる
北山 喜与
駒田 哲男
細田 泰彦
増地 秀夫
★構造分科会
和泉 一義
清 孝好
馬場 研介
○福山 国夫
山崎 雅生
和田 勉
★設備分科会
安信 浩一
石野 幸義
遠藤 進
梶井 宏修
河津 隆之
○佐藤 秀彦
別所 清
村上幸三郎
★施工材料分科会
有光 利治
河戸 隆
○志水 史典
田添 寿昭
丹羽 稔
松村 勝実
★法令分科会
＊大前 博司
佐藤 勝
広瀬 丈洋
松井 昭
南出 和延
■作品作風小委員会
荒川 朱美
遠藤 公介
岡本 隆
北澤 修一
玉崎 良和
○塘 伸夫
富田 昌義
福地 一彦
松田 善弘
宮下 幹雄
＊水川 尚彦
宮崎ひろ志
■会員企画小委員会
赤井 富弘
伊藤 郁郎
稲木 裕子
＊今井 邦夫
北村 恭一
小林 孝一
佐伯由紀子
柴田 厚
○高田 光雄
高橋 麗子
塚口 明洋
冨永 明子
増渕 昌利
溝口 正人
■広告企画小委員会
＊池渕 俊男
佐野 寛志
○下村 甫
橋本龍二郎
原田 常介
藤田 孝吉
山下 修司
○渡辺 忠
○印 副委員長と幹事 ＊印 同代行

印刷 平成元年8月20日
発行 平成元年8月25日
発行人 社団法人日本建築協会
発行所 社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電 06—348—0635
振替口座 大阪1-39975
印刷所 日本写植印刷株式会社
電 06—606—1111㈹
青葉印刷株式会社
電 06—351—5428㈹
定価 980円（本体価格951円・送料共 消費税29円）

8 通巻809

会告
作品作風
Wシリーズ
INFORMATION
書評
レポート
特集
アート作品
論文
プロデューサー紹介
レポート
法令コーナー
新建材紹介コーナー
建築の眼
GBRCニュース
構造の頁172
設備の頁174
施工材料の頁169
INFORMATION
月報

特集●建築とアート
SPECIAL FEATURE ON THE ARCHITECTURE AND ARTS

出版委員会企画「プロのノウハウ」講座シリーズ（第2回）—建築設備の健康診断—．大阪市立科学館見学会．宝塚造形芸術大学見学会．いま、関西はおもしろい—168時間都市へのアプローチ—．音楽と建築—バロックをあなたに— 1
福井県立武道館本館 設計監理：日建設計・名古屋 8
施工：熊谷組・飛島建設・前田建設工業本館建設工事共同企業体
近畿大学附属高等学校校舎 設計監理：安井建築設計事務所 10
施工：松村組・清水建設共同企業体
鳳保健文化センター 設計監理：堺市建築局建築部、大建設計 12
施工：不動建設・海原建設・国誉建設工事共同企業体
宅建ハウジング本社社屋 設計監理：創美設計 施工：三陽建設 14
ブルータスビル 設計監理：安井建築設計室 施工：前田建設工業 16
ホテルオークラ神戸 設計監理：観光企画設計社 18
施工：鹿島建設・大成建設・大林組・野村建設工業JV
静岡クレセントホテル 設計監理：安井建築設計室 施工：藤木工務店 20
LEE PLAZA 設計監理：安井建築設計室 施工：大成建設 22
Walking「建築家おすすめデートスポット」 24
写真展・現代建築と伝統技術—石野瓦工業の仕事．「エッフェル塔100年のメッセージ」を大阪・阪急百貨店で—9月25日には講演会も．「遠藤新展—生誕100年記念—」 26
文庫3題『日本の民家』『明治の東京』『鏑木清方随筆集』／太田隆信 27
「'89海と島の博覧会・ひろしま」の紹介／熊野勲 28

建築とアート

八木マリヨ—京のコスモス—／吉田和央—ROUND LAND—／内田晴之—POSITION—／北山善夫—まずどう始めるべきか—／高田洋一—風の回廊—／車季南—風—／児玉康兵—三想—／山田幸作—猪名川町立ふるさと館モニュメント—／清水柾博—WAVE MOTION '87—／川島慶樹—月と一羽と—／曽我孝司—重力質・柱in GEN-YA—／松井智恵—ROGNOZZO—／中西學—偉大なるRockin' man—／立花江津子—マリアのローザス—／山口一城—サッポロビール園照明器具—／草間喜雄—ランドスケープ—／河崎晃一—然—Condition—／中島一平—Cardbord chips work vol.3— 32
方舟に集まった影たちの過去—歴史からみたアートと建築の接点— 高橋 幸次 50
建築とアートの関わり—建築からみたアートと建築の接点— 遠藤 剛生 54
「建築美術」の条件—美術からみたアートと建築の接点— 今井 祝雄 58
西武百貨店つかしん店美術サロン／渡辺石彫事務所 61
建築とアートの出合い—神戸国際会議場— 田中 直人 62
建築とアートを結ぶ媒体としての詩—オフィスビルとスポーツメーカー研究所の例— 酒井 利行 63

神戸市火災予防条例の一部改正—スプリンクラーの設置など防災設備の強化が図られた—／村上正彦 71
ナイスタッド／中川徹 73
ロンドンの若者たち／安田孝．まちのみどり(その二)／八尾明．リゾートって何？／若林広幸．人をもてなす建築／南次郎 74
生コンクリート工場の品質管理監査と巡回による骨材試験業務について 75
パンタドーム構法—1—バルセロナ・オリンピック屋内競技場／川口衛 76
積層プラスティックフィルム電極よりなる二段式静電集塵装置の特性／杉田直記 77
鋼繊維補強コンクリートの土間コンクリートへの適用／高見法侑・花田清治・守田孝 78
安藤忠雄建築展・講演会「中之島2001」．第21回中部建築賞作品募集．建物防災週間実施—平成元年度上期—．PLEA 1989 NARA 奈良国際会議． 79
日本建築協会月間の動き(平成元年6月分) 80

福井県立武道館本館

設計監理　日建設計・名古屋
施　　工　熊谷組・飛島建設・前田建設工業本館建設工事共同企業体



柔道場南面外観



当武道館は福井市の北西部郊外、周辺をなだらかな美しい山々が連なる緑豊かな自然に恵まれた環境にある。

福井県立武道館構想の基本的考え方は、福井国体を契機に日本古来の武道人口の増加とともに、こうした武道振興に対する機運が高まっているなか、歴史、伝統、気風等を勘案し、活力あるたくましい県民の育成を願って、武道の殿堂にふさわしい総合的武道館建設を行うことにあった。

計画にあたり設計の理念としたことは、日本古来から伝承されている武道はスポーツとしての技と体力のみでなく、精神性を重んじる日本特有のスポーツであることから、建物も日本古来の屋根の構成をとり入れ、各施設を相互連結し統一・調和のとれた武道館とした。

外観のデザインは日本古来から伝承されている武道と建物の屋根、外壁、窓の構成で各施設を表現し、精神性を重視した力強さがあり、周辺の山々の連なりと調和させた形態とした。また将来発展するであろう周辺環境に対し、威圧感をできる限り少なくし日照や通風も配慮し、できるだけ建物を低く押えた屋根勾配のある親しみやすい形態とした。

建物の構成は各施設が大空間を持つこと、また多人数での利用を考慮しスムーズな移動・避難が容易で安全で経済的な低層分棟方式とした。施設の中心に総合的管理運営施設を配し、中庭・ロビー、回廊で各施設をつなぎ効率的で明快な構成とした。

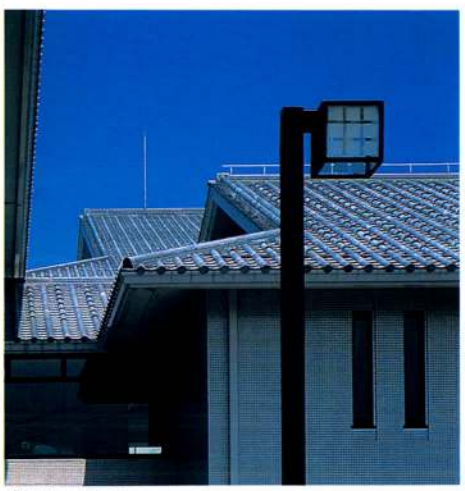
1階には武道場のメイン施設である柔道場、剣道場を中心に相撲場、弓道場を同一平面に配し、さらに各施設の競技場と小道場などの練習場を隣接させ、大会時の運営がスムーズに行なえる使いやすい構成とした。

2階は柔道場、剣道場の観客席を設け競技者動線と交錯しない様にし、また観客席は中庭と玄関ロビーの上部吹抜を中心とした回廊と一体観のある構成とすることにより、明快な動線区分と案内性のよい計画とし同時に、冷暖房による居心地のよい空調システムを観客席に採用している。

3階には空手道、銃剣道、なぎなたの競技・観覧のできる多種目競技場を設け、また別棟として合宿所が設けられている。

開館と同時に有名な大会が開催され、県民の人々に幅広く愛され、親しまれることを願っている。

（日建設計・名古屋）



南面ディテール



ロビー

所在地　福井市三ツ屋町8—22
敷地面積　24,407.216㎡
建築面積　9,220.494㎡
延床面積　14,670.582㎡
構造規模　SRC、B1、3F
工　　期　昭和62年10月～平成元年3月
最寄駅　JR北陸本線福井駅より
市内バス　武道館・新田塚線
武道館入口バス停

撮　　影　島　修一

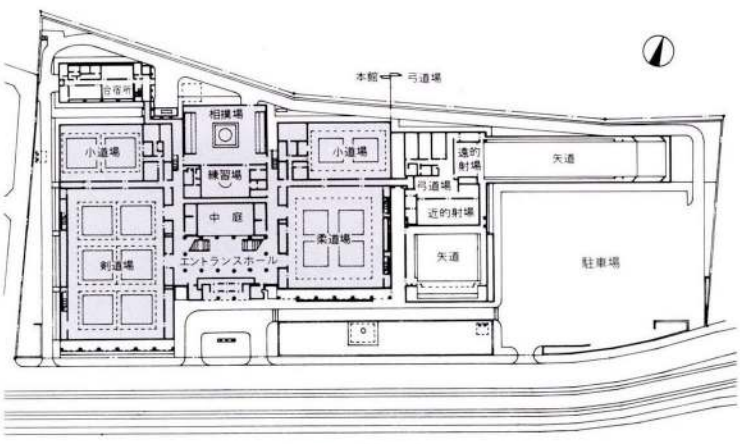
正面外観



柔道場



剣道場



配置図　1：2800



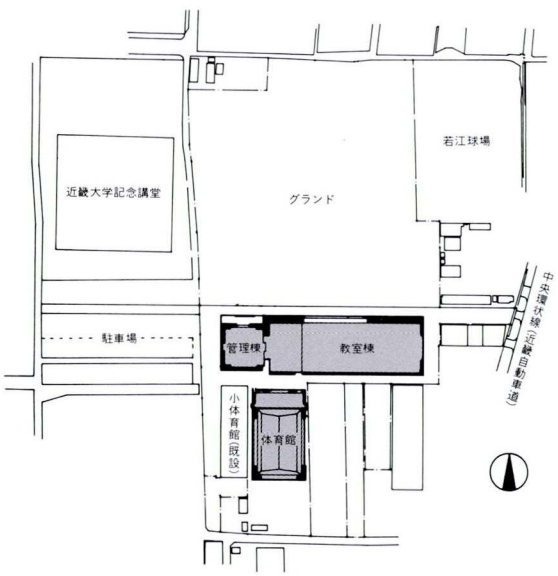
相撲場



外観北西面

近畿大学附属高等学校校舎

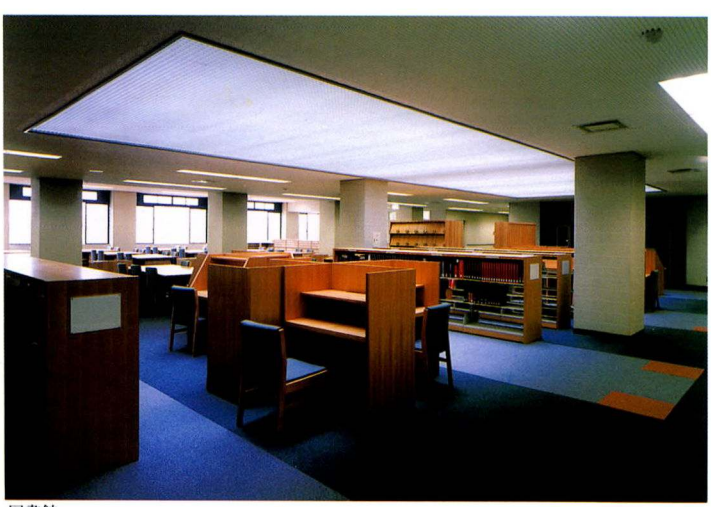
設計監理　安井建築設計事務所
施　　工　松村組・清水建設共同企業体



配置図　1：5000



教室棟玄関ホール



図書館



体育館棟(東面)

近畿大学附属高等学校は従来、東大阪市小若江の近畿大学キャンパス内にあったが、生徒のより多様化する進学ニーズの対応と、近畿大学キャンパスの一層の充実を目的として、近大キャンパス東約1kmにある近畿自動車道沿いの近大グランドの1角に新築・移転することになった。

建物は教室棟（5階建）、管理棟（11階建）、体育館（4階建）の3棟で構成し、ほぼ全館冷暖房設備を計画して快適な教育環境とした。

また、コンパクトな平面形で管理棟を高層化し地域のランドマークとしての性格をもたせた。北側の構内道路に面して、管理棟には教職員・来客用の玄関、教室棟には幅45mにわたって生徒用の出入口を設け、登・下校時の約3500人の生徒の動線をスムーズにしている。教室棟には18m×10mの大きな吹抜けをコアをはさんで3ヶ所設け、教室・廊下・コア部分の十分な採光と通風を確保した。

外観は明るさ、力強さをイメージして柱型、梁型によるフレームを強調するとともに、磁器タイル貼の傾斜した腰壁と開口部のGRC製飾り庇により壁面に陰影をつけ、連続するリズム感と統一感を出すよう意図した。

（谷　誉／安井建築設計事務所）



3階アリーナー



体育館ホール

所在地	東大阪市若江西新町5−121−1 及び 八尾市新家町7−13−3 他
敷地面積	43,123.60㎡
建築面積	6,621.23㎡
延床面積	30,940.74㎡
構造規模	SRC、RC、S、IIF、PI
工期	1987年7月～1989年3月
最寄駅	近鉄奈良線八戸ノ里駅
撮影	SS大阪

鳳保健文化センター

設計監理　堺市建築局建築部
　　大建設計
施　　工　不動建設・海原建設・国誉建設工事共同企業体

所 在 地　堺市鳳南町4丁444—1
敷地面積　2,796.49㎡
建築面積　1,420.82㎡
延床面積　5,294.92㎡
構造規模　RC(一部S)、B1F、4F、P1
工　　期　昭和62年9月～昭和63年12月
最 寄 駅　JR阪和線鳳駅

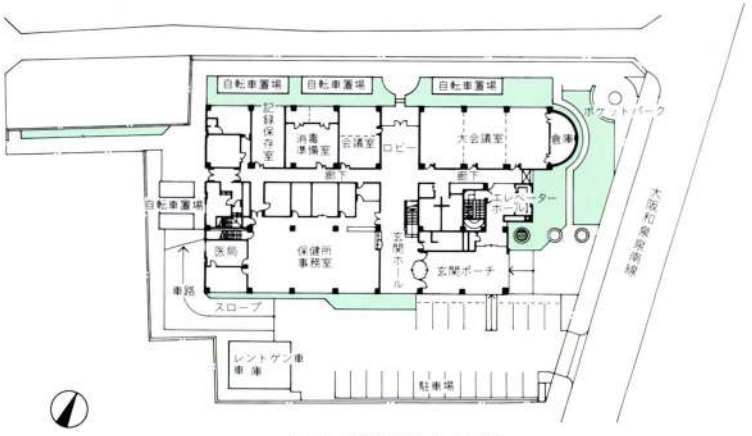
撮　　影　澤田勝良、伸和実業



東側外観


正面外観

電　　気　八千代電設・西尾電設建設工事共同企業体
空気調和　近電設備大阪支店
給排水衛生　藤本工業
浄 化 槽　津村技巧



配置・1階平面図　1：1000





南西面外観

ＪＲ阪和線の鳳駅から南へ 700ｍ、大阪和泉泉南線に面した旧府民センターの跡地に、堺市が市制100周年の記念事業の一つとして、保健所の移転計画にともない、福祉事務所・図書館を併せもった複合施設として、地域住民の「保健」「福祉」「文化」の核となるべく、計画された。

外観は特徴的な都市景観を創出する方法として、単純な箱型を排して、建物をヒューマンなスケールに分割し、さらに重なり合う勾配屋根を用いることにより失われてゆく古いまちなみを現代的手法で再生し、親しみやすく、特徴的な景観を創出している。

道路に面したアプローチ部分には、ポケットパークを設け、緑とコミュニケーションのスペースとして、限られた敷地の中で地域住民に親しまれる屋外空間を提供している。

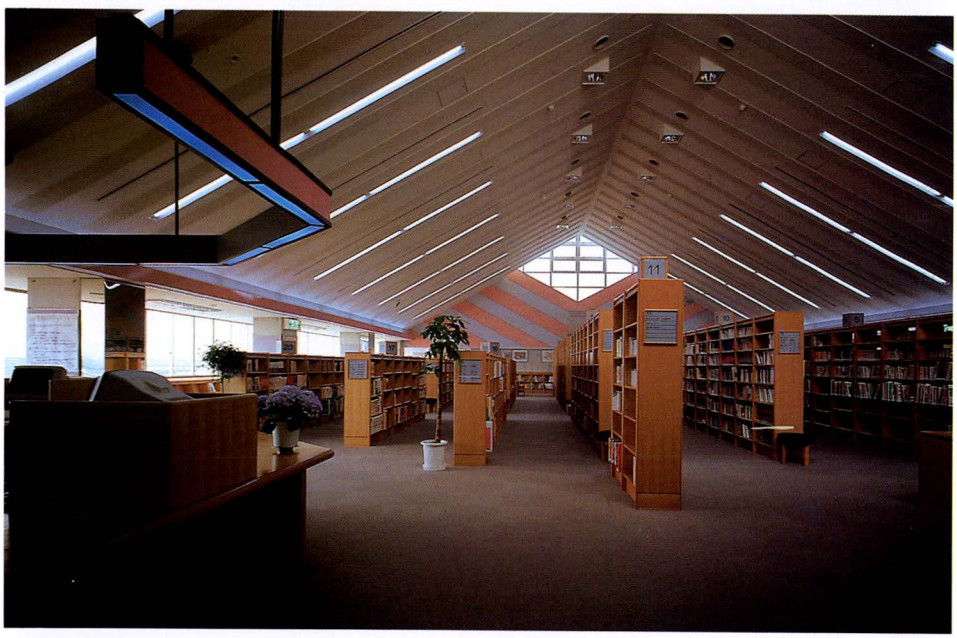
施設の中心である保健所は１階２階に配し専用の入口、階段を設けて単独にて機能できるよう配慮している。事務室・大会議室・管理諸室を１階に集め、２階には診察関係諸室を集約して配置をし、動線を明確にしていると共に、機能の分離を行なっている。

福祉事務所施設と図書館事務室・書庫は３階に配置している。４階には図書室を設け、無柱の大空間の中に、６万冊の開架書架として、フレキシビリティーを確保している。また、お話し室・カーペットコーナー等、独立性のあるレファレンスサービスを含むオープン形式の図書室として、明るく開放的なスペースをつくっている。

複合施設の特徴でもある、機能的充足を留意する中で、地元の祭りをモチーフにした大型陶板レリーフ、メルヘンでファンタジックな影絵（藤城清治氏作）の展示は、やすらぎと親しみを感じさせる複合施設となっている。

今後、地域のシンボルとして、また地域の活性化と歴史都市堺にふさわしい建物として、新しい時代に向けて末永く活用されることを願うものである。

（四方　健／大建設計）



4階図書室



2階待合ホール

宅建ハウジング本社社屋

設計監理　創美設計
施　　工　三陽建設

所 在 地　枚方市南中振1―2189―2・他
敷地面積　1,138.57㎡
建築面積　414.32㎡
延床面積　1,967.43㎡
構造規模　RC、6F
工　　期　昭和63年8月～平成元年6月
最 寄 駅　京阪本線香里園駅

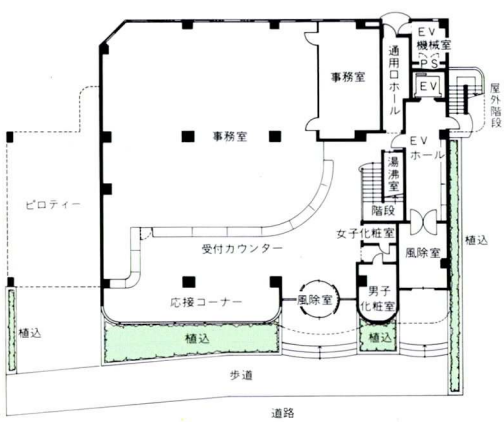
撮　　影　島　修一

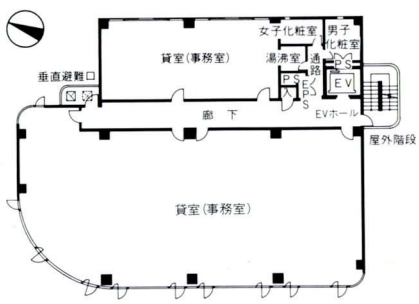

西面外観


1階受付カウンター

この建物は建築総合ディベロッパーを業務とする株式会社宅建ハウジングの事業拡大に伴い新築された本社事務所ビルで、一部をテナントの賃貸用として計画されたものである。
建設地は、衛星都市の京阪沿線の中でも発展を続ける枚方市香里園の駅前に近く、常に、地元とともに発展を続けるオーナーの意図を十分にうけいれる事のできる絶好の位置にある。
前面は、地方幹線道路に面し非常に交通量が多い。そのため、施主の理解を得て民地内歩道を設置する事により歩行者の安全を図ると共に、前面空地、民地内歩道に植え込みを設ける事などにより一層の余裕が生じ、建物のレベルアップに貢献したように思える。
ファサードは、アルミの一次電解発色パネルとし、高性能反射ガラスの組合わせにより、存在感と透明感とを強調し、全体に曲面をつかうことにより、威圧感を感じないよう近隣との調和を図った。
室内についてはベージュを基本色とした大理石を使い、接客部カウンターについてもできるかぎり低くするなど、親しみ易い空間をつくることに留意した。
建物奥には機械式の駐車装置を設け、来客用、業務用にも十分の台数を用意することにより、前面道路での不法駐車等による通行の支障を来さないように努めた。
また、テナント用賃貸部分については、独立した玄関を持ち、24時間利用できる設備等を装備するなど、将来のニーズにも十分対応可能なオフィスビルとなっており地元企業の活躍による発展の一翼を担えれば幸いである。(御厨千尋／創美設計)

外装アルミパネル	キョーエー
鋼製建具	昭和鋼業
石	宝石材
外装硝子	テクノソーラ
電気	米沢電気工事
空調	田丸産業
硝子	ケーエム





1階平面図(左)・基準階平面図(右)　1：500


北西面全景



北西面見上げ

外観見上げ

外観見上げ



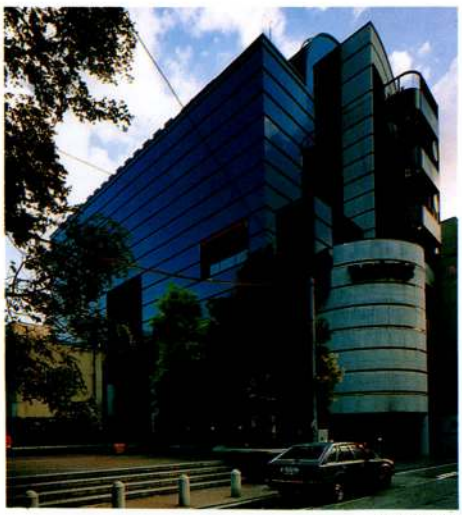
1階エントランス

ブルータスビル

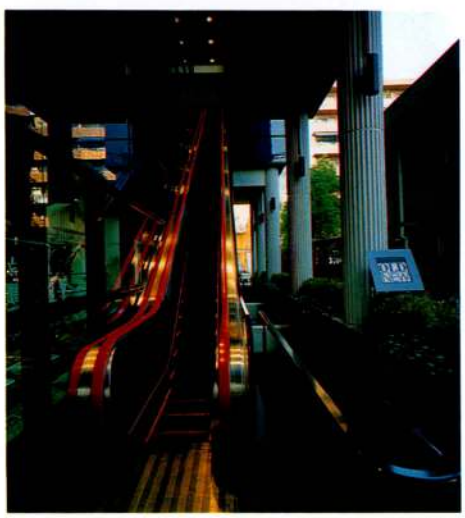
設計監理　安井建築設計室
施　　工　前田建設工業

所 在 地　大阪市中央区西心斎橋2－11－30
敷地面積　518.30㎡
建築面積　431.39㎡
延床面積　2,680.37㎡
構造規模　SRC、B2F、6F
工　　期　昭和62年12月～昭和63年11月
最 寄 駅　地下鉄御堂筋線心斎橋駅

撮　　影　庄野　啓



外観北東面



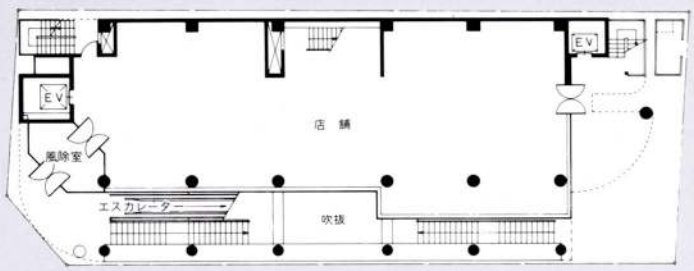
エスカレータ廻り（北側）



北面外観

アメリカ村の煩雑な発展の中に核を創りだすのが我々の目的である。当該地は、昭和53～54年頃から、アミーバの如く有機的に展開されて此の地域に活力を生み出して来たが、これといった方向指示をもたないまま今日に至っている。
現況に新しい指針と節操を与えたいと思考するもので、関西新空港の開設に伴う湊町周辺の開発と併せて新しい地域に生れ変わる日もそう遠くない。御堂筋を挟んで確実に商業圏も拡大されており、現に南中学の跡地の建設計画や、四ッ橋筋周辺の計画も進められている中に、小さな公園を持った此のビルは、今日も若者と共に活気に溢れている。

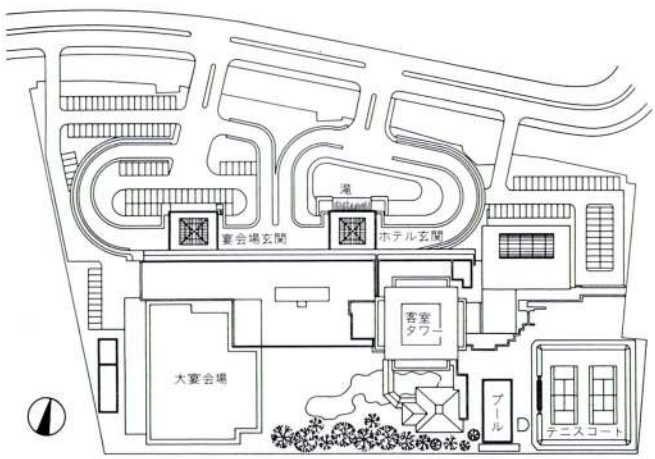
（安井忠生／安井建築設計室）



1階平面図　1：400

ホテルオークラ神戸

設計監理　観光企画設計社
施　　工　鹿島建設･大成建設･大林組･野村建設工業JV



配置図　1：3000



西面外観



所 在 地　神戸市中央区波止場町48
敷地面積　30,944.00㎡
建築面積　12,861.13㎡
延床面積　64,456.61㎡
構造規模　SRC、S、B2、35F、P2
工　　期　昭和62年３月～平成元年４月
最 寄 駅　JR東海道本線元町駅

撮　　影　アンコール　島　修一

ここメリケンパークは、開港以来 120年余の歴史を持つ神戸港発祥の地「メリケン波止場」がウォーターフロント計画で生まれ変わった地であり、北に六甲山系、南には瀬戸内海と、素晴らしい景観に恵まれている。

当建物は21世紀における、近畿圏最高の国際コンベンションシティを目指す、神戸市の開発構想の一翼を担うホテルとして生まれた。

外壁は、全体を周囲と調和させた白色の山型二T掛けタイルとし、北側エントランス正面は、黒御影の中に金色のアルミキャストグリルを嵌め込んだ、重厚なデザインとなっており、高級ホテルとしてのイメージを印象づける。

高層部は、６階から33階までが一室30～40㎡と、ゆとりある客室 489室からなっており、どの窓からも景観が楽しめるよう、東西南北にレイアウトされている。34，35階のトップフロアーには、宴会場とラウンジ、レストランが配置され神戸の夜景を眼下に眺めながらの食事は、当ホテルのもう一つの売りものである。

一方、１階から５階までの低層部は、全床面積の約半分を占め、シティホテルとしての諸機能を備えている。

特に2,100㎡と、西日本で最大級の大宴会場は、国際コンベンションシティにふさわしく、同時通訳設備を備え、2,500人の収容を誇る。

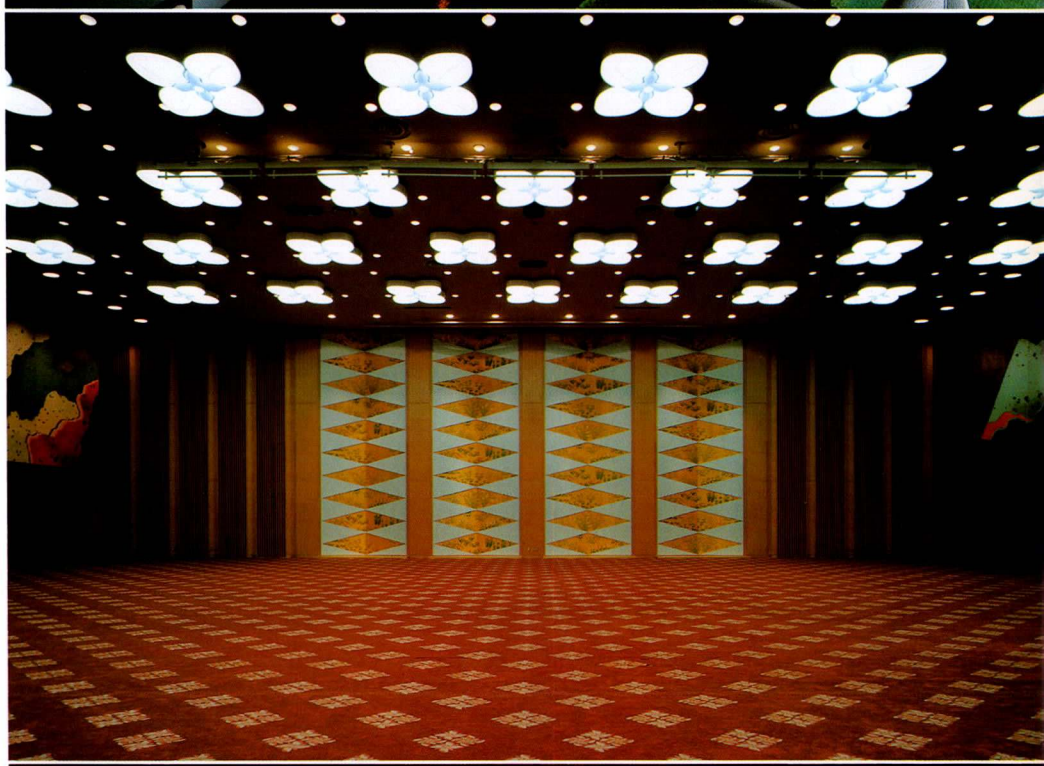
他に15の中小宴会場、結婚式場、ホテルオークラの格調を持つ各種レストラン、１階南側には、700坪の和風情緒豊かな日本庭園に囲まれた、和食離れがあり、静かな佇まいを見せている。

ロビー、宴会場、レストランの内装は大半が桜の練付材を使用しており、寛いだ気品のある空間をかもし出し、訪れる人の気持を和ましてくれる。

併設されたヘルス棟には屋内プール、ジムナジアムを備え、またロビー階にはビジネスコーナーや文化教室を備えるなど、情報化時代に対応している。

オープン後は、港神戸の新名所として、多くの人々に親しまれ、繁栄していく事を願っている。







上　ロビー・ラウンジ
中　大宴会場(平安の間)
下　ホテルエントランスロビー



静岡クレセントホテル

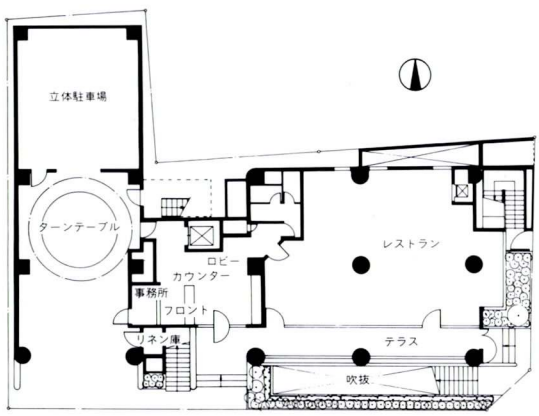
設計監理　安井建築設計室
施　　工　藤木工務店

所 在 地　静岡市紺屋町14-2
敷地面積　418.84㎡
建築面積　296.24㎡
延床面積　2,108.36㎡
構造規模　SRC、B1、7F
工　　期　昭和62年9月～昭和63年10月
最 寄 駅　JR東海静岡駅

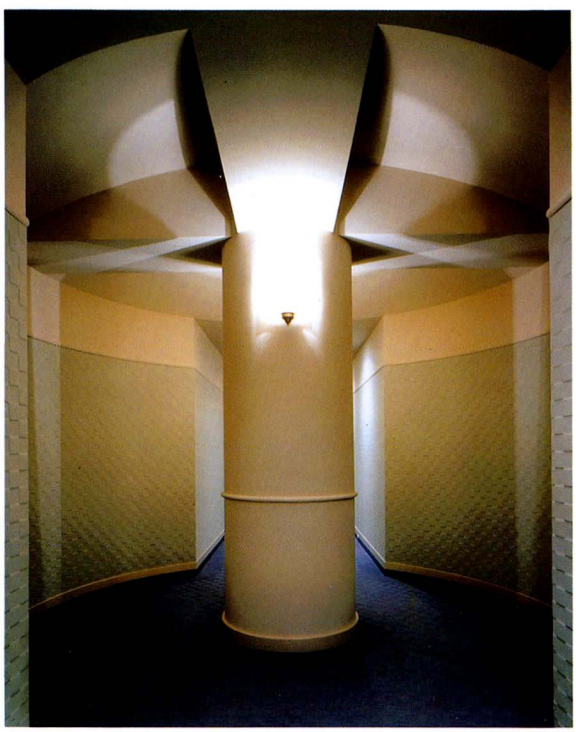
撮　　影　庄野　啓

都市の大型ホテルは、大体、体質を同じくしていて、宿泊、宴会ショッピングアーケードの類いが並び、個性（キャラクター）に乏しい点で共通している。
ここに存在を見たのは、ヨーロッパ各地に愛顧されるミニホテルであるが、人間の心情に合せた宿泊（愛される部屋）であり、親近感のある情緒である。
シックなウッドのエントランスロビーとテラスレストラン、部屋はイタリアのベッドとファブリックで構成された僅か40室が、一晩の旅の印像を刻んでくれる様にとの願いから計画したものである。
男女を問わず宿泊が快適であることに越した事はないし、行き届いたサービスが必要である。
あくまで愛されるホテルとして、育って欲しいと願っている。
（安井忠生／安井建築設計室）





1階平面図　1：400



廊下



テラス

LEE PLAZA

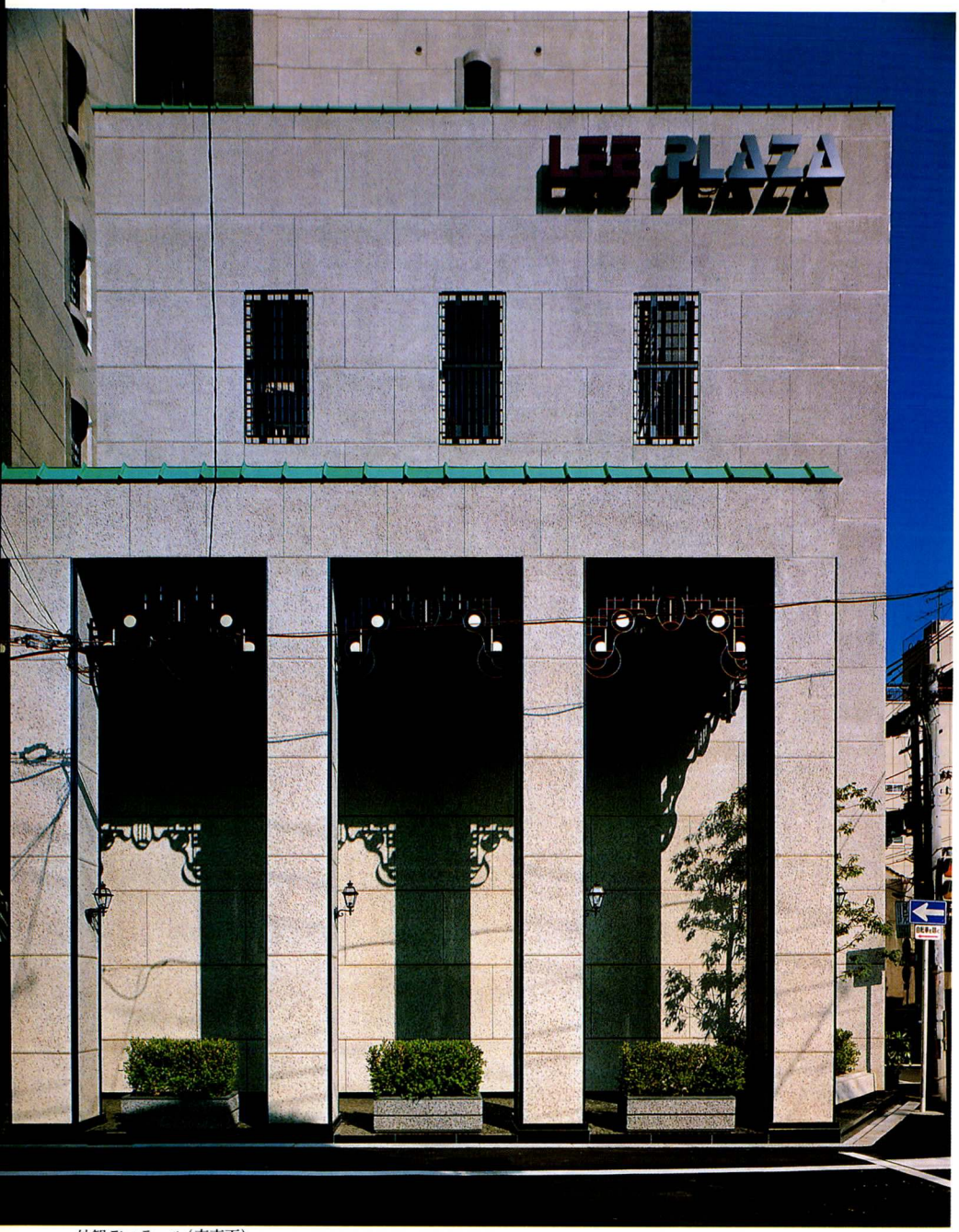
設計監理　安井建築設計室
施　　工　大成建設

所 在 地　大阪市北区西天満4−3−12
敷地面積　491.76㎡
建築面積　317.67㎡
延床面積　1,967.03㎡
構造規模　SRC、9F
工　　期　昭和63年4月〜平成元年7月
最 寄 駅　地下鉄御堂筋線淀屋橋駅

撮　　影　庄野　啓

中之島周辺の整備と共に、計画道路(本庄・西天満線27M)老松町の通りをかすめて、国道2号線に通じる。
高等裁判所周辺に点在する弁護士事務所に焦点を合わせた賃貸ビルである。
敷地が異形であるためにツインタワーでフロアを2分して、中央にエレベーターを設置した計画は道路前面に容積を使い、後部に立体駐車場と吹抜を採用して、建物の道路側からのスケールを組みたてた事に成功していると思う。
老松通りが、カラー舗装(道路)される計画もあり御堂筋から中之島の公会堂、東洋陶磁美術館に通じる道は、美術商や画廊も多く伝統的な街区である。新名所になるのを期待している。

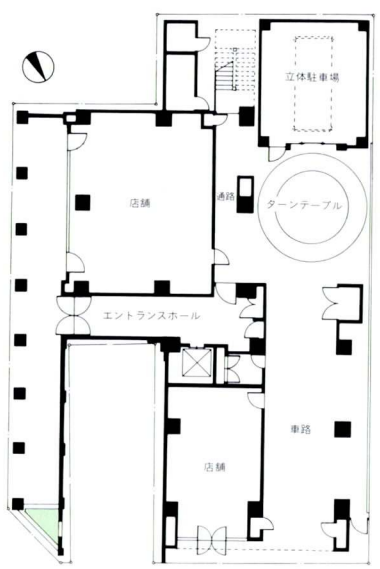
(安井忠生／安井建築設計室)



外観ディテール(南東面)



遠景



1階平面図　1：400



南東面見上げ



エントランスホール見上げ



エントランスホール見下し



エントランスホール

Walking —建築家おすすめデートスポット—

Wのページ「Walking」のコーナーは素敵な設計をされる建築家の諸先生方に秘蔵のデートスポットを「発掘」していただこうという試みである。

第1回の高口恭行氏の「D-ホテル」でおわかりのとおり、やはりユニークな観点で、ガイドブックにないデートスポットの発掘が大いに期待できそうである。



中央公会堂

昔も今も、そして銀婚式のときもやっぱり中之島



太田隆信氏に聞く　（協力：東洋陶磁美術館）

第2回デートスポットの紹介者は、㈱坂倉建築研究所取締役大阪事務所長太田隆信氏である。

ほぼ待ち合わせの時間どおり、氏は涼しげなブルーのスーツとロマンスグレーの髪に、穏やかな笑みを浮かべて来られた。

今回紹介してくださるデートスポットは、大阪市北区にある中之島公園である。

大川が、堂島川と土佐堀川の2つに分れ、船津橋で合流するまでの間が中之島であり、そのうち淀屋橋の下から天神橋近くまでの一帯が中之島公園となっている。一帯には桜、バラなどが植えられ、四季折々に美しい花を咲かせている。

私たちは、今回ご紹介くださる場所が、この既に有名なデートスポットである中之島公園とお聞きした時、本取材の目的である「発掘」が生かせるだろうかと少し不安になった。

私たち取材陣は、太田氏と夏の風景になった川沿いを散策しながらお話を伺った。

「家族に今回の取材で中之島公園を紹介するつもりだと言ったら〝ありふれてる〟と笑われましたよ。

まずデートスポットと言ってもね、『デート』とは今の言葉ですよ。僕らが若かった昭和30年頃は、何んていったのだろうか。ランデブーといえば戦前の言葉だし、昭和20年代はそのような言葉すらない時代だったのかなあ。それがようやく落ちついてきて、少したつとデートの時代。そんな頃かなあ……。

心斎橋の『プランタン』でお茶を飲み、朝日新聞ビルにある『アラスカ』でワイングラスを傾けつつ食事をする、あるいは中之島公園を散歩する、というのが僕のイメージのコースかなあ」（村野藤吾の『プランタン』は当時流行した中2階席を最初に設けた喫茶店であり、『アラスカ』は昭和6年、朝日会館10階で関西初の西洋料理の本格的レストランを開いた）。

生まれは台湾だけど大阪で育ったという氏は、この中之島公園が「安らぎの場」であるという。

歩いていると、道の傍らで数人の人が中央公会堂の油絵を描いている。

「中之島は、緑の少ない大阪の中にあるポケットパークと言うのかな、とても美しい、緑の豊かなよい風景なんですね。昔はちょっとした家の応接間なんかには、必ず中之島公園の油絵があった



中之島公園を歩く

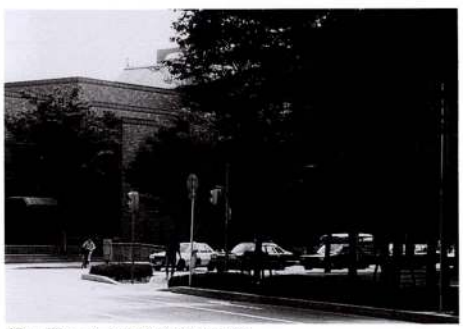


同上



同上


日本銀行大阪支店


緑に囲まれた東洋陶磁美術館


川辺の景観

もんです。

これは、古くから長い年月をかけて、大阪の人が少しづつ緑を増やし育んでいったもので、日本のウォーターフロントのはしりと言えるんじゃないかな。子供の頃は中之島へつれてってもらうのがうれしかった。

太田氏は目を細め、懐かしそうに語られる。その言葉の中には、深く大阪を愛する心が感じられる。

が、その「よい風景」であった中之島も、古びている、美しくないと、一時はイメージダウンした時期があった。

しかし、時代の移り変わりと大阪市の努力で、中之島は今、新しい顔になりつつある。

市庁舎は新しく建て替えられ、島とその周辺には中之島中央公会堂をはじめ、東洋陶磁美術館、府立図書館や数々の店舗など、保存・修復・新築により様々な時代を語るスポットが点在し、歩いて楽しいエリアになっている。

「大阪は京都、神戸と違い、デートをする場所というイメージが薄い。これはマナーの悪さによるものでしょうね。マナーをよくし、美しくすれば、大阪はもっとイメージアップするでしょう」

氏は、中之島を含めて「大阪」自体をアピールしていきたいと言われた。

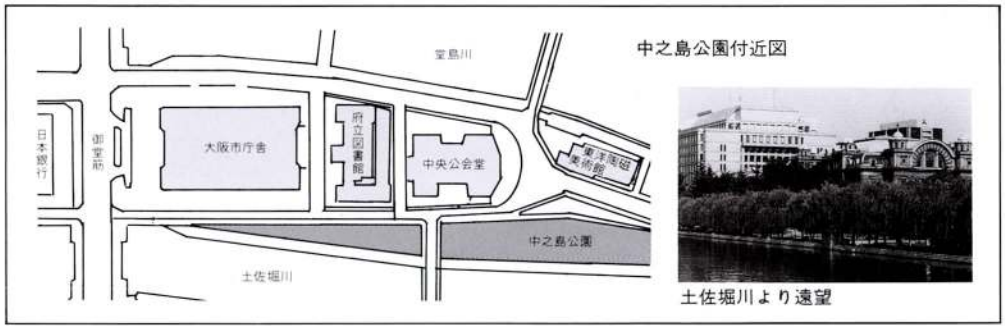
大阪の人は、中之島公園の中に、大阪の良さを再「発掘」してほしい。そして、他の地域から来られた人たちにも、この良さをアピールしたい。

「中之島公園は、今若い人たちだけでなく、全ての人たちに歩いて欲しいし、5年後、10年後、例えば銀婚式の時にも、ぜひもう一度歩いて欲しい場所ですね。きっとその頃には、その頃なりの趣があるんじゃないかな」

時代の流れとともに変わってゆく中で、その良さが失われていく場所も少なくないが、中之島はずっとそこに存在し、時代の良さを出していくだろう。

夏の、少し暑い風が吹く中で、何人かの若者が木陰のベンチでくつろいでいた。

この場所は、本当に息の長い大阪の顔であり続けるだろう、という思いが私たちの胸の中に残った。



中之島公園付近図

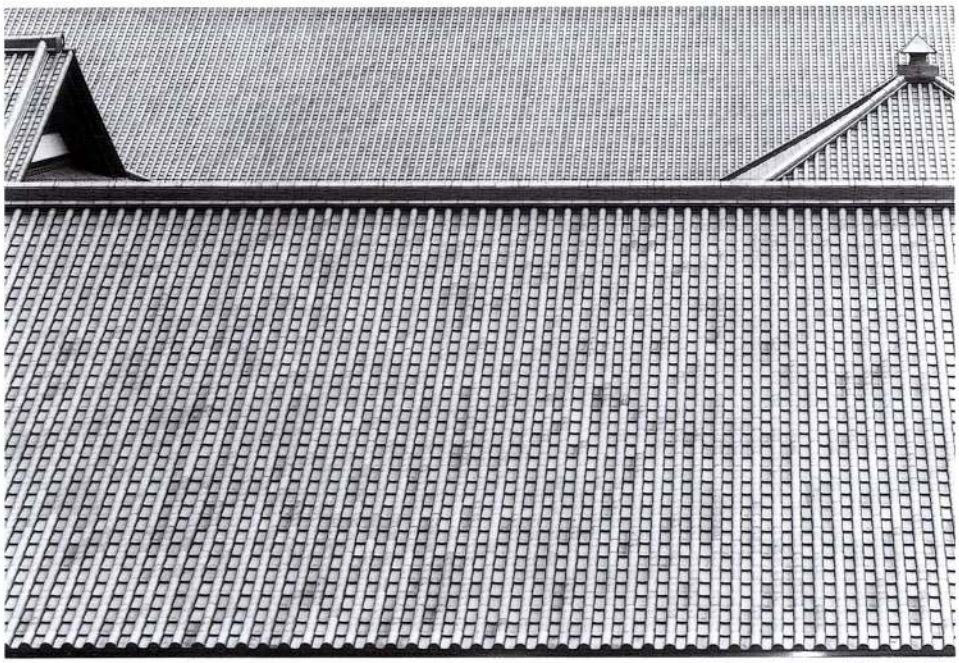
土佐堀川より遠望

と　き　平成元年7月12日
ところ　大阪・中之島公園
企　画　会員企画小委員会
Director　T. AKIKO
I. YUKO
S. YUKIKO
Photgropher　K. IMAI

写真展・現代建築と伝統技術－石野瓦工業の仕事－

日時　1989年 9 月 5 日(火)～ 9 月17日(日)　A.M.11：00～P.M.7：00　月曜休廊

場所　アートスペース虹　075－761－9238　京都市東山区三条通けあげ(都ホテル西隣)



天野山C.C.クラブハウス(写真：東出清彦)

原風景としての瓦屋根

村松貞次郎(東京大学名誉教授)

私が東大の建築学科に入学したばかりのころには、教室の三階、中庭をめぐる廊下廊下のガラス・ケースに古瓦の標本がずらりと並んでいた。伊東忠太・関野貞の両先生が蒐集された、いずれも由緒正しい逸品ばかり。その瓦当（がとう）の蓮華文の花弁を稚い目で七・八・九と数えたり、蕊（しべ）の大・小を比べたり、華やかなもの素朴なものの違いに在りし日の古代の伽藍を想像したりした。すごい所に入学してしまったと、身も心も引きしまる思いを抱いたことを、今もって懐かしく覚えている。私の建築学の入門第一歩は瓦から始まったのである。

甍（いらか）の波と雲の波

……

高く泳ぐや、鯉のぼり

文部省唱歌のあの爽やかな風景は、まさに日本文化の原風景である。利休鼠の屋根瓦の重厚さと薫風の軽やかさ、鮮やかな色の対比、日本の文化を絵にしている。絵と言えば、日本画家・福田平八郎の「雨」と題した作品(1953年)。なんでもない桟瓦葺の屋根の一部を大胆に拡大しカットした構図。夏の陽ざしに焼けきった瓦の上に、通り雨か、パッパラッと水滴が落ちている。微妙な時間の推移を示す雨痕の濃淡、機械的に葺かれているようで、なお葺き手の息づかいと手の痕と心の変化を示している瓦の線。天象、物象、心象を見事に描ききった瓦の絵の名作と私は独りで思い込んでいる。

大陸起源の瓦を、日本の瓦土と葺き職は、千数百年をかけてすっかり日本のものにしてしまった。端正でしかもふくらみのある瓦屋根は、日本の職人の一途さを示して、少しのだらけもない。奈良の三輪そうめん山本の事務所建築を拝見した時、改めてそれを感じた。後に、その瓦屋根も十三代・三百年の伝統を誇り、数々の国宝・重文の建築の屋根を葺いてこられた石野瓦工業の仕事とうかがって、なるほど、流石と腑に落ちたものである。

INAXギャラリー大阪企画展「遠藤新展—生誕100年記念—」

会期　1989年 9 月 5 日(火)～10月30日(月)
A.M.10：00～P.M.6：00　会期中無休

会場　INAX大阪ショールーム２F
大阪市西区新町１－７－１

旧甲子園ホテル(西宮)



「エッフェル塔100年のメッセージ」を大阪・阪急百貨店で—9月25日には講演会も

「エッフェル塔100年のメッセージ」は、いよいよこの９月の大阪を皮切りに４カ月にわたって、群馬、東京、岩手を巡回することとなった。

エッフェル塔建造100周年を記念するこの展覧会は、エッフェル塔の多面的な実像と虚像を総合的に捉え直すことをねらいとし、建築図面、模型、写真資料、1889年当時のモード、エッフェル塔を描いた巨匠たちの絵画、ガラスや金属などによるエッフェル塔の工芸ミニチュアなど、きわめて多岐にわたる展示内容で構成される。

■会期・会場

1989年 9 月22日(金)～ 9 月27日(水)
工芸品・絵画等約300点　大阪・阪急百貨店
入場料：大人800円、大学生600円、中高生400円

〃　9 月30日(土)～11月 5 日(日)
高崎・群馬県立近代美術館

〃　11月18日(土)～1990年 1 月28日(日)
東京・東京ステーションギャラリー

〃　12月 9 日(土)～12月26日(水)
盛岡・岩手県民会館

■展覧会構成

Ⅰ部　エッフェルとエッフェル塔
エッフェル塔が出来上がるまで。ギュスターヴ・エッフェルの仕事を振り返る。

Ⅱ部　1889年エッフェル塔のパリ万博
1889年のパリ万博の熱気を再現。モーパッサンやデュマ・フィスなどの知識人からのエッフェル塔建設反対や、パリ万博におしかけた群衆を捉え、世相・風俗をモードや写真、工芸品などから見る。

Ⅲ部　画家たちのエッフェル塔
エッフェル塔を題材とした絵画・版画・写真・映像を展示。ドローネー、シャガール、デュフィ、ユトリロ、ピュッフェらの名作。

1900年パリ万博の全景



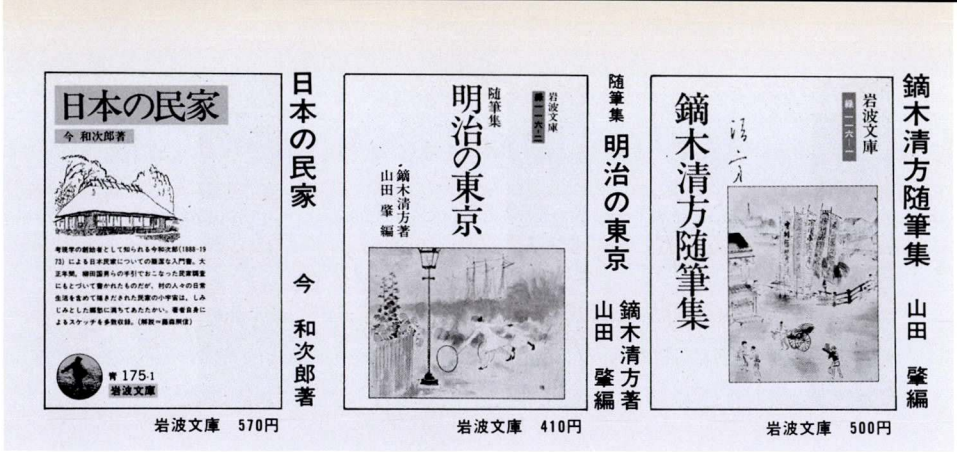
なお、上記催しに因み、(社)日本建築構造技術者協会関西支部設立を記念した講演会も開催される。詳細と申し込みは同協会関西支部事務局（川崎建築構造研究所　06—231—3112）へ。

と　き　1989年 9 月25日(月)　16：00～18：00
ところ　東洋ホテル『葵の間』(大阪市北区豊崎3-16-19)
テーマ　**塔の思想/原広司**(東京大学教授)
塔のテクノロジー/金多潔(京都大学教授)
定　員　150名（入場無料・先着順）

書評

文庫3題

太田隆信



岩波文庫で、今和次郎先生の『日本の民家』が出版されるという。3月末の新聞広告を見て、すでに読んだ本、所蔵している本ではあるが、ついついほしくなってしまう。PP〈ポリプロピレン〉の薄膜はりつけの表紙カバーは、一見野暮なようでしゃれている。この本の場合はきっと今先生のスケッチなんだろうな…等と考えはじめるともう止まらない。さりとて、いますぐにというほどでもなく、何かのついでに紀伊国屋へ寄ったのは4月初旬、驚いたことには『日本の民家』売切れ。名著ではあるが地味なこの本が売切れとは…。こうなると、どうしてもほしい。その月の終りにようやく入手。文庫本一冊の割にはおおげさな話になってしまったが、私の本は第2刷であった。ついでに、カバーの美しさにひかれて、やはり岩波文庫の鏑木清方著『明治の東京』と『鏑木清方随筆集』を買う。梅雨の候から初夏へ向って、おりにふれ、この3冊をひもどく。いずれも涼を呼ぶ、ひさかたぶりのすがすがしい読後感であった。

『日本の民家』カバーは、想像どおりのしゃれた感じ。買ってはみたものの再読のつもりはなかった。ハンディな本だから手元に置いて、ごくたまに、今先生の達者なスケッチを楽しもう、そんな気持でカバーのコピーを読む。解説の藤森照信さんの名前が新鮮、19頁のちょっとした論文。これだけは読もうと頁をめくる。

藤森さんの解説は、これ迄の今和次郎論とは一味違った切口が興味深い。すでに『日本の民家』を読まれた方もこの解説は是非読んでほしい。解説にひかれて、本文を再読、カバーの「考現学の創始者として知られている今和次郎(1888～1973)による日本民家についての簡潔な入門書。大正年間、柳田国男らの手引でおこなった民家調査にもとづいて書かれたものだが、村の人々の日常生活を含めて描きだされた民家の小宇宙は、しみじみとした郷愁に満ちてあたたかい。著者自身によるスケッチを多数収録。(解説＝藤森照信)」というコピー以上の説明を、あらためてこの名著に加えようとは思わない。然し、頁をめくるにつれ感じた今先生のやさしさ、慈くしむような眼差し、そしてなによりも、水平に物事を見る目、その天衣無縫・純真としか言いようのない姿勢に頭のさがる思い。建築家・研究者・学者等を志す者は、本来こういう観点でものを見る目が必要、そんなことはわかりきったことでありながら、現実にはそれがむつかしい、いや、そんな視点でものを見る目がしだいに失なわれつつあるのではないか。

今先生の本を読むたびに、いつも同じ思いにかられるが、叱られる・激励されるという感じではない、もっと自然な雰囲気である、だからよけいにしんどいが、しみじみと勇気づけられるものがある。何故……、藤森さんの解説は、そのあたりのことを、現在の視点で、明確に論じている。その視点がすばらしい。今先生と藤森さんの視点が同じ高さである。この項、あえて説明させていただくとすれば、"日本の民家"について書かれた最初の本である今先生のこの本の特長は、「民家という存在を小宇宙というか全体として記述したことだろう」「地理、家屋、生活、人間、それらの関係を明快に解きほぐしながら、それ等が一緒になって生れてくる全体性を描く」ところが、「このような民家の記述は、それ以後の民家の研究からは現われてこない」それどころか「単純に言ってしまえば、今和次郎は、その後の民家研究の中で孤立してゆく。彼のやり方の特質は、民家を一つの全体としてとらえようとしたことで、つまり民家という〈器〉を生活という〈中味〉と不可分のものとして描こうとしたわけだが、ここが無視されてゆく」藤森さんの解説からの引用が長くなってしまったが、今日、『日本の民家』を読むことの意義はこの一点にあると言っても過言ではない。今先生の時代、それは大正デモクラシーの時代であった。その後の民家研究の進路は、その後の日本の進路とオーバーラップしてゆく。民家研究だけではない、建築全般に、いや、社会全体に今先生の視点が失なわれてゆくのが、それ以後の時代の流れであった。昨今、ようやくそういった傾向を反省、新らしい作法を模索する時代になりつゝある。それが21世紀へ向けての新たな展望等とラップして、ちょっとしたブームでもある。

藤森さんは、そういったブームとは関係なく、今先生の視点に独自のルートで到達された。さらに先へ進もうとしておられる。建築を越えて多くの分野の人々が、藤森さんの視点に共鳴しているが、これを一時のブームに終らせることなく、今度こそは、大切に拡げてゆかねばならない、続けてゆかなければならない。すでに『日本の民家』を読まれた方も，この解説だけは読んでほしいなどと書いたが、やはり、本文も読んでほしい。そして、この暑い夏にこそ考えてほしい。

『明治の東京』『鏑木清方随筆集』共に、カバーにひかれて買ったようなものだが、鏑木清方さんの視点が、今先生の視点と重なって興味深い。2冊共に東京を中心に著者の生活を綴ったものであるが、『明治の東京』は、明治、それも舞台を東京も下町を中心に、郷愁を誘うエッセイを収録、「随筆集」の方は、元旦から大晦日まで、春夏秋冬四季折々の風物への想いをつづって、明治から昭和へと、話題の幅も広がっているが、テーマはやはり東京である。明治の東京語・明治以来東京の名物・名物無名物・甘いものの話等、常日頃、何となくうろおぼえに、勝手に、江戸のもの・東京のものと思っていることどものルーツがさりげなく書いてあったり、ちょっとした発見が楽しい。明治の東京語のなかに〝異人館〟をみつけて少し驚いた。東京にも、築地に居留地があったのだ、『明治の東京』に、この居留地のことは幾度かテーマとして登場、今となっては貴重な証言である。

すっと現代に飛んでしまうが、まだ若く、これからが本番の直木賞作家、杉本章子さんの『東京新大橋雨中図』『名主の裔』等にも同様な読後のすがすがしさを感じたことを、ふっと思いだした。そのことはさておき、本誌の読者の大半が関西在住の人々であることをふまえて、あえて辛口の発言をさせていただく…。こういったテーマの好エッセイを読む度に、大阪にも同様な好随筆がないものかと頑張って探し求めたこともあったが、昨今はこの種の好著のないのが関西、わけても大阪と、ややひらきなおった気持である。地盤沈下、特に文化的な基盤が弱いということは、こういったエッセイの生まれる余地がないこと、このあたりの大阪の状況・風景をしかと反省しなければいけない。繰り返しになるが、好エッセイがないのではなく、エッセイの生まれる社会的基盤がない、これは大変なこと、ちょっとやそっと、小手先の細工でどうこうなるものではない。そう認識したうえで、それでも、なお、大阪に生きてゆくあなた、大阪を愛するあなた、ひとりひとりが、いまなにをなすべきか、といった設問にきちんと答えるところから、真の大阪再建はスタートするのでしょう。それは昨今話題になっているような華やかなものでも、浮わついたものでもなく、地道な気の遠くなるような努力、大阪に生き、大阪を愛する人々のみがなしうることではないでしょうか。

とんだ方向に、話しが暑くるしくなってしまいましたが…。

*

文庫3題等とややくだけて、結局は岩波文庫を3冊というのは、なんとも芸のない話だが、素直に面白かった。昨今の文庫本、ブームを越えて、毎月異常な量の新刊書が発行されつつあるが、量が多すぎるせいか、惰性で出版がかえってマンネリ化しつつある。そんななかで岩波はけっこう頑張っている、ユニークである。本屋さんへ立ち寄られたおりには、文庫本のコーナーを見ていただきたい。新刊のタイトル・カバーのコピーを眺めているだけでも、時代のトレンドがわかってくるような気がする。

(書評委員・坂倉建築研究所)

「'89海と島の博覧会・ひろしま」の紹介

熊野　勲

「'89海と島の博覧会ひろしま」が広島市のメイン会場他沿岸島しょ部23会場で、広域回遊型博覧会として７月８日から開催されました。メイン会場は、面積約24ha、ここで世界の海と島の魅力を疑似体験させ、広島県沿岸島しょ部の東西 100キロの海域で瀬戸内海を現代リゾートとして実体験させる計画である。このレポートでは、広島空港から大田川放水路を隔てた対岸に位置するメイン会場について触れてみる。

南北二つのゲートは、楽園への航海の入口として、ノアの箱舟を再現し、海のロマンロードのプロローグとして位置付けている。丘の上にあるゲートをくぐると会場の¼を占める広大なパラダイスオーシャン（人工の海）が広がる。海の上には、オーシャンクルーズのボート（40人乗）が行きかい、空には、高さ30ｍ長さ640ｍ8人乗りの青いスカイキャビンが見える。この海を取り巻くように世界の七つの海と島を楽園とみたてて配置し、楽園ごとに、パビリオン、飲食、遊具、休憩等の施設を配し、それぞれのテーマカラーを使ったメーンフラッグ（デザイン－福田繁雄）がはためいている。見学ルートは、メイン導線とは別に、海岸沿いに設けた「海のロマンロード」もある。

楽園ごとにポイントを紹介すると、

―情熱の楽園―

地中海をイメージさせるゾーンで、海辺は石浜で仕上げ、テーマカラーは赤である。北ゲート正面は、木の床を張った港を設け、その前の海中には、ポートモニュメントの「鯤」（中国の伝説上の魚、デザイン－栄久庵憲司）がはばたいている。また、シンボルタワーとして高さ44ｍステンレス鏡面仕上げの「パラダイスの塔」（デザイン－アレッサンドロ・メンディーニ（イタリア）＋小林裕美子）、七つのロマンロードレストパーク（デザイン－福田繁雄）の一つ望遠鏡を非日常的スケールでオブジェ化したマルコポーロレストパーク、青い波と白いしぶきを表現した高さ31ｍ延面積2,800㎡空気膜構造の「ビッグウェーブ」（テーマ展示館、設計－左高啓三）等がある。

―冒険の楽園―

カリブ海をイメージさせるゾーンで、海辺は砂浜で仕上げ、テーマカラーは黄である。ビーチ看視台、シャワールーム、パラソル、デッキチェアー等で海水浴場を思わせる水遊びのできる親水ビーチ、海が割れて道が出来る「ウォーターレインボーブリッヂ」、トスカネリの地図をオブジェ化したコロンブスのレストパーク、博覧会初登場のディスコ館、



「ビッグシェル」（設計　左高啓三）＋「夢アジア」（設計　元倉真琴）

復元遣唐使船を展示したパビリオン等がある。

―希望の楽園―

瀬戸内海をイメージさせるゾーンで、海辺は岩浜や砂浜で仕上げ、テーマカラーは緑である。自然への回帰をテーマとした日本初の木造二方向吊り屋根構造の「マーメイドボウル」（メインステージ、設計－葉祥栄＋フジタ工業）が海にまたがり舞台は水上、観客席の背後は傾斜のついた人工芝の広場を設け立見席にも使えるものとしている。また、玉手箱を結んでいた「ひも」をオブジェ化した浦島太郎のレストパーク等がある。

―発見の楽園―

エーゲ海をイメージさせるゾーンで、海辺はコンクリート護岸、丸太とロープの手すりで仕上げ、テーマカラーは紺である。海は、マリーナとしヨットやボート等が浮かぶ。南ゲート正面の白い木の床を張った港には、ポートモニュメント「愛と平和」（若い恋人達の一体像、デザイン－レイモン・ペイネ〈フランス〉）、水と光とを使ったビーナスのレストパークやプレイゾーン等がある。

―伝説の楽園―

南太平洋をイメージさせるゾーンで、海辺は砂浜で仕上げ、テーマカラーは茶である。砂浜には、巨大な貝殻の形をした鉄骨ラチス梁＋サスペンション膜構造の「ビッグシェル」（テーマ映像館、設計－左高啓三）や、地球儀をオブジェ化したマゼランのレストパークがある。また、対岸の発見の楽園を結ぶ「世界をつなぐ橋」（デザイン－サイトグループ〈アメリカ〉）がかかり涼感のあるすばらしい景観となっている。

―神秘の楽園―

アジア・太平洋をイメージさせるゾーンで、海辺を砂浜で仕上げ、テーマカラーは紫である。水際には、流れと渦を表現した「夢アジア」（設計－元倉真琴）が白い姿を見せている。新しいアジアを食事・物販・催事・展示で複合的に紹介するもので中には、日本建築協会会員でもある土屋壽満の導入部の深海のシンフォニー、テキスタイルのジョセフィーヌ・コマラ、ファションのドワンジット・ハウス、チョン・キジャ、ファティマー・アバン・サウフィ、イワン・チルダ、家具のプライ・マレーシア、絵画の徐建明、絹谷幸二、喜多俊之、小谷育弘氏等今、そして明日のアジアを代表する芸術家が新しいアジアの夢を持って集まっている。小高い丘の上には、怪鳥の卵をオブジェ化したシンドバットのレストパークがあり、ここからは、会場全体が俯瞰できる。

―創造の楽園―

北海・バルト海をイメージさせるゾーンで、浜辺は噴水を使った水遊びの出来る親水公園・木杭護岸・レンガ敷等で仕上げ、テーマカラーは青である。西ドイツからやってきたビアテントは、約 100年前に製作された二つしか残っていない貴重なアンティークテントで外壁にはアールデコ調の装飾が施こされている。又、女性の意見を聞いて女性デザイナーが設計した「レディストイレ」、巨大な靴をオブジェ化したガリバーのレストパークやプレイゾーンがある。

会場をぐるっとひと回りする道は、起伏があり、次の楽園がわからないよう計画され、他にも、随所に演出施設などを配し驚きや楽しさを感じさせる仕掛となっている。また、海に映る夜景も格別のものがあり、月～木曜日は午後９時まで、金～日曜日は午後10時まで、ナイトタイムとして割引制もあるので、納涼には最高である。

（くまの　いさお／財団法人'89海と島の博覧会協会会場計画課長）

VELUX®







自然の輝き、やわらかな陽ざしとさわやかな風、満天の星空、そして雨…
四季の自然が生みだす豊かなイマジネーション

ルーフウインドウ。
それは、もっとも贅沢なインテリアだ。

人々に「熟成したゆとりと深い味わい」を与える北欧の建築文化が生んだ、世界のブランド「ベルックス」。
厳選されたしなやかな天然素材のルーフウインドウが、自然環境に溶け込んだ快適な生活空間を演出します。

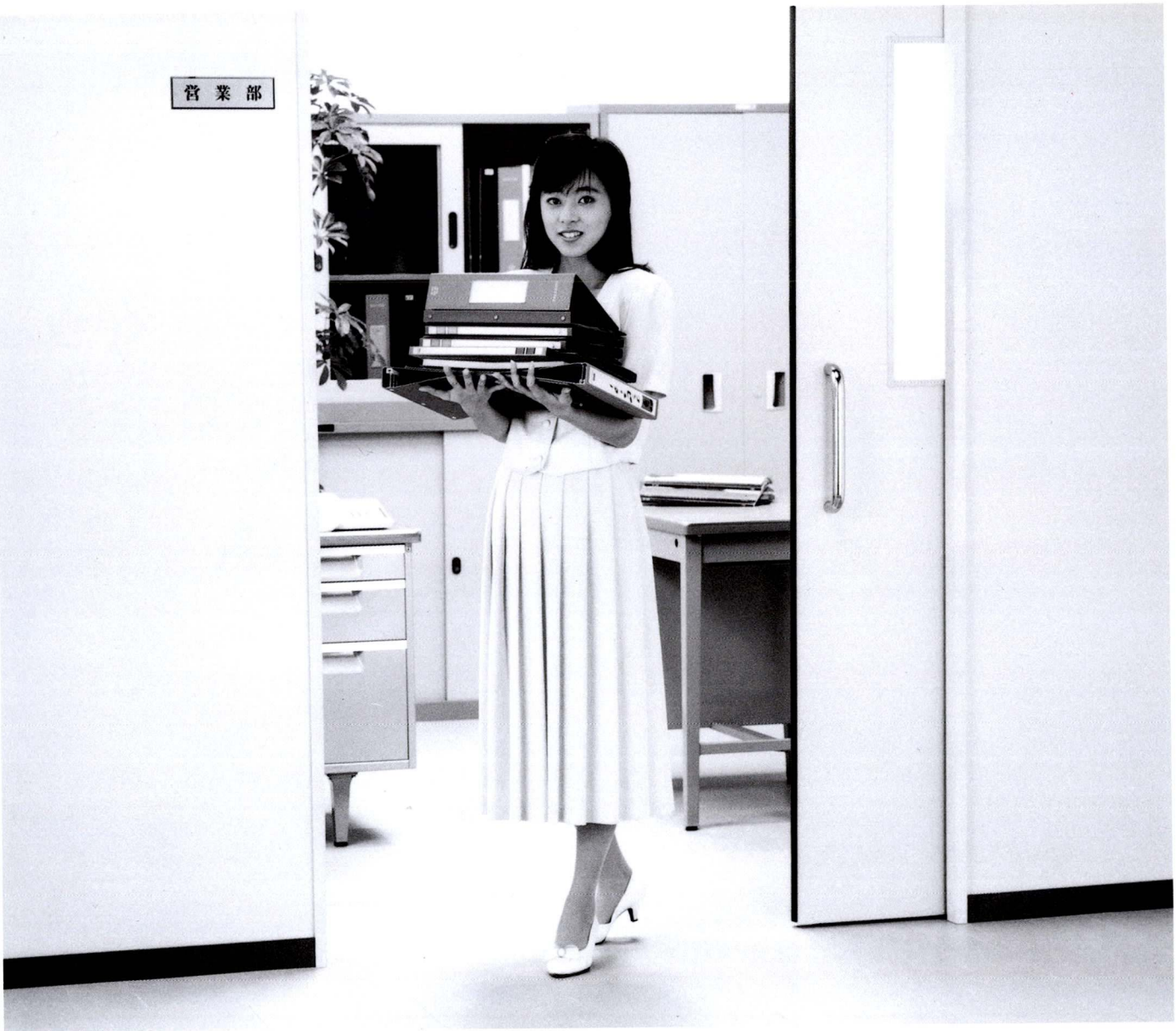
- ●あらゆる屋根材に対応。
- ●スウェーデン産パイン材、アルミ外装板で覆われた外枠。
- ●ペアガラスを標準装備。
- ●外側ガラス面の清掃可能〈中軸反転式〉。
- ●窓を閉めたまま換気が可能。
- ●ブラインド、開閉キットなどの多彩なオプション
- ●お求めやすい価格
  ￥48,000～￥101,000
  (雨押え、運送費、消費税込)。







VELUX 日本ベルックス株式会社
本社／〒150 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-8-14 ホアリーナビル3F TEL. 03(478)8141㈹
大阪／〒532 大阪市淀川区西中島3-10-13 物産ビル2F TEL. 06(300)5036㈹
札幌／〒003 札幌市白石区本郷通7南3-15 シティスカイコート2F TEL.011(864)4761㈹



より安全に……軽いタッチで……
便利さを追求した

NO.780-H(Heavy Duty)

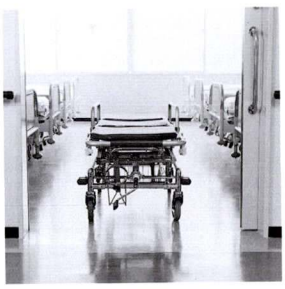
SDCシステム

Sliding Door Control(吊戸半自動金具)

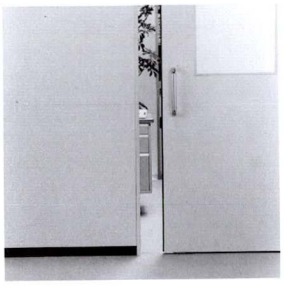
●フラットな床面
ハンガー式なので、床にレールが無くストレッチャーや、車椅子の出入りがスムーズでつまずく心配もありません。



●間口が広く取れます
片引きで有効開口幅1250㎜(標準寸法)取れる為、ベッドやストレッチャーの通過が楽にできます。



●ブレーキ装置
圧縮されたガスシリンダーがレール側に取付けたラックギヤとかみ合ってその反力を利用し、閉鎖速度を制御します。



BEST

DOORS & HARDWARE

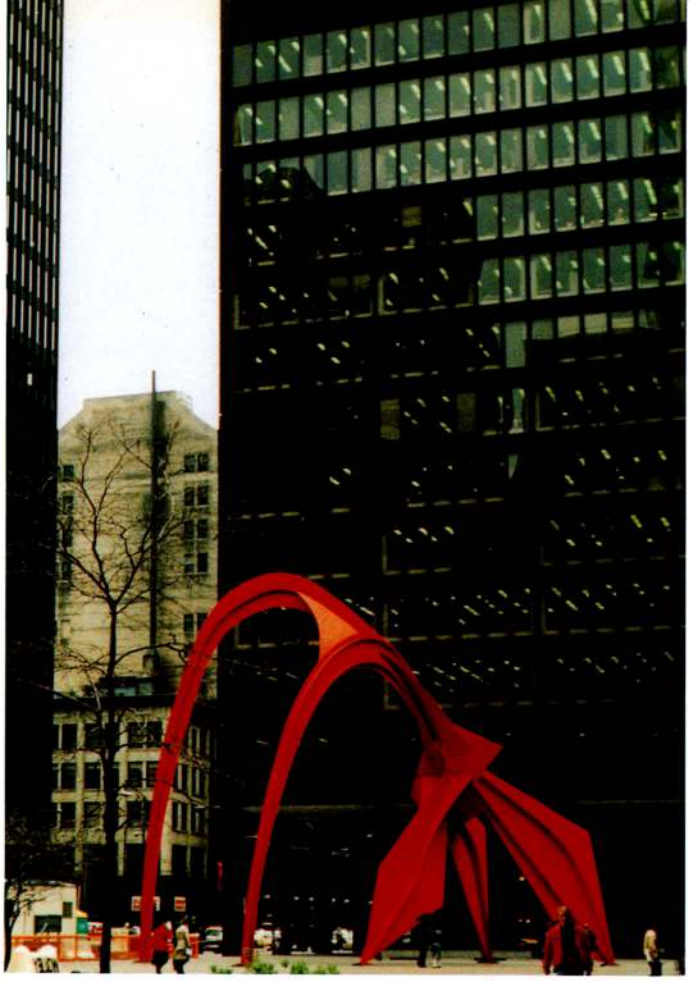
株式会社ベスト

●本　社　東京都千代田区神田紺屋町41
〒101　TEL. 03-257-7700

●大阪店　大阪市天王寺区上本町9-3-7
〒543　TEL. 06-779-7004

●ベスト青梅　東京都青梅市新町２２２０
〒198　TEL. 0428-31-7201

●営業所　神田店・西東京店・関東店



「フラミンゴ」カルダー作

特集
建築とアート



本特集企画・計画系―建築―分科会
加藤晃規、森田晴美、上杉秀隆、北村　潤、鳴田聖二、
庄野利博、西川純一、前川治彦、牧野由美子、三宅　淳、
山中恵子、山本　匡、矢野裕芳
本特集（扉、アート作品頁）レイアウト―牧野由美子

アート作品

八木マリヨ	彫刻	京のコスモス
吉田和央	彫刻	ROUND LAND
内田晴之	彫刻	POSITION
北山善夫	彫刻	まず、どう始めるべきか
高田洋一	彫刻	風の回廊
車　季南	彫刻	風
児玉康兵	彫刻	三想
山田幸作	彫刻	猪名川町立ふるさと館モニュメント
清水柾博	彫刻	WAVE MOTION'87
川島慶樹	彫刻	月と一羽と
曽我孝司	彫刻	動力質・柱IN GEN-YA
松井智恵	インスタレーション	ROGNOZZO
中西　學	オブジェ	偉大なるRockin' man
立花江津子	ステインドグラス	マリアのローザス
山口一城	ステインドグラス	サッポロビール園照明器具
草間詰雄	タペストリー	ランドスケープ
河崎晃一	レリーフ	然―Condition
中島一平	レリーフ	Card bord chips work vol.3

論文

方舟に集まった影たちの過去
―歴史からみたアートと建築の接点―
高橋幸次

建築とアートの関わり
―建築からみたアートと建築の接点―
遠藤剛生

「建築美術」の条件
―美術からみたアートと建築の接点―
今井祝雄

レポート

建築とアートの出合い―神戸国際会議場
田中直人

建築とアートを結ぶ媒体としての詩
―オフィスビルとスポーツメーカー研究所

プロデューサー紹介

西武百貨店つかしん店美術サロン
渡辺石彫事務所

資料提供
西武百貨店つかしん店美術サロン
AD & A
渡辺石彫事務所
天野画廊

建築とアート

八木マリヨ

京のコスモス

彫　刻

主な材料　玄武岩、黒御影石、ステンレススティール、グラスファイバー照明、噴水装置
建築名称　京都府総合見本市会館
所 在 地　京都伏見区竹田中島堀端町
最 寄 駅　近鉄竹田駅

私の環境芸術は、ときとして建築、造園、土木修景、地域計画にまで拡がります。
宇宙・地球・その生命の力・不界議なる世界・神秘と源泉（エネルギー）から、この美しい磁場を創り出す試みです。この美を、美しいと感じること、その感じたことを手のひらで、やわらかくあたためることは、人間の精神、生き方に大きな影響をおよぼします。このように、人間の精神を高揚し、精神面での快適さを生みだすために、象徴的に空間表現することが、環境芸術の役割と考えています。
ハイテックな都会の中で、風・光・水・土がいかに神秘的な力を秘めているか……地球の果てしなさを感じとれるような、環境彫刻が私のテーマです。　（八木マリヨ）

1970年　京都市立芸術大学環境デザイン科卒業
縄彫刻パフォーマンスを手がけ、地域計画から環境彫刻を制作。国内および国外の展覧会に選抜、巡回。スイス、メキシコなど美術館に所蔵多数。
1973～1976年　環境照明器具「ガルボシリーズ」開発、イタリア・グッドデザインに選定
1986年　カナダ・バンフアートセンター、カナダ政府客員芸術家
1988年　カナダ・コンコルディア大学客員教授

〔主な仕事〕
イタリアボローニャ銀行・糸のシャンデリア照明
藤井寺市民総合会館・レリーフ彫刻
伊丹市運動公園・噴水彫刻
作州武蔵カントリークラブ・滝石彫刻及び池つかしん・噴水広場及び流れと石彫刻
上新庄コスモシティ森林公園・遊具彫刻
京都府立総合見本市会館・噴水彫刻　など。



吉田和央

建築とアート



撮影　柄松　稔

ROUND LAND

彫　刻

主な材料　鉄
建築名称　RAPA 1st
所 在 地　京都市北区北山通植物園北門前
最 寄 駅　地下鉄烏丸車庫駅

「スギタルハオヨバザルガゴトシ」

過激、過剰なものが求められる時代であるかも知れないが、諺の意味するところはバランス感覚である。
黄金分割は目に心地よく、和音は耳にやさしい。
熟成した酒は舌の上でまろやかに……。
これらが訴えかけてくるものは、それぞれにそこそこ、というバランスなのである。
そこそこなどと言うと過激なアーティストからケーベツされそうであるが、このそこそこは決して安定したものでなく、変化する中での一瞬をとらえており、つな渡り的で快感なのである。
建築とアート、出会いはすなわち、つな渡り的快感！

（吉田和央）

1949年　大阪生まれ
1975年　多摩美術大学大学院彫刻科修了
1972～1982年　二科展出品
1974年　二科展特選受賞
1975年　同上銀賞受賞
1979年　同上会友賞受賞
1979～1989年　現代日本美術展、現代日本彫刻展
アートナウ'84、'85
大阪現代アートフェア
AD＆Aギャラリー個展
番画廊個展
1989年　和歌山朝日ビル〝彫刻丸い鳥〟制作
心斎橋アンデコール・アデンダ
環境造形

建築と
アート

内田晴之



POSITION

彫　刻

最近は、彫刻に限らず、アートを建築空間に入れる事が以前より多くなっているように思います。
アートを入れる事によって、建築やその空間が、より魅力的になり、又その逆も言えるような出会いが、建築とアートにとっての理想的な出会いでしょう。
建築を女性にたとえるなら、アートはさしずめエクボか色ボクロ？でしょうか。より魅力的なエクボが作れたら、と思っています。　（内田晴之）

主な材料　アルミ合金、マグネット、鉛
建築名称　芝浦スクエアビル
所 在 地　東京都港区芝浦4－9
最 寄 駅　JR田町駅

1952年	静岡県生まれ
1975年	第30回行動美術展出品以後毎回出品
1976年	京都精華短期大学立体造形科卒業
1979年	第14回現代日本美術展佳作賞受賞、第４回京都彫刻美術展大賞受賞
1980年	第13回日本国際美術展佳作賞受賞
1981年	第２回ヘンリー・ムア大賞展優秀賞受賞
1984年	第６回エンバ賞美術展大賞受賞、第15回日本国際美術展大賞受賞
1986年	第10回神戸須磨離宮公園現代彫刻展

北山善夫

建築とアート



1948年　滋賀県・八日市市生まれ
1979年　靱(大阪)ギャラリー個展
　　ギャラリー射手座(京都)個展
1981年　ギャラリー16(京都)個展
1982年　村松画廊(東京)個展
　　ヴェネツィア・ビエンナーレ展'82
　　カーネギーインターナショナル展
1983年　日本現代美術展「5人の現代作家達」
　　第2回バングラディッシュ・ビエンナーレ展金賞受賞
1984年　今日の造形・木と紙「自然との対話」展
1987年　北山善夫・剣持和夫展（お茶水スクエア・アートプラザ）
1988年　アンリー・ギャラリー(米国)個展
1989年　ブランツブレ・ファブリッククンストホーレ(デンマーク)個展

まず、どう始めるべきか

建築とアートによって実現される空間は、ふたつが出会い、協力し、そして共闘して創り上げる新たな作品でありたいと思います。建築のためのアートではなく、アートを見せるための建築でもなく、建築家と美術家が、それぞれ作家としてかかわりあいながら、建築とアートとでしか表現出来ない作品を共作することを考えてゆきたいと思います。

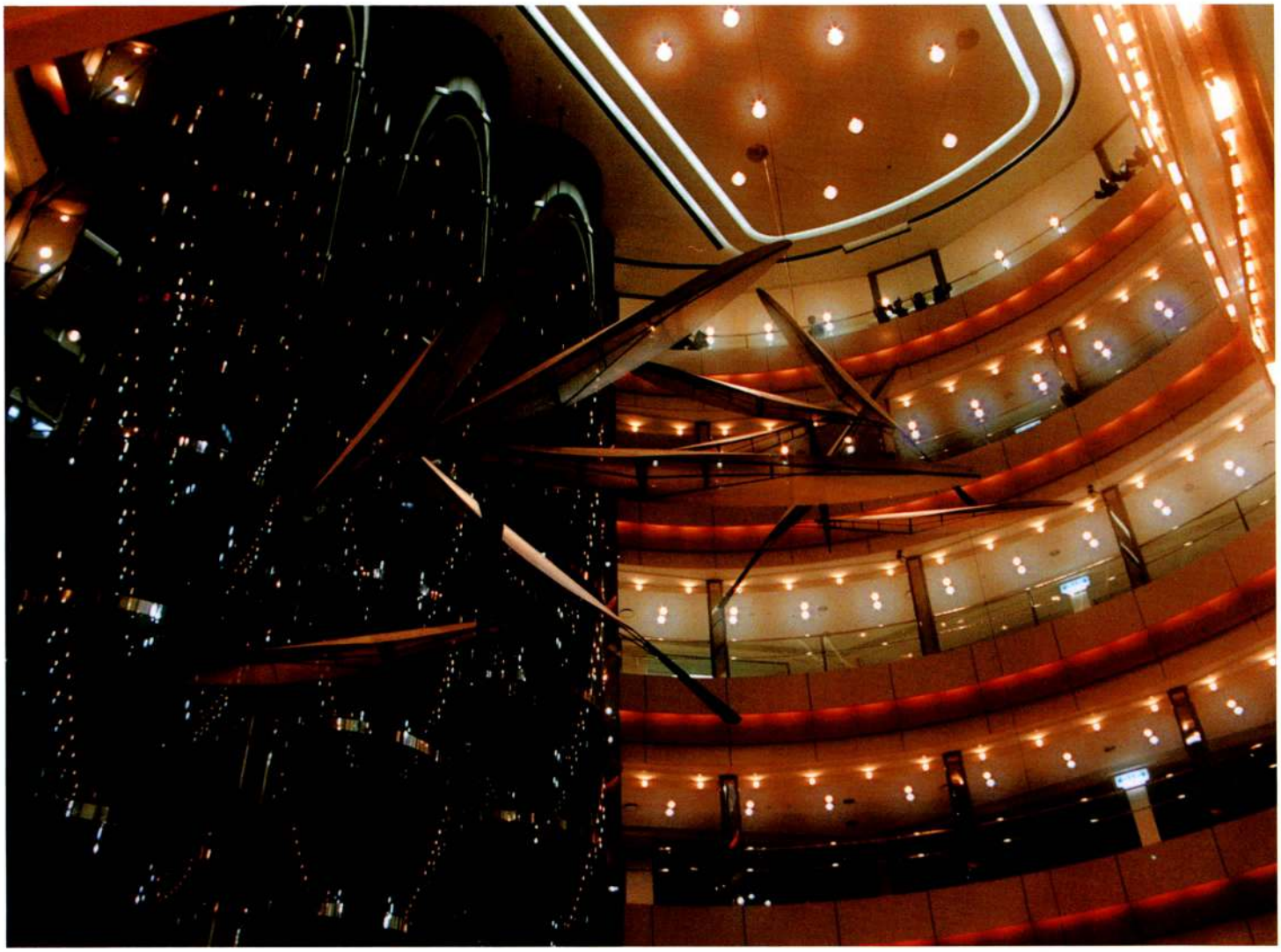
(北山善夫)

彫　刻

主な材料　竹、紙
建築名称　草月会館
所 在 地　東京都港区赤坂7−2−21
最 寄 駅　地下鉄赤坂見附駅

建築と
アート

高田洋一



風の回廊

彫　刻

主な材料　アルミニューム、ステンレスパイプ、鉄
建築名称　天神MMビル　IMS
所 在 地　福岡市中央区天神1―7―11
最 寄 駅　西鉄福岡駅

私の作品は室内のわずかな空気の流れに反応して、ゆっくりと漂うように運動する。人が行き来する程度の風で「翼」は動き始める。人は意外なほどに自分が環境と深く関わっていたと気づく。
都市化が進んだ結果、我々常に自然から隔離された状態を余儀なくされている。
これからの建築家と彫刻家が考えていかなければいけないのは、建築がどれだけ自然との回路を持てるようにしていけるかだと思う。自然との様々な体験を屋内で再構成することがどれだけ可能になるかで、我々のストレスの蓄積量は大幅に減少することになる。
今後、彫刻と建築は大きなひとつの装置として計画されていくだろう。
（高田洋一）

1956年	生まれ
1979年	大阪芸術大学美術学科卒業
1981年	第15回「現代日本美術展」大賞
1982年	第14回日本国際美術展 「現代紙の造形―日本と韓国―」
1985年	個展ギャラリー上田ウェアハウス（東京）
1986年	個展ギャルリーユマニテ名古屋
1988年	個展現代彫刻センター（東京） 「名古屋駅前ロータリーモニュメントデザインコンペ」入選
1989年	国際「紙」造形展（西ドイツ、京都）

車　季南

建築と
アート



写真提供 韓国日報

風

彫　刻

主な材料　サイザル麻
建築名称　フィリップス大学日本校
所 在 地　大阪市北区錦町2丁目
最 寄 駅　JR天満駅

建築の内部空間には、硬質なイメージのオブジェよりも、フレキシブルなもののほうが似合う場合があります。繊維―なかでも私が使うサイザル麻は、芯の強さと柔軟性を兼ね備えた素材として、その良い例と言えるかもしれません。
今度のフィリップス大学の場合、シート状に加工したサイザル麻が約100枚、自然なウエーブを描きながら葛折りに連なっているわけですが、ハードな建築空間に漂う風のようなものを感じ取っていただければ、と思います。

（車　季南）

1953年　大韓民国大邱生まれ
1976年　暁星女子大学美術科卒業
1984年　京都市立芸術大学大学院染織科修了
　　ギャラリー・マロニエ(京都)個展
1985年　京都市選抜展
1986年　第6回国際テキスタイル・ミニアチュール、ビエンナーレ
　　個展　天野画廊(大阪)
1987年　「布のかたち、糸のかたち」東京都美術館
　　京都市選抜展
　　個展　ギャラリー紅(京都)
1988年　新匠工芸展(知事賞・会友賞)
　　大手前女子大学講師
　　KOREAN FIBER Art NOW
　　(韓国国立現代美術館買上)

建築とアート

児玉康兵



撮影　林　久雄

「三想（さんそう）」

姫路独協大学開学記念モニュメント

彫　刻

主な材料　ステンレス鋳物、御影石
建築名称　姫路独協大学構内
所 在 地　姫路市上大野7－2－1
最 寄 駅　JR姫路駅市バス独協大学停留所

私の作品は、都市の中に設置する場合が多い。都市は、石、鉄、コンクリート、ガラス、木、水、その他いろいろな物質で汎濫している。建築家の努力によってそれらは美しい建物群に構築されている。しかし〝ハッと〟人の心をゆさぶるような空間に、あるいはものに出会うことが、我が国では少ない。都市の中にしろ、自然の中にしろ、彫刻というもの、あるいは彫刻という空間を設置することにより、空間の質と密度が高くなり、時間を起えて人々に何かを語りかけ、何かを感じさせる空間でありたいと思う。現代を生きる工人の手と心のぬくもりのあるものと空間を創りたいと思っている。

（児玉康兵）

1949年　生まれ
1971年　京都市立芸術大学彫刻科卒業
1973年　浦辺建築事務所（現浦辺設計）に勤務、建築を学ぶ（～'78）
1978～1980年　ミラノ国立美術大学留学
1980年　高槻市民憲章モニュメント（高槻市コンペ一席）
1985年　大和郡山市総合公園ゲートモニュメント※
千里緑丘住宅中央モニュメント※
1987年　豊中市二ノ切池公園モニュメント※
倉敷まちかどの彫刻展
（※本郷新賞候補作品）

山田幸作



1949年　大阪市生まれ
1972年　大阪芸術大学彫刻科卒業
1977年　第1回ローズガーデン美術公募大賞受賞
1982年　アート・ナウ'82
森林文化賞受賞モニュメント設置
1984年　尼崎市名誉市民モニュメント設置
1986年　噴水彫刻設置（兵庫県新宮町民センター）
1987年　府立山城総合運動公園入口レリーフ設置
1988年　レストランGEN-YA彫刻設置（尼崎）
1989年　噴水彫刻設置（羽曳野市峰塚公園）

先ごろ、ある海外の建築家が、東京での依頼で、建築設計をイメージとして、立体造形により提出したと聞き、われわれも参加できる余地が大いにあると感じている。
私は、原石をくり抜いて、そこから水をだす彫刻をつくっている時に、水の出かたにより石そのものが、ダンスをするがごとく、愉快に踊っているように見えた。
もとより建築と彫刻は、水と石のように一体である。しいて言えば、建築の空間要素と、彫刻の空間要素の、コンセプトのようなものの違いだけである。
イメージの段階で、より多くの時間を費やすことができれば、いま以上に彫刻も建築も、もっとおもしろい空間が創造できるのではないでしょうか。

(山田幸作)

猪名川町立ふるさと館
モニュメント

彫　刻

主な材料　能勢御影石
建築名称　猪名川町立ふるさと館
所 在 地　兵庫県川辺郡猪名川町木津
最 寄 駅　阪急バス木津上停留所

清水柾博

WAVE MOTION'87

彫　刻

主な材料　陶
建築名称　日本火災海上別府寮
所 在 地　別府市大字鉄輪トノヤシキ1021他
最 寄 駅　JR別府駅



人は物を見る時、その対象物だけを見る事はできない。必ずその物のまわりの場も同時に認識しているのであって、すなわちその場のなかでものを見ている。建築とアートの関係もまさにその点が非常に重要だと思う。
絵画や彫刻などあらゆるアートは、建築空間の中、あるいは屋外であればその場の中にあっていかに自己主張できるかが問題で、作品は、それが置かれる場が適切であってこそ、その良さを発揮できる。
また、逆にアートが建築やその場に与える影響も当然見逃せない。両者の関係は非常に密接で切り離しては考えられないし、相互の対話がうまくいけばその場はすばらしいものになるだろう。　（清水柾博）

1954年　京都生まれ
1979年　早稲田大学理工学部建築学科卒業
1983年　朝日陶芸展'83グランプリ受賞
1986年　第14回中日国際陶芸展外務大臣賞
CERAMIC ANNEX SHIGARAKI '86
第１回国際陶磁器展　美濃'86
1987年　THE 2nd WORLD TRIENNIAL EXHIBITION OF SMALL CERAMICS
1988年　京都市芸術新人賞受賞
八木一夫賞'88現代陶芸展優秀賞受賞
1989年　八木一夫賞'89現代陶芸展読売賞受賞

川島慶樹



1962年　大阪生まれ
1984年　大阪芸術大学美術学科卒業
　　個展(ギャラリー白・大阪)
1985～1988年　個展(番画廊・大阪)
1986年　Yes Art(ギャラリー白・大阪)
　　神戸現代アート・フェスティバル'86
1987年　アートナウ'87
　　強靱な欲望展（大阪）
1988年　臨界芸術展（東京）
1989年　個展（モーリギャラリー・大阪）
　　ポリクロアート展（高知）
　　素材別にみた立体展（大阪）
　　サントリー大賞展（東京）

現代美術と建築と、というとすぐに新らしさに通じる感覚を私自身ももちますが、この和菓子店の場合、気負いのない自然なかたちでの調和が実現したような気がします。
作品が自然な空気の流れをよび、清浄作用的な役割をもつ空間になったのではないかと思います。

（川島慶樹）

月と一羽と

彫　刻

主な材料　楠、大理石、鉄、アクリル絵具
建築名称　菓苑童季
所 在 地　八尾市桜ヶ丘4－13
最 寄 駅　近鉄八尾駅

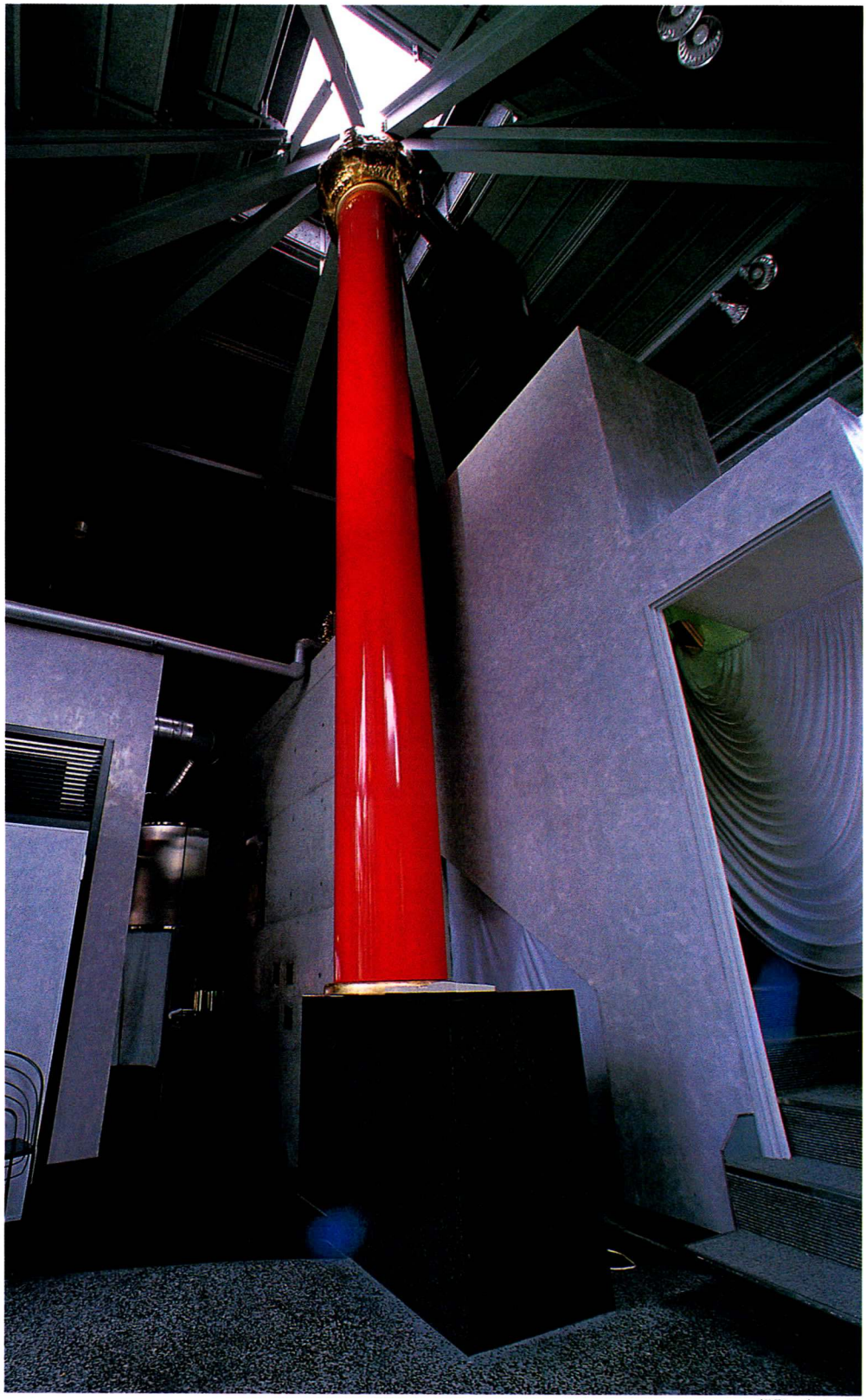
建築と
アート

曽我孝司

重力質・柱
IN GEN-YA

彫　刻

主な材料　鉄、石、FRP
建築名称　GEN-YA
所 在 地　伊丹市山田字辻17
最 寄 駅　阪急武庫之荘駅



撮影　畠山　崇

私は空間に、もっとも本質的に影響を与えているものは「重力」であると考えています。この〝動く柱〟シリーズですが、普通、柱は構造物として、絶対動かない、動いてはいけないものとして、建築空間の中に存在しています。それがファッーと動く時、重い屋根などを支えていた空間の秩序は、一瞬にして消え去り、物の存在はとりとめもなく、あやふやになってしまいます。
この作品は、私達が普段具体的に意識することのない重力が及ぼしている空間の性質を、リアリティのあるものとして感じとっていただけるのではないでしょうか。　(曽我孝司)

1952年　大阪に生まれる
1975年　大阪芸術大学卒業
1976年　第12回現代日本美術展
1978年　第12回日本国際美術展
1980年　アート・ナウ'80展
1982年　第5回インド・トリエンナーレ展
1983年　第1回大阪現代アート・フェアー'83
1984年　個展「重力質・柱」（信濃橋画廊・大阪）
　　建築の中の金属彫刻展（番画廊・大阪）
1988年　「重力質・器」（信濃橋画廊・大阪）
1989年　「重力質・器Ⅳ」（カサハラ画廊・大阪）

松井智恵

建築とアート



ROGNOZZO

インスタレーション

主な材料　鉛、しっくい、ガラス、鉄、布、石膏、レンガ、他
建築名称　ROGNOZZO(ブティック)
所在地　京都市上京区烏丸通今出川上ル2筋目西入ル
最寄駅　地下鉄今出川駅

果たして建築と美術は調和という事を考える段階にあるのだろうか。建築から美術が自ら逃れたのか、その居場所を建築がなくしてしまったのかは論ぜられてきたにせよ、現在、建築と美術のたたかい、言い替えれば互いの空間に対する感情のズレを露わにすること、そのような作業なくして、いきなり調和に向かうという事は私には不可能に思える。
建築それ自身の思想、美術それ自身の思想は互いにまず明らかにされねばならないのだろう。都合良くゆくつもりの折衷主義が決して都合通りにゆかない事に対して、見て見ないふりをし続けるのでは、朽ち果てたもの以上の美しさを得ることができるはずはないではないか。ログノッツォの場合、制作に関わった者は誰もが目をそむけられない状態にあった。それは、元々存在した空間、つまり住居という場所のおかげだったのだ。

1960年　大阪市生まれ
1984年　京都市立芸術大学大学院美術研究科修了
1986年　個展（ギャラリー葉・ギャラリーアルシュ・東京、信濃橋画廊5・ギァラリー白・大阪、シティギャラリー・神戸）
1987年　FIVE SPICY EXPRESSION（ギャラリー16・京都）
1988年　アーキテクスチェア（スパイラルガーデン・東京）
1989年　ドローイング'89（ギャラリーラ・ポーラ）
ショップシステムコンペティション「ログノッツォ」入賞

中西　學

偉大なる
Rockin' man

オブジェ

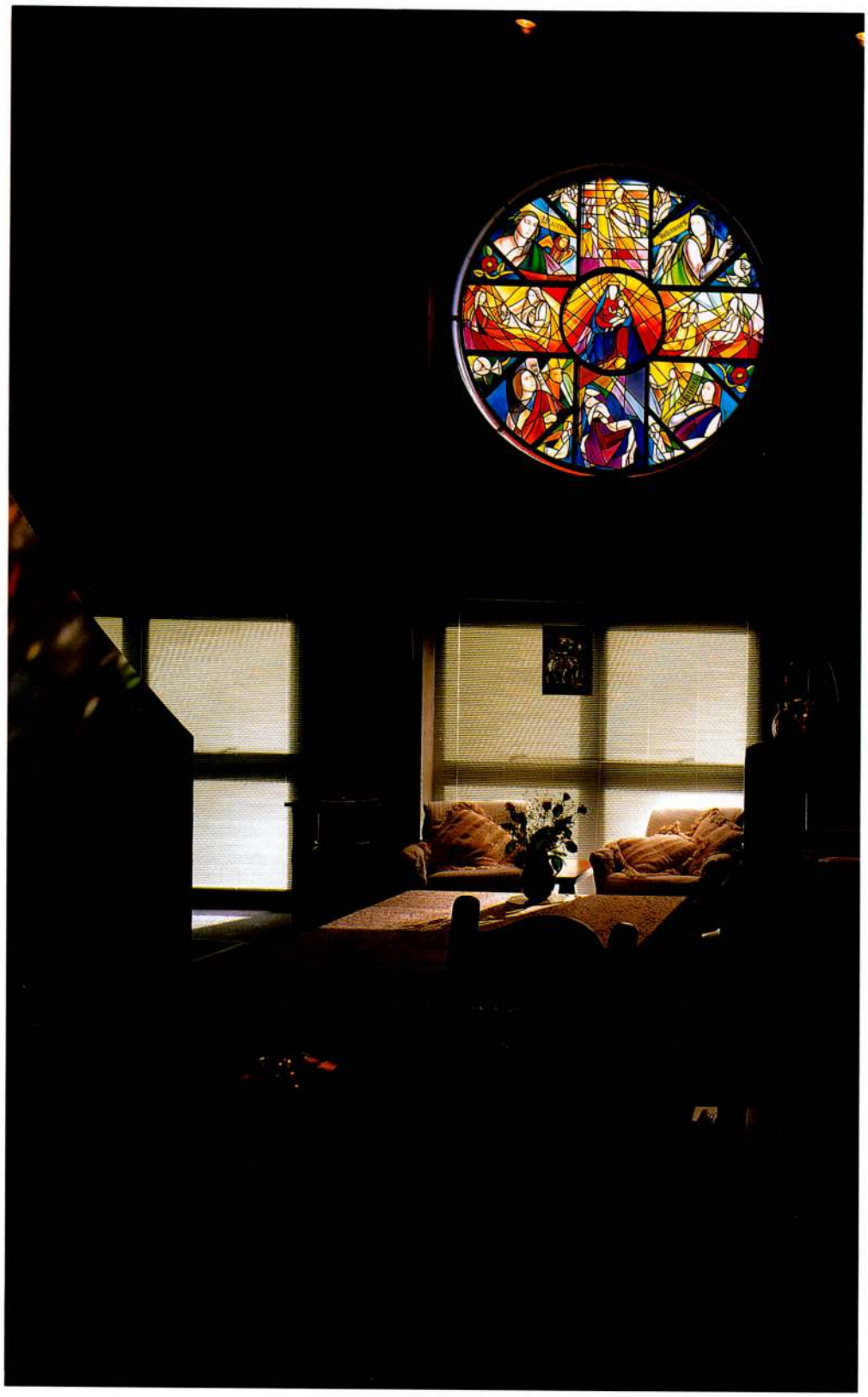
主な材料　ミックスド・メディア（スタイロホーム、ポリエステル樹脂、アクリルカラー、ポリウレタン樹脂塗料他）
建築名称　ゴトウ洋服店 GOTO Part2
所 在 地　和歌山県小雑賀町小物成704
最 寄 駅　JR紀勢本線宮前駅

このGOTO part2 FORUMの空間は、レンタルビデオとブティックを兼ねており、若い世代が集中する空間である。自分の作品は、そのスケール、色彩においても建築空間の中で突出して主張するが、作品の中でも音楽（ロック）やスピード感をイメージしたものは、店舗のコンセプトと調和したと思える。
今回は、店舗に合わせてアレンジを施す事なく、オヴジェとしての状態で設置出来た事は作家としては有難いことである。やはり、オーナーをはじめとする人々の理解がなければ、なかなか果たせないことである。
今後も社会の中で、美術作品が生活文化の一部（公共性、娯楽性etc.）と成り得るのも、建築と調和するにせよ、ミチマッチするにせよ多様な建築空間との出逢いがなければならない。　（中西　學）

1959年　生まれ
1982年　大阪芸術大学美術学科卒業
1983年～　大阪、京都、名古屋、東京などで個展15回開催
アート・ナウ'85、'86招待作品（兵庫県立近代美術館）
1987年　第4回吉原治良賞美術コンクール展コンクール賞受賞
大阪現代アートフェア'87出品
1988年～　西武美術館主催「手でみる美術展」出品
1989年　「美術の国の人形たち」（宮城県美術館）招待出品
豊中市主催「大島渚講演」舞台作品展示



立花江津子



マリアのローザス

ステインドグラス

主な材料　アンティックグラス
建築名称　J氏邸
所 在 地　神戸市垂水区
最 寄 駅　JR須磨駅

この作品は住宅のホール壁面、３ｍの高さにはめ込まれた、直径２ｍのステインドグラスで西南に位置している。光彩は日の出から刻一刻、その形を変え乍ら、壁から床へ、床から壁へと室内を巡って日没と共に消えて行く。又、太陽の位置や天候によってもその影は微妙に変化し、灰色の打放しコンクリート壁に囲まれた室内は、ステインドグラスとの出会いによって豊かな表情を持つ光空間を構成する。

この場合、まず建築家の光空間に対するイメージが明確にその設計図の中に示され、作家は専門的なアドバイスを加え乍ら自身の創造性をこのイメージの上に、ある自由さを持って展開した。その結果、古典的な調子の窓がコンクリートの空間の中で快く調和した。

（立花江津子）

1942年	生まれ
1975年	ベルギー・セントルーカス美術大学卒業
1983年	フランス、ヴィッシイに於て国際女流芸術家展国際賞 姫路市文化賞奨励賞
1986年	ベルギー・シャルルロワに於て国際女流芸術家展グランプリ受賞
1988年	ポートピアホテル南館チャペルスティンドグラス制作 金城学院大学礼拝堂（エラ・ヒューストンホール）スティンドグラス制作
1989年	姫路高等学校音楽ホール（パルナンスホール）スティンドグラス制作

山口一城



サッポロビール園
ステンドグラス照明器具

スティンドグラス

主な材料　スティンドグラス、鉄、銅、
使用ランプ　100Wパナボールクリア×3ヶ
　上面　ハイカライト
建築名称　サッポロビール園
所在地　札幌市東区北6条東9丁目
最寄駅　JR札幌駅

私の作品には環境照明の役割を兼ねるものが多い。各種のランプを内蔵する。必然的に、制約条件が多い。建築構造物としてや内装部材として、そして電気用品としての条件をクリアーしなければならない。その上で、ステンドグラスとしての完成度と照明としての機能を求められることになる。そんな意味から建築と空間に挑むのは苦しいが楽しいことと思っている。ステンドグラスとは元より光との空間の間に存在したものだから。

写真の作品は、完成後3年になるが、その意を強くさせてくれたものである。照明デザイナーである藤本晴美氏のディレクションによるもの。永久保存にふさわしいものをと素材や加工法を吟味し、建築に対して挑戦的で融合的な作品を目指したつもりである。　(山口一城)

1943年　神戸市生まれ
1964年　桃山学院大学経済学部卒業
1981年　ステンドグラス4人展（大阪現代クラフトギャラリー）
1982年　ステンドグラスエキシビション（神戸白い異人館）
1983～1987年　ライティンググラフィティー出展
1985年　ステンドグラスモダンアートオブジェ展（大阪ソニータワー）
1987年　個展（大阪和光ギャラリー）
1988年　墨絵とステンドグラス2人展
1989年　第2回世界ステンドグラス展

草間詰雄

建築と
アート



撮影　柄松　稔

1946年　生まれ
1969年　武蔵野美術大学卒業
1973年　米国クランブルックアカデミーオブアート大学院修了
1976年　米国芸術基金(NEA)クラフトマンフェロウシップ受賞
1979年　国際タピストリービエンナーレ展（スイス）
1984年　現代日本ファイバーワーク展
1987年　ギャラリーマロニエ銀座ワコールアートスペース個展
1989年　芸術選奨文部大臣新人賞受賞
現　在　成安女子短期大学教授

建築空間とは本来要求される種々の機能に対応して、出来上がって行くものだと思います。しかしその理論詰めのつめたい機能一辺倒な考え方に大きな疑問が投げかけられ、現在のポストモダーンに至っているのではないでしょうか。私はこの15年、建築空間に置くタペストリーを制作してきましたが、作品を制作するにあたり、建築素材では表現できないものを作り出すという事、そしてそれが建築家とアーティストとの共同作業であるという事を常に意識しております。アーティスト、建築家それぞれお互いの自己主張が強すぎる空間は、その空間の機能を限定してしまうように思えてなりません。　（草間詰雄）

ランドスケープ

タピストリー

主な材料　綿糸
建築名称　神戸国際交流会館
所 在 地　神戸市中央区港島中町6－9－1
最 寄 駅　ポートライナー本町広場駅

建築と
アート

河崎晃一



然
Condition

レリーフ

主な材料　鉄板に植物染料、鉄線、布
建築名称　芦屋カフェ
所 在 地　芦屋市平田町1−2
最 寄 駅　阪神芦屋駅

この作品は、'88年秋に芦屋カフェで開かれた「芦屋カフェアートシーン」のイベントの1つに出品し、その後買上げられたものです。11点で構成された個展は、私にとって小林恒氏のコンクリートの建築への挑戦でもありました。何度も訪れたことのある見慣れた、何もない空間に作品を置くことは、簡単なようですが、不安がありました。
施主—建築家—美術家。それぞれが個性を主張し合う中で、共通項を見い出すことは、不可能に近いのではないでしょうか？お互いを理解しない三者が、現実として存在しない図面の上ですべてを決定することは冒険すぎるでしょう。身をもって建築空間を感じ取ることが出来た上で、美術家に課せられる責任が重ければ重い程、緊張と調和を持った作品が生まれると考えます。我々は、美術業者ではないのだから。
(河崎晃一)

1952年　芦屋市生まれ
1974年　甲南大学経済学部卒業、染色家中野光雄氏に師事
1980～1988年　個展（番画廊・大阪）
1985年　第6回国際インパクトアートフェスティバル
1986年　個展（モノ・アート・ギャラリー・東京）
1987年　第4回吉原治良賞美術コンクール展優秀賞受賞
第17回現代日本美術展大原美術賞受賞
第11回ローズガーデン美術公募展佳作賞受賞

中島一平

建築とアート



撮影　柄松　稔

1948年　生まれ
1971年　京都市立芸術大学卒業
1983年　第２回吉原治良賞コンクールで大賞（受賞作POROS ISLAND）
　　第６回エンバ美術賞展優秀賞
1984年　第15回日本国際美術展・兵庫県立近代美術館賞受賞
1985年　茨木市立青少年センターレリーフ壁画制作
1988年　茨木市福祉施設太陽の里レリーフ壁画制作
1989年　個展「A.P.F.WORK」AD & Aギャラリー

予感的であること、即興的であること、反省的であること、官能的であること、融合的であること……。これらの要素にはArtのとりわけ絵画的表現によってしか視覚化、対象化しえない領域があると信じている。現実社会ではむしろ除外され極めて見えにくいこれらの要素を、都市空間に持ち込むことによって、もう一つの交信が生まれるはずだ。Artは建築の知性で保護されることによって都市との接点を得ることができる。逆に言えば、建築はArtを内包することによって有機性を得、生命感を発揮することができるのだと思う。

（中島一平）

Card board Chips work vol.3

レリーフ

主な材料　アクリルペイント、トライウォールパネル
建築名称　くろがね工作所オフィスデザインセンター THE SPACE
所在地　大阪市西区新町1-4-26四ツ橋中央ビル
最寄駅　地下鉄四ツ橋駅

方舟に集まった影たちの過去

——歴史からみたアートと建築の接点——

高橋幸次

1.〈場所〉について

展覧会から次の展覧会の間には、美術館の内部では、前の展示作品が撤去され、次の展示のための会場施工が行なわれる。その何もない空間、しらじらとした照明に照らされて静まりかえった空間は逆説的な意味で少し刺激的である。それは、素朴な意味での無限定の可能性を暗示している。しかしこうした見方はとても楽観主義的な思い上がりであることも確かである。私は芸術の〈絶対零度〉などという特権を信じてはいないし、それをめぐる作品自体が不在のディスクールに加担したいとも思わない。それは無からいきなり創造が為されるという、何時誰が考え出したか知れない安易な夢である。

作業員たちや次の作品が入って来て、また喧噪が戻り、その場所が展覧会という奇妙な目的に向かい始めるとき、均質な空間はおのれの剝き出しの姿を隠し、その〝合目的的〟な日常に帰り、何かが、晴れがましさに向かって、気難しそうに、しかし気恥かしく執り行われる。美術館のコレクションにしてもそうである。本来そこにあるべきでもないものが一堂に集められる。場合によってはそれらは略奪の結果でもある。美術館に保存展示されることなど意に介しなかった現代作品でさえむりやり美術館という〈見せる倉庫〉に呑み込まれる。ところが、美術館や博物館は、たかだか19世紀の趣味と帝国主義の産物でしかないし、〈歴史〉といったところで、同じく〈近代の眼〉なのである。こうした諸限定条件つきで私たちの〈今〉はとりあえず成り立っている。しかしもちろんそれは不変ではない。機能を追求した近代建築が均質空間を極限の到達点とするならば、美術館もそれに従っていることに変りはない。建築が極限において装飾無用論に行き着こうと、建築そのものがアートだと言おうと、それでも他の〈異物〉としての〈作品〉や〈装飾〉は厳然と自己を主張し続ける。例えば展示空間にしても、建築家に恣意的なデザインで遊ばれて、使い勝手が悪いくらいなら、素直な密閉された箱のほうがよっぽど良いと考えられているのだ。

美術館という奇妙な〈方舟〉は建築物である。しかしそれは芸術と建築という2本の課題を立てたとき、きわめて例外的で異様な出会い方であると言える。美術館を物を容れる単なる箱と考えようと、システマティックな情報集中装置と考えようと、それはあくまで反面教師であって、芸術にとって理想的な〈場〉などではもちろんないと考えるほうがまともである。ところが昨今、至る所が美術館に似てきたような印象を受ける。これは良い方向なのであろうか？もちろん今後、美術館自体は新しい方向に向かって自分の性格を変えて行くだろうが、とりあえず成立の段階では、作品の行き着く輝かしい倉庫か墓場と考えるぐらいにしておいたほうが健康である。

では〈場〉とは何だろう。かつて、といってもそれほど遠くない元気だった時代に、広場の出会いとか未来都市が明るく豊かな夢として語られたり、幸せだったとされた架空の始原と重ね合わせて語られた。現実はそうした共同体のイメージにとらわれた幻想を裏切り続けたし、〈歴史〉はそれを相対化していった。実験台や坩堝、磁場など、いろいろのシンボルやメタファーが現われては忘れ去られた。そうして、今言えることは、洪水が去った荒れ地のようなところで、それでも人は生きて行くのに、社会生活を営み、芸術を産みだしつづけているという、〈今〉の持続性だけは在り続けるという現状認識は確かだろう。普段のことのような顔をしてアートが営まれ、それが〈流通〉し、可能な限り多様な場所に置かれて人と出会えば良い。そこで制作されようと、そこに持ってこられようと、その場所をあらかじめ考慮に入れていようといなかろうとどちらでも良い。要点は、そこでその〈作品〉が固有の意味を生成することであり、引用、類似、差異、隠蔽、脱出など様々な揺さぶりを仕掛けることで、その空間を、異化や方向性や歪み、偏りといったあらゆる意味の可能性で、再活性化し、その空間がそれに出会う人々にとって何らかの体験となり、さらに時代の精神を体現してゆくことが望まれる。それにはあらかじめの特権的な空間の提示は不要であろう。まずこうあっけらかんと言い放つ必要がある。人は単に等身大の存在ではないし、空間の囚人でもない。

2.〈歴史〉について

いわゆる〈歴史〉が何を期待されているかを考えてしまうと、私には手のつけられない大問題に見えて尻込をしてしまうのが正直な話である。〈歴史〉をふりかえって参照し、現在の混乱の整理と、未来の展望が得られると考えるには、美術の歴史は〈近代の眼〉に染められすぎている。それは証拠となる〈作品〉が、〈見たまま〉の証拠となると信じられているからである。これは多分に価値を含み、あくまで共同体内部での価値の肯定とイメージの再認を基盤にしたイデオロギーの補強でしかなく、いわば本質的に保守的な懐古

趣味なのである。

手に触れるもの全てが黄金に変わってしまうミダス王の不幸の寓話は、芸術についても当てはめられるだろう。私たちを取り巻くもの、手に触れられるもの、すなわち世界は、全てデザインされていないものはないと言える。私たちの行為の跡、いや進行中のあるいは構想中の行為そのものもアートと言える。無垢の自然は幻想だと考えた方がよい。ところが、アートが自分を価値付け、他のものよりも偉いものだとして独立しようとする自己運動を展開したのも確かである。〈芸術のための芸術〉という言い方はあまりに有名である、しかし、たかだか近代の発明であり、もちろん社会の中で条件づけられている。ルネサンスにおいては、自由学芸に匹敵する地位に芸術を引き上げ、ひいては芸術家の社会的地位を向上させようと仕組んだレオナルドの目論見もあった。王、神官、教会、貴族、ブルジョワジーと社会的な階級はとっかえひっかえであったにしろ、常にパトロンとの関係でアートは営まれてきた。それは端的に言って、経済原則に基づくものであった。ところが19世紀にブルジョワジーとサロンや画商によるパトロンの個別化と同時に進行した〈芸術家〉なる特別の存在という幻想が産まれてしまった。不可能になった神や英雄の代わりに芸術家がそれらの代替物に祭り上げられてしまった。それも多くは常人とは異なった人生の悲劇や世間の無理解の説話が付加されるのが好まれた。アリもキリギリスも生きていけるのが社会であるはずなのにである。何時の時代にも同時代のアートがあったはずである。今日、ほとんどマニエリスティックな参照と引用の果ての不毛か、多弁なディスクールを引き連れた還元主義か、時々の苛立ちの叫びのような暴力的な表現主義、同時代的な洗練された感性のレヴェルに身を任せるものなどが見られるが、アートとは、既存の確立された体系に揺さぶりを掛け、意味のずれと揺らぎと再び新しい感動を喚起するものであってほしい。

アートには墓のように未来に残すものから、祭典の造り物のように一時的ですぐ壊されるものまであった。当時高く評価されメジャーであったものが後になって忘れ去られたり、再発見によって歴史に浮上したものもあった。こうして主流とか〈前衛〉の神話ができあがった。実に歴史は後世に書かれるものである。困ったことにそれらのうち残ってしまったものが、遺跡や美術館にあり、それで私たちは〈歴史〉を眼の当りにしていると考えてしまう。しかし遺跡にしろ美術館にしろ、その〈作品〉は今、私たちの〈観光〉という眼で受けとめられているという現状がむしろ重要であって、それは今の私たちの〈知〉の性格の端的な現われであるというべきである。〈観光〉は〈知〉の消費的形態であろう。さらに身体をそこにもっていくことで身体的なレヴェルでの出来事、即ち擬似体験と、あたかも歴史の入り口に行ったというアリバイ工作である。その証拠に私たちは証拠写真を撮りたがるし、絵葉書やレプリカをスーヴニールとして持ち帰る、イマジネーションが等身大となってしまっているのだ。

芸術は営まれ続けた表現の総体であるといえる。それは私たちの知覚の世界である現実空間と、それに接続するイリュージョニスティックな〈幻視〉の空間等の全てを含んでいる。これは建築を単なる土台としての空間として設定する場合もあるし、置かれる場所とは直接関係のない作品である〈イーゼル絵画〉や近代彫刻や建築そのものとしての場合もある。あるいは、都市計画のなかでの建築や記念碑、装飾など、その現実空間との現実の関係性のあり方は変化してきたといえるし、今もその変化が仕組まれ続けている。単に、美術館が芸術センターに性格を拡大し、音楽や演劇などのほかのジャンルを取り込んでいるだけでなく、その変化は居住空間から、街角、広場、公共建築のホールなど至る所に進出しているといえる。その限りでは、その取敢えず今の可能性を限界まで展開して次の展望を待てば良いのだろう。意匠や仕掛けはそれこそ様々に逸脱してあるほうが刺激的である。

3.いくつかの〈場所〉について

穴あるいは内部



写真1　洞窟壁画　c．15,000－10,000B.C., ラスコー

原始時代、洞窟に壁画を描いた人とそしてそれを見る人との体験はどんなものであったろう。ラスコーやアルタミラの洞窟壁画（**写真1**）は今も私たちを感動させる。暗い穴のなか、それは大自然の驚威や敵から身を守る場所であった。それは狩りの成功を祈るというよりも、前もって描かれた獲物を射止めることが現実の狩猟と同一視されていた。これは呪術である。この壁は、イタリア・ルネサンスにおいて確立され形式化されることになるイリュージョニスティックな別の世界への〈窓〉ではない。描かれるものには外観上の〈類似〉のリアリズムと同時に伝えるべき〈意味内容〉が託されている。この２つの要素はアートにおいてその力関係の拮抗のうちに持続し続けることになる。これは〈視覚形式〉となり、〈形式〉であるからにはもちろん変化していく。リアルなものは時代に限定されたリアリズムと全く同じものではない。それは視覚形式の根底にある私たちの〈視〉の持続する要素である。それはともかく、穴のなかの原始人たちの〈場所〉は、外界の世界に対して閉じられているように見えるが、実際は世界の再現であり、さらに世界の先取りであった。つまり、そこで世界がイメージで生きられていたのである。ここは単なる避難のシェルターや居住空間ではない、神聖な祈りの場所でもあり、外部と内部が接続した場所である。それにくらべて、プラトンの言う、洞窟に捕らわれた囚人が見る影絵で例えられたイデアの影という〈神話〉や、現在もう流行を過ぎた未来社会の最悪のイメージである核シェルターの発明の不毛さと滑稽さは、行き詰まった文化の形式化と硬直化を例示しているだろう。

今〈穴〉にいちばん近い場所は、個室であろうか。自室であっても、ホテルのシングル・ルームであってもよい。デカルトに代表される近代的自我の反省の拠点である。しかし、〈窓〉は開いており、今日では電話はもとよりデータ通信など情報のネット・ワークのなかにある。閉じられた場所などは何処にもない。荒川修作の〈精神の部屋〉もその重層構造のなかで開かれている。

形態あるいは外部

エジプトのピラミッドは王の墓である。しかしそれはもちろんその規模によって生きている者たちへの示威であろうが、同時に『死

者の書』に明らかなように、死の国への旅立ちへの場所であり、死後の国の生活の場所でもあった。砂漠の真ん中に立つピラミッドの幾何学的な精密さとフォルムの単純さの強さは、これ以外の形態では実現されなかったであろうと思わせるものである。もちろん、王家の谷のように、巨大な人物像で飾られたものもあったし、ピラミッドには祭式用の施設やスフィンクス像も設置されてはいた。しかし無から有を生み出したような印象を与えるこの巨大な石の四角錐は、内部構造が窺い知れない完全な〈外部〉としての強度を示している。もちろんそれを見るものは、そこで空間体験だけではなく、無限の時間を体験するのである。

ギリシャ神殿もその建築的フォルム自体が彫刻的だとよく言われる。もちろん構造としての分節化はあるわけで、遺跡では柱と破風ばかりが有名であるが、壁や屋根もあり、内部空間を持っていて、成り立ちは構成的である。内部には神像が安置され、託宣や祈りの空間であることは確かだ。しかし、神社がそうであるように、そこは万人にとって開かれた空間ではなかった。全体的フォルムは内部を拒否する。それは意味を発信する単一体なのだ。

空間感覚の現実化

ゴシック寺院の空間体験も異様なほど刺激的である。それは本質的に〈高さ〉と〈光〉である。それは〈神の家〉である（**写真2**）。サン・ドニのシュジェールが集約したその信仰の空間は、旧来の壁体のかわりに、工夫された高い柱と天井の石組によって、高い天井と大きな窓を可能にし、窓にはステンドグラスが配置され、壁面装飾は基本的に否定された。室内は天上の光で満たされるのである。高い空間は天上への意志の現実化である。

ここでは内部が特権的な空間に聖化されるための具体的な仕掛けは、容器としての建築のほうにウエイトが置かれている。もちろん〈物〉としては、聖遺物や十字架や聖像や壁画などが置かれるが、それは体験への導入にしか過ぎない。

フィレンツェのサンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂の巨大なクーポラにおいて、ブルネレスキは、イタリア・ルネッサンスの文化と空間感覚を具現化した。建築の内外に示されたその大きさのうちに、人間の再発見と人文主義の開花の一大モニュメントである。フィレンツェの街のどこからでも見えるその巨大さは、もちろん市民の政治と学芸への参加を謳歌している。ブルネレスキ、ギベルティ、マサッチョ、レオナルド、ミケランジェロなどの輝かしい天才たちがここに現われた。もちろん、メジチ家や教会を巡る権力抗争などの暗い闇の部分をも持っていた。ここは今、都市全体が美術館であるといわれるはどの観光地であるが、一時代の一都市に凝縮した文化への驚きを禁じえない。しかしここはもはや新しいアートの創造の地ではない。そこは幸福だった近代の開花への憧憬の地であり、今へのなにがしかの刺激の地である。

遠近法——窓あるいは境界

マサッチオの《聖三位一体》（**写真3**）は、正確な線遠近法の完成を示す代表的な作例である。壁の中あるいは壁の向う側にイリュージョニスティックな空間が生まれ、絵画は〈窓〉となる。それは何処に向かって開かれた窓なのか？この装置によって、壁のこちら側のこの現実空間にもう一つの現実空間が接続される。それは〈絵〉なのであり、神秘的体験や、物語などが描かれるのであるが、それがはっきりと現実に目に見えているように再現されるのである。ここでは壁から何mのところに各人物や物が配置されているかを正確に計算することができる。現実空間に置かれる彫刻のようなものではない。一段昇華された空間体験がリアルであることが要請されたのである。〈眼〉の優位が決定されたのだ。近代を通じてリアルな幻視は物のリアルさに対して勝利し続けることになる。

地上の充足はやがて上方へ、天上への運動となり、現実的な手立てを用いて昇天や恍惚といった体験に上昇し始める。バロック空間はねじれ歪みながら高みを希求する。ベルニーニの彫刻や装置は教会内部で視線を上方に向かわせ（**写真4**）、教会の天井には空に昇って行くか、ヒエラルキーに従って居並ぶ神や聖人が見上げられるように配置される。それもある一地点からその〈視〉が明らかになる演出法によっている。現実の建築構造や装飾彫刻が、絵画の幻視性

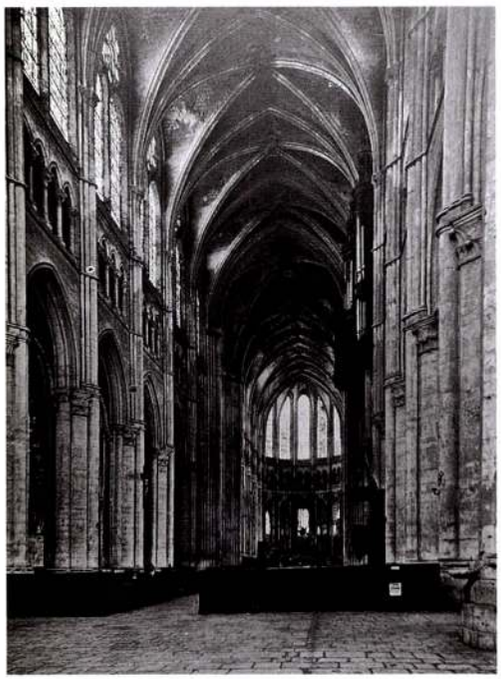


写真2　シャルトル大聖堂の内部　1194－1220年



写真3　マサッチオ《聖三位一体》1426－27年、フレスコ、聖マリア・ノヴェルラ聖堂、フィレンツェ

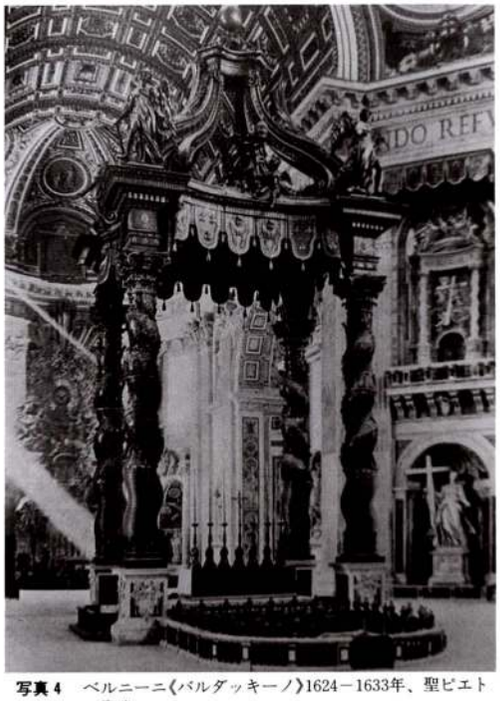


写真4　ベルニーニ《バルダッキーノ》1624－1633年、聖ピエトロ聖堂、ローマ

に従って、ここでも現実からイリュージョンに架橋するヒエラルキーが実現されている。

ロココの室内になると、それらは現世的な快楽のための装飾に堕すると同時に、壁面全体が装飾で覆い尽くされる。鏡が、プットーが、草花紋様が、田園風景が、華やかな現実空間を囲むように、建築の表面に控えている。〈ここ〉の空間からの逸脱は、しかし、絵画がイリュージョンを否定し、表面として、自らの強度を主張し始めると再び現実空間における体験の問題に帰ってくる。〈窓〉は閉じられ、抽象として心のなかの世界の投影か、あっけらかんとした表面のうえの感動が表われる。絵画は〈物〉と同様に〈ここ〉での思考に戻る。同時にしいたげられていた〈物〉の逆襲も開始されるのだ。

地上あるいは〈物〉



写真5　ロダン《カレーの市民》1884－1886年、ブロンズ、フィラデルフィア美術館



写真6　ブランクーシ《沈黙の円卓》1937年、石、トゥルグ・ジウ、ルーマニア

革命とともに全ては地上に降りてくる。ブルジョワの革命であろうとプレロレタリアートの革命であろうと、次の階級の勝利はその階級の地平に芸術を着地させる。パリのエトワール凱旋門にある巨大な浮彫り、リュードの《ラ・マルセイエーズ》は人々を地上の戦いに導く。個々の彫像は立体的だが、しかしまだ絵画の枠組からそれほど遠くはない。政治的なプロパガンダの性格ゆえ、この彫刻は巨大で立体的なポスターのようだ。高い台座の上に乗って人々に指示を与える。

ロダンの《カレーの市民》**（写真5）**は地上に〈立って〉いる。ロダンはイタリア・ルネサンスの騎馬像のような高い台座か、市民が直に触れ合えるような低い台座を考えていた。中途半端な高さの台座で序幕されたあと、現存する低い台座のものに変えられた。記念碑の構成も、一人の偉人を顕彰して他は従属的な表現とする因習的なピラミッド型の構成を拒否し、歴史の主人公6人が等しい大きさと高さをもち、それぞれの個々の運命に対する苦悩と誇りを表わす群像とした。これは革新であった。もちろん当時非難されたが、彫刻が現実の空間と文字通り〈地続き〉のリアリティの強さをもつことになった。それはまだ物語性にとらわれてはいるが、近代の自意識の直接的な発現であった。もはや偶像は仰ぎ見られるのではなく、私たちに直接対面させられることになる。

ルーマニアのトゥルグ・ジウ市の公園にある第一次世界大戦の際の戦没者のためのモニュメントはブランクーシによって制作された、《無限柱》、《接吻の門》、《沈黙の円卓》**（写真6）**から成るアンサンブルである。無限柱は精神の上昇のシンボリズムであり、同時に世界の中心にある神話のなかの〈世界樹〉であり、門や円卓は、そこを訪れる人々がこの世とつながっている霊たちとの出会いの場所であるように思われる。ブランクーシは近代から現代への過渡期にあって、始原的なるものの力を再生させた彫刻家である。そのモチーフの卵、動物、門、柱などは、宇宙の始原的な力のシンボルである。ここは生きている人間だけの祭礼の舞台装置ではない。訪れるとそこは想起の場所であり、それはモニュメントの語源の意味でまさしくそうなのである。ブランクーシのこれらの柱や円卓や門は、彼の台座のフォルムの延長でもある。彫刻なしの台座。あるいは、見えないものをそこにいざなうための場所が演出されている。

〈今〉の場所

展示空間から演出空間へ。納まり返ったシンボルから体験の場所へ。それは建築の外でも内でも境界でも良い。しかし最初から付属物のように置かれることをアートはまだ拒否し続けるであろう。それは〈物〉としての完結性から意味を放射する立体造形であっても環境装置のような人を包み込む仕掛けであっても；旧来の持ち込まれた〈作品〉や〈装飾〉であってもそうだろう。作品はとりあえず平面、立体、インスタレーション、パフォーマンス等に分類されるとしても、それぞれが固有の空間をもち、それは現実の展示や鑑賞の空間に重なっている。建築とアートの関係は、単に容れるものとしての空間と容れられるものとしての空間の問題ではなく、私たちの創造と反応という実践の問題である。そこでは双方の独自の力を出しあって、結果が旨く行く場合もあろうし、そうでないこともあろう。しかしともかく、〈箱〉と〈物〉という関係の〈零度〉に行き着いてはほしくはない。

リチャード・セラの危うい鉄の壁が市民と当局の非難にあって広場から撤去されようと、ダニエル・ビュランのストライプの円柱群が美観を損ね、伝統的な建物の中庭にそぐわないといって反対運動が起ころうと、それは私たちの時代の証言であり、そこは私たちの時代の精神性の現われの場所なのである。アートの〈場所〉はそれこそ時代と地域を通じてその様相を変化させてきたが、今の場所が特権的であるわけではなく、参照と反省、そして未知への試みの持続こそが私たちを導くだろう。

（たかはし　こうじ／東京国立近代美術館研究員）

建築とアートの関わり

——建築からみたアートと建築の接点——

遠藤剛生

はじめに

かつて建築と絵画や彫刻が、キリスト教の布教と伝導という同じ目的のために力を合わせ、教会を作り、聖者を彫り、文字の読めない民衆のために宗教的な壁画を描き、バイブルの役割を担っていた。ローズウィンドーやダメイオンにも多くの宗教絵画が描かれ、光を媒体にして人々に語りかけている。

教会入口のアーチの頭上には聖人達の立像や、パラペットから下界を睨みすえているかに見える魔除けの獣、塔を象徴的に飾っている彫刻等、建築の大部分が石彫によって埋めつくされている。

又、ミサのための教会音楽も同様の役割をはたしていた。時代は降り、教会アートの時代から権力者のためのパレスやブロンズ像、肖像画の時代を経て、やがて絵画や彫刻は作家の考え方を表現する手段として機能し今日に至っている。一方建築は、時代の流れと共に装飾性が少しづつ排除され、画一的で均質的な空間を持った建築に変っていった。

かつては同一の基盤の上に立っていた両者だったが、アーティストは、自分の気持を素直に表現することに喜びを感じ独自の世界の中で社会と時代の状況を個人のフィルターを通して表現する手段としてアートをとらえ、今日に至った。一方、建築家は装飾的表現行為に罪悪感のようなものを感じ、機能にウェイトが掛り始めた。その辺から両者のディスコミュニケーションは決定的なものになってしまったと思われる。

今日、音楽や絵画、立体、建築等がアートという一つの言葉でくくられたとしても、各ジャンルごとの隔りは大きく、今後その巾はますます広がって行き、各分野の追い求めている本質を互に理解しあうことはますます困難になっていくだろうと思われる。

例えば、絵画一つ取り上げてみても他の分野の人々から見れば、印象派以前のミレーやコローが好きな人、ゴッホやセザンヌやゴーギャンの時代に思い入れを持っている人々、あるいはピカソやブラックに、又、アイズピリーやコポダ、ポールギャーマン等、リヨン派と称される、具象と抽象の中間に位置付けられるような絵画に興味を持つ人々等、その選択はさまざまであろう。

しかし、絵画の世界に生きる人々にとっては歴史的な価値を持った過去の作家や作品も大切であるが、より新しい作品を作ろうと、その最前線のところで、作家の存在をかけて創作活動を行っている。当の画家達にとって、一番重要なのは今作っているその作品だろう。

こんどは逆に今新しく描かれた絵画を、建築家の立場から眺めてみると、作られた作品そのもののよし悪しを評価できたとしても、画家が、今何に問題意識を持って明日を目指しているかが見えているわけではないだろう。



ベニスビエンナーレ会場前の海に横たわるブロンズ

建築家にとって、今知っておかなければならないことは、絵画のフィールドの人々が今、何にエネルギーを注ぎ、何を表現しようとしているかを理解することだろうと思われる。

本企画の意義は各々が相互理解を深めるための機会を作ったことにあり、私の立場からの役割は、都市と建築を取り巻く状況を概観し、合せて建築家が今、何を考え、どんな方法で建築をつくっているかを詳らかにしその実体を通して、アーチストの方々の理解の手助けになることだと考えている。

先進国の都市と建築の状況

大都市の市街地にあった、かつての鉄道ヤードや、中央市場、港湾施設や、造船所等はさまざまの歴史と思い出を作ってきたが、産業構造の変化によってその歴史を終え、その物語を受けついで、新しい街づくりの中に甦ろうとしている。

かつて生産性優先の考え方の中で活躍してきた産業施設が、今日では一般大衆の生活の場として衣替をし、再び大衆文化を育くむ施設として活躍の場を得始めている。

日本や欧米先進諸国では、社会の構造や、産業構造や人々の意識の変化によって、都市にいろんな状況の変化が起っている。鉄道輸送の時代が終り、広大な土地がおおむね都市の中心地に荒廃したまま放置されている。こんな施設は、日・欧米の大都市のいたる所に在りそれが今、産業用空間から市民生活空間に生れ変るべく各地で計画が進められている。

その代表的な事例のひとつが、カナダの南東部オンタリオ湖に面したトロントの街である。トロントもご多分にもれず、流通の革新により、港湾の機能を失ない、それと関連した、鉄道周辺施設や鉄道ヤードも同様の浮き目にあっている。しかしこれらの場所はイー

トセンター等、中心市街地を背後に持ち、港湾のウォーターフロント再開発や旧市街地と一体になって、コンベンションホールや、多目的ドーム、世界一高いＣＮタワー等が建設され、その周辺に、ホテルや住宅、商業施設等の計画が合わせて進められている。

同様のケースは、アメリカの南部アトランタにおいても進んでおり、巨大なコンベンションホールや、オムニインターナショナルホテルやそれに関連する商業施設も同時に建設されている。

又、今まさに計画が始まろうとしている大阪駅、西側一帯や北側、鉄道施設用地は、市民の生活を支える空間として機能しようとしている。同様に神戸でも、港湾施設との関わりによって機能していた鉄道ヤード跡地が、住宅や商業アミューズメント的な施設や、ホテル等に生れ変ろうとしている。少し変った事例では、かつてパリ博覧会の時、オステリッツ駅から会場まで、観光客を輸送した時の終点駅として使われたオルセ駅はその後、ホテルとして一時期活躍し、その後放置されたままだったが、かつてチュイルリー公園の中の美術館にあった後期印象派等の画家達を中心に、多くの作品が展示される美術館として再び脚光をあびている。

かつてのロンドンやパリの台所をあずかっていた中央市場は、その規模が小さくなったことや、立地の良さ等を生かすため、他に移転され、その歴史は閉じられた。マイフェアレディーの舞台になったこのロンドンの生花と野菜の市場だったコンベントガーデンは、その鉄骨の古い佇まいと周辺の建物を再利用し、レストランや、土産品、衣服等が中心のショッピングセンターに変わっている。教会に面した石畳の広場では、若いマジシャン達の芸を磨く檜舞台になっている。

一方、パリ中央部のバルタール市場の跡地には、建物の大部分を地下に埋めその中央部を、すり鉢状に空に開き、地下空間でありながら外部との関りのある、安全で快適な都市空間を作り出している。一足先に開発が進められたポンピドーセンター（**写真**）とリンクして、新しいパリの観光名所になっている。特にポンピドーセンターは、建物の足元にただコンクリートで舗装されただけの巨大な広場があり、多くの大道芸人達が集まり市民や観光客のチャーミングスポットの一つになっている。この広場の隣にあるユーモラスな噴水施設のアートとしての魅力は、ラビレットのドラゴン（**写真**）の巨大な遊具と並んで、非常に印象深いパリの現代アートの一つである。

その他、先述のトロントの事例同様に、港湾施設の再開発の事例としては、かつて中国からの移民の埠頭でもあった。ニューヨークのサウスストリートシーポートのように、背後にスカイスクレーパーがそびえ立ち、地域全体を生きた博物館として再生し、昼食時ともなるとネクタイを締めたオフィスワーカーと、観光客が一緒になって食事をしている風景等、興味ある新しい街の風景が生れている。同様な事例は、サンフランシスコのフィッシャーマンズワーフや、神戸のメリケンパーク周辺等、先進国の主要都市のいたるところでこのような風景を目にすることが出来る。

一方、エプコットセンターや、アナハイムのディズニーランド、エドモントンのウォーターランド、長崎のオランダ村やハウステンボス計画、北海道のトマム等、リゾートやレジャーを目的とした開発や、ポートアイランド、六甲アイランド、空港前島等に代表される。埋立地の開発等、これらのプロジェクトを数え上げたら限りがない。

次にテームズ川沿いのドックランド一帯の造船所では、かつては多くの船舶が建造された地域であったが、船舶の大型化の時代にうつり、テームズ川の水深では航行が不能になり長い間見捨てられ荒廃してしまっていた。しかし今この地域に新しい空港もでき、オフィスや住宅、商業施設等に姿を変えて再生され始めている。



ポンピドーセンターそばの広場にある噴水



ラビレット公園のドラゴン

古くなってしまった埠頭を新しく埋立てられた人工島に移し、その中心部に住宅等、生活空間を加え新しい港湾施設と合せて計画されている例も多い。全体的な街づくりの中で、道路や公園、上下水道等、基盤の整備と同時に病院や、ホテル、商業やオフィス、住宅等、建築物を計画し、街の潤いと文化を育むために、水辺の施設を設けたり、緑やスポーツ施設等、あらゆる要素が重ねられている。

これら新しくつくられた街では、歴史的に評価できるものも街のコンテクストも、何もない、そのためにアートに期待する部分は非常に大きく街づくりの中で重要な位置をしめるであろう。

先進諸国での重厚長大と言われた産業構造は変遷を遂げ、大衆の意識と価値感は大きく変り１人１人が個性的になることによってそのニーズは多様になってきた。

これを受けて建築の領域でも、インテリアデザイン等、ファッション性の高い分野では、反応も早いが、再開発や、新規の大型プロジェクト等に、新しい価値感にもとづいた考え方を盛り込んだ計画を進めるには、それはそれなりに時間の経過を待たなければならな

い。

今、再開発や新規プロジェクトに求められる価値感は、計画地が、東京や大阪のような大都市の中であろうが、北海道のトマムのような大自然の中であろうが、その内容に多少のウェイトの掛け方に違いはあるが、豊かな自然と、都市文化の華かさと利便性をいつも同時に求めている。

具体的には都心のホテルのロビーやショッピングセンターに巨大なアトリウム（中庭）を設け、太陽の光や緑の林を求めたり、又、レストランの立地をリバーサイドに求め、夜食事をしながら対岸のイルミネーションや川を登り下りする船の明りを楽しむ等、都市に居ながらにしてワイルドな自然を求めている。

また、大自然の中の超高層のホテルに泊り、夜は友人とバーで時間を過し、昼はゲレンデにシュプールを描く。

すなわち全てのプロジェクトが多様なニーズに答えようとする結果、立地条件が違うにもかかわらず結果的にはどれもこれも計画の内容はほとんど同じ傾向になってしまうのが今日のプロジェクトの実体でもある。

設計論　モダニズムからポストモダニズムへ、そして……

今日の建築を取り巻く、状況を概観するとモダニズムの時代は終り、次にポストモダニズム、そしてその後にすでに幾つかの新しい考え方が表われている。しかし、これらの考え方も複雑多岐にわたり、百人の建築家がいれば、百の考え方があるといわれるようにそれらを一つの流れとして揃えることは不可能に近いと思われる。それらの中からの影響力の大きい幾つかの流れに限って断片的だが触れてみたいと考えている。

モダニズムの建築が機能主義と合理主義に支えられた建築であることは言い古されたことであり、今さらここで取り上げるまでもない。そのことはすでに事の良し悪は別にして歴史の中でその位置を占めている。

モダニズムの運動から派生したポストモダニズムは、建築家のさまざまな考え方を伝達しようとして、古典的なスタイルを表現の手段として用いられた運動である。

機能主義に「もう一つの何か」を加えようとする試みであり、2重のコード化によって成立した運動である。その中でもとりわけ歴史的色彩の濃い、地域特有のものや、バナキュラーなものへの傾斜が非常に強い特色を持っている。

この運動の影響を受けて、いろんな地域の文化や伝統、歴史、都市や集落のバナキュラーなものの持つ豊かさを評価し、ラスベガスに代表される商業空間やサインの持つ特性や象徴的色合いの濃い表現の形式等、かつてモダニズム運動の中で評価の低かったコードを積極的に活用し、作家個々の考え方によってその組み合せの要素には個人差が生れるが、いずれにしても個別性の高い建築が生れたことは事実である。

これらの運動の背景にあるものは、大衆化する文化の多様さに対応しようとした考え方が表わす現象であり、時代の精神の一面がそこに表われている。かつてのモダニズム建築の画一的で、均質な空間構成と表現形式では今日的時代が要求する空間の豊かさは表わせず、新しく生れたデザインの考え方である。しかし、表現主義的色彩の濃いポストモダニズムの建築様式には、すでに揺り戻し現象が表れ、その様相は混沌としている。

次に、アートや建築は常に社会の状況から強い影響を受けるが、とりわけ建築は道具としての一面を持ち、状況と不可分の関係にある。

産業構造の変革、開発のトレンド、社会のニーズ、経済の流れ、日本の今日的問題では、土地問題等も無視しては通れない大きな要素の一つである。

同様に、コンピューターに代表される、ハイテクの時代的雰囲気とイメージ等もデザインの流れを決める要素となる。かつて手工芸的魅力を充分に発揮した建築の分野でも、工業化脱工業化へ進む技術革新の様相が表現の上にも反映されている。

かつてデュシャンのアートが示した様に、建築の世界でも素材の質感や手工芸的要素に頼ることなく、作家の時代を見る目と感性によって、どこにでもあるありふれた素材を用い、無機質な表現の方法で、現代から次の時代を表現しようとしている方法がある。

重い有機質的な要素は排除し、軽い無機質的な表現形式に収斂されていく方法である。空間の中で建築家が表現しようとする主体は物の存在そのものを見せることよりも、時代の風や、社会の雰囲気を作家の悟性と感性でとらえ形に表すことがテーマになっている。この傾向は脱工業化の時代的背景の中から派生した考え方で、建築がかつての言葉では言い表せないほどに枠の外に飛び出して、まさに「建築のようなもの」として存在するに至っている。この表現をつきつめていくと、もはや建築は考え方と言葉としてしか存在しないのではないかと思われるほどにしなやかで軽いものへと向っている。

最後は、かつて自然の中に人間がバランスよく生活した経験を持っている。しかし今日の都市はその限界をはるかに越えている。

しかし、都市もやはり自然の一部であり圧倒的に人間環境優位の自然である。このような人間が作り出した都市環境の中には危うい魅力が潜んでいる。それはまさに人間が作り出す都市文化の一面でもある。

そこには建築の世界で言う、機能も、合理性も、個性溢れる表現も、時間と経験も、空間の持つ精神性も、地域性も、象徴性も、何もかも、混沌として存在する。

この人間が作りだす都市バナキュラーな様相と、光や風や雨や音、緑や空等、およそ考えられるいろんな要素を包括的に包み込み、なおその混成品として表現し、それでなお自然なイメージでさわやかな様子を持ったしたたかな建築をつくる作家がいる。

この方法は今日の都市の多様さを逆手に取った表現の方法であり、また、言葉を変えると、都市文化の総体のイメージを建築的に表現した方法であり、今後の都市と建築に一つの道を開いている。

建築とアートの関わり

建築家とアーティストが協力し建築にアートが関わった例は多いと思われるが、その中でも高く評価された作品は、丹下健三と岡本太郎による東京都庁舎の陶板画や同じく、香川県庁舎の猪熊弦一郎との例や、雑創の森学園の六角鬼丈と新宮晋の作品等だろうが、40年という年月の長さに比べれば成功した例は少ないものと思われる。

まず最初にこの方法は作家同士が計画の最初から相互の意見を出し合って議論をつくした結果、フィールドの違う二つの作品が「融

合」的な関係を生むか、また「対立」的な関係を持つかは別にして、両者の作品が、きちんと自己を主張し、空間を高めることが大切である。

しかし、この方法はまず最初に両者の能力がほぼ同じであることと次に、お互に相手の作品をアプリオリに読みあわなければならないところにポイントがある。

次にサンフランシスコのエンバカデロセンターのハルプリン（**写真**）の例だが、この場合は直接建築とは関わらないが、広い再開発エリアの空間の質と周辺の状況を読み取らなければならない方法だろう。

具体的にハルプリンは与えられた画地の背後の高速道路の騒音と無骨な表情を中和すべく、工事中の工作物のイメージと水をあしらった巨大なオブジェでその音をかき消している。この広い空間をダイナミックな存在感のある立体でみごとに支配している。

しかし、この方法は建築家や都市計画家とアーチストが直接関りを持たないだけに一番あぶない方法である。大部分の失敗例は建築の設計完了後にアーチストに相談を持ちかける場合が多く、この事が後に問題を生む。

この場合もやはり最初から建築家は立体を読み、アーチストは建築や周辺環境を読む作業を怠ってはならないだろう。

最後に、デュッセルドフの近郊ネビゲスに建てられたベネディクト派の巡礼教会（**写真**）は、外観、内部空間共に巨大なコンクリートの立体そのものの感がある。アプローチ階段のカーブとその構成、巡礼者のための宿泊棟の外壁のリズムと列柱の形態、教会自身の屋根と外壁の変化の様子、内部空間の彫刻的力強さ等、その表現の豊かさに特徴があり、完結している姿をうかがうことができる。

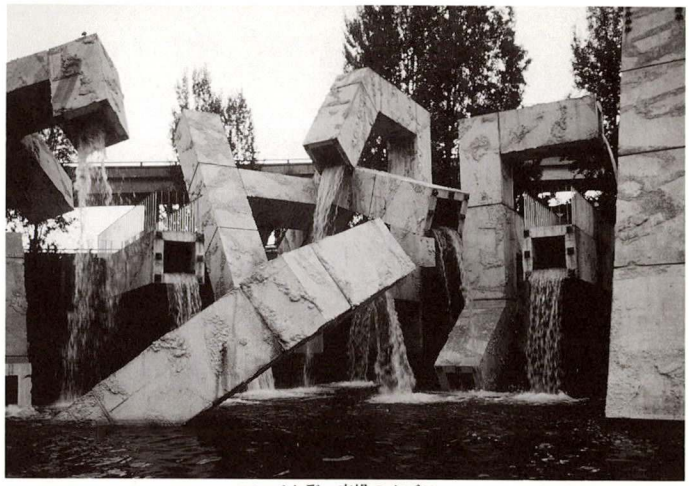
又、ロスアンジェルスのダウンタウンに建てられたフランクゲーリーのロヨラ法科大学（**写真**）はロスアンジェルスの風景の中にあるごくありふれたエレメントを、表現言語として用い、コンクリートの巨大な四角なプラントボックスの中に植えられた芝生や、何の変哲もない円柱の列、レンガタイルに白目地を詰めた工場風の棟、四角な箱型のありふれた棟に四角な窓が無表情に並ぶ黄色い外壁の校舎と、街のいたるところで敷地の周辺に張り巡らされているネットフェンスを、その支柱ごと切り取って一部をモルタル塗りの校庭の中に無造作に立てられたような立体等、いろんな要素の混成品で構成された明快なコンセプトの「立体」だと思われる。神戸のメリケンパークに計画されたフィッシュダンスも同様に、魅力を持った建築だと言えよう。

この様な建築を設計する建築家の意識の中には敷地や建物の隅から隅まで空間を読み、その部分と全体が有機的な関係を持ち建築それ自身が「アート」であることを意図している。ベームやゲーリーを例に引いたが、これは何も彼らだけの意識ではなく、大部分の建築家がこのように考えているものと思われる。

この考え方の意識の底には建築が他の何ものをも加えず自からの方法により空間の全てを支配し、何の破綻も無い空間を作りたいと考えて続けてきた歴史の中で生れた作家意識の表れであり、考え方の異る他者をまじえて作業するにはよほど相手を理解しなければならないだろうと思われる。このことをアーチストの立場から言うならば、多分同じ答えが返ってくるものと思われる。

いずれにせよ両者が協力してひとつの作品を作り出すにはそれ相当の理解と手続きが必要である。

（えんどう　たかお／遠藤剛生建築設計事務所所長）



エンバカデロ広場のオブジェ



ゴットフリートベームのネビゲスの教会



フランクゲーリーのロヨラ法科大学中庭の風景

「建築美術」の条件

——美術からみたアートと建築の接点——

今井祝雄

1.美術のルーツ

建築とアート、建築と美術というとき、それは建築空間とそこに設置された美術、或いは建築の構造に組み込まれたアートを指している。

私はそうした美術を、仮りに「建築美術」と呼んでいる。仮りにというのは、この表現がけっしてその意味を適格に表していないにもかかわらず、いままだこれに代わる気のきいた呼称が思いつかないからだ。他に何かないだろうか。

関連したことばでは「パブリック・アート＝公共芸術」が挙げられよう。だがこの場合、何も建築空間に限られずむしろ広場や街頭の彫刻が一般的だろうし、公共的でない建築の壁画なども少くない。

建築美術とは「建築」と「美術」を単純にくっつけたことばにすぎないが、そういえば建築と美術は、もともと一つの同じ存在であったのだ。

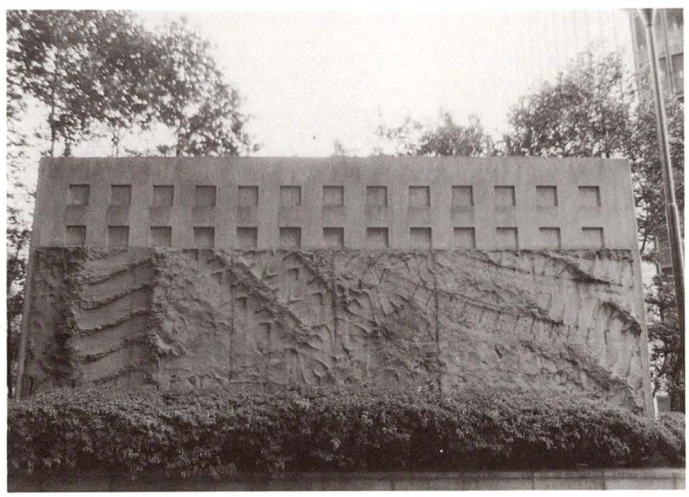
まだ美術や芸術ということばがなかった太古の時代から、人類は洞窟に絵を描き、さらに神殿や王宮の柱などに刻んだ数々の彫刻を残してきた。そのことによっていま私たちは、芸術・文化のルーツを辿ることができるのである。

洞窟も建築の原型かもしれないし、インディアンが刻んだトーテムポールも建築の基本である一本の柱にほかならない。このように絵画・彫刻は、もともとは建築に付随していたということができる。

2.建築から離れて

それが近代以降、美術は建築から自立し、さらにデザイン・工芸と分化、各々の道を歩み始める。とりわけ絵画は、写真の発明と普及によって、対象を写しとる以外の価値を見い出し、やがて額ぶちからもはみ出て、〝美の殿堂〟たる美術館や画廊での展覧会にその舞台を移すようになって久しい。

このように額ぶちからはみ出した先鋭的な現代美術ではあるが、その活動を支える美術館・画廊といった美術の専門空間が、別な意味で、ひとつの額ぶちとして存在している、ということもいえるだろう。



大阪市北区、関電ビル南側のコンクリートスクリーン。水谷恒による黒四ダム・モニュメント、1961年。(筆者著「アートする街かど」より)

新たな額ぶちとなった美術館や画廊では、台座を否定する彫刻も現われ、そこで奔放にふるまう仮設的なインスタレーションや展示空間そのものを作品化してしまう環境芸術へと、その表現領域を拡大しつつ現在に至っている。素材的にも伝統的なものからレディ・メイド（既成品）、そして光・映像を含むハイテク素材にまで及んでいる。

3.美術館の美術

美術館。ここは美術作品の保存研究とともに、現代の美術表現にとって特別な場所である。人に危害を及ぼさない限り、この中ではどのような表現も許される〝アートの保護区〟といっていいかもしれない。

ここでは建築は、美術をより良く見せることが前提とされ、美術に奉仕する空間が求められる。絵よりも壁がきわだってはならず、彫刻以上に柱が存在感を主張してはならない。そして何よりも、ここを訪れる人はおおむね美術愛好家であるか、少くとも芸術と出会いたいという目的意識をもった〝鑑賞者〟であることの違いが大きい。彼（彼女）の目は、天井や柱にではなく〝陳列〟・〝展示〟され

た作品にのみ注がれるのである。

そうした〝純粋〟に美術を見るための特別の空間でない、普通の建築空間における美術の〝たたずまい〟が建築美術の存在の仕方ということができるだろう。

人はここでは鑑賞者であるとは限らない。ほとんどは他の目的をもつ来訪者であり、外壁のレリーフを眺める人は単なる通行人であり、あるいはそこで働く人であるかもしれない。

建築美術は、そうした人と関わるとともに、屋外にあっては街並みや景観と、屋内にあっては内部空間のディテールとも、基本的に等しく身を置く日常的かつ社会的な存在である。それでは、この建築空間でアートは何を主張し、どのような役割を担うことが可能なのだろうか。

建築美術は、単に建築とアートの関係を越えて、アートと個人・社会との関わりを問うている。そのことは、とりもなおさずアートのアイデンティティを見据えることにほかならない。

4.新しい人間環境を

「この頃は空間という言葉にかわって、環境（エンヴァイラメント）ということが、しきりにいわれます。空間をつくるということが、とかく人間から遊離しがちだったことに対する反省からでてきていると思われます。一たんは、いわば非人間的な、純粋な幾何空間を追い求めた建築デザインも、もっと人間の肉体や精神と深くかかわった環境創成に、むかうときがきているように考えられます。」

以上は1968年、東京で行われた「建築＋美術・作品写真展」のカタログに寄せた建築評論家、神代雄一郎の「新しい人間環境を」と題する一文である。20年以上を経たいまこれを読んでも、まだまだ今日の状況で有効性を失っていない。

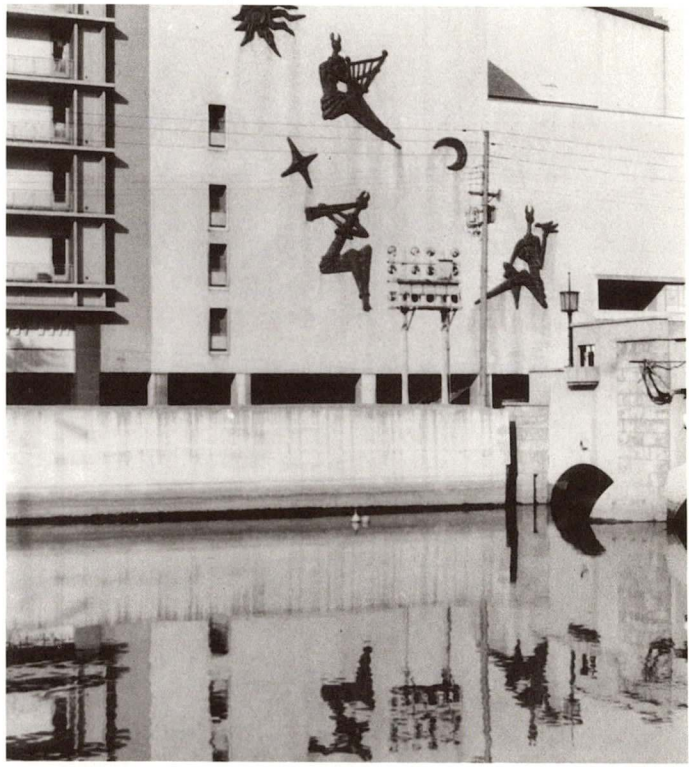
同文が書かれた1960年代といえば、私自身、現代美術と出会い制作を始めた時期で、「具体美術」や各地のアンデパンダン展が大きなムーブメントをもち、「オフ・ミュージアム」ということがいわれたりもした時代であった。ちょうどこのころより全国的に地域開発や建設が盛んとなり、わずかにではあるけれど公共建築にアートが設置されるようになったのである。

5.ともにつくる

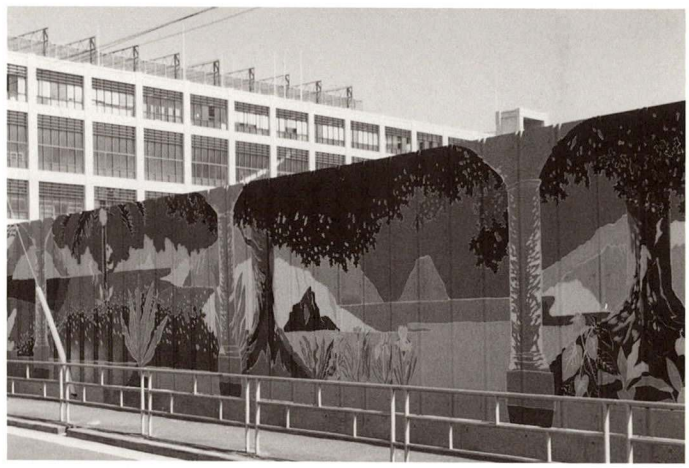
現在では新しい公共施設のロビーなどに壁画やモザイクが施されていることは珍しいことでないが、ここでいま一度確認しなければならない点は建築美術とは、美術が建築空間と一体化して成立していること、つまり建築と美術が分かちがたく存在しているという関係についてである。

一体化とは必ずしも建築軀体に美術を組み込んだ〝つくり付け〟だけでないことはいうまでもない。それはできあがったフロアに置く彫刻を探し、壁に掛ける絵を選ぶ〝空間を埋める〟作業に対して、建築（家）と美術（家）が共に〝空間を創る〟空間創造である。

後者こそ基本的な建築美術の取り組み方であり、設計の比較的初期の段階から美術家の参加が要請されるのが望ましい。この場合、美術家は建築のコンセプトから把握でき、空間を十分に考慮しながら時間をかけて制作に励むことができるうえ、建築空間からのダイレクトな発想による新たな展開の可能性も期待できる。



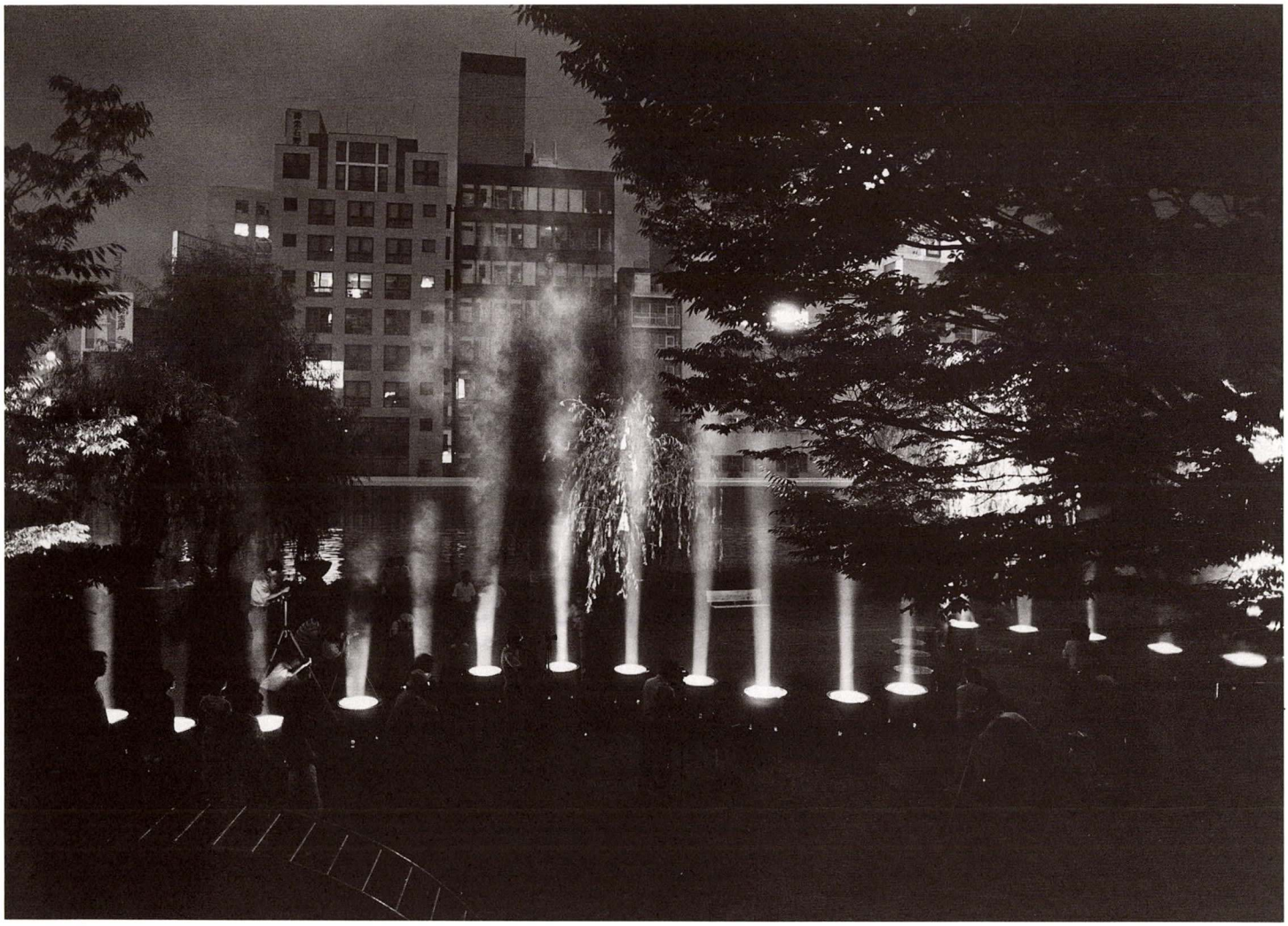
大阪フェスティバルホール南面レリーフ「牧羊神」。今村輝久・建畠覚造・向井良吉ら1958年合作。（筆者著「アートする街かど」より）



〝もうひとつの建築美術〟として、建築の前段階である工事塀のペインティングが盛んになってきている。森喜久雄・画。大阪市北区「大淀ＤＡＴＳ（ダッツ）街かどキャンバス」（筆者監修）1988年



大阪市北区「大淀ＤＡＴＳ街かどキャンバス」の筆者による〝ビデオアートのぞき穴〟と西村建三のシルクスクリーン1988年。



著者近作「ライトアートガーデン」
1989年７月、中之島公園にて。500Wの白色光100基がウェイブしながら延長120ｍに展開する。新しい夜の都市公園へのシュミレーション。（大阪青年会議所主催）　写真／細川和昭

6.建築美術の芸術性

ところで、建築美術というからには建築空間における当の作品の芸術性について素通りにすることはできない。

一般に、建築美術においては、その内容である芸術的濃度はかなり希薄化されている場合が多い。例えば、一人の画家の数多い作品のなかで、ある壁画が物理的には最大の大作であることはよくあっても、その画家の最高の代表作というケースは残念ながら少い。

それは先に述べた施主・設計関係者の美術に対する見識とも関わっており、一方的に美術家の力量不足とはいえない。美術を建築の装飾程度にしか考えていなかったり、有名美術家の作品を迎えることで、建物のグレードアップをはかろうとする場合も少くないからだ。

特定の建築空間を前提に創られる建築美術においては、移設や取り換えは容易ではない。まずは美術家にとってテーマなどの制約に妥協することなく自由に制作できることが優先されるべきで、アートがその芸術性を遠慮して創られたなら、当の建築の質をも落としめることになりかねない。

よりよい建築美術とは、その建築空間において最も生彩を放つものであるべきで、その建築にとってかけがえのない存在とならなければならない。だがそれは、ひとり芸術家の肩にあるのではなく、施主や設計者をはじめ関係者の、芸術に対する理解と柔軟な対応が大きく作用しているのである。

7.社会的文脈のなかで

いっぽう美術家においても、展覧会と同じ次元で制作した作品をそのまま持ち込むことは安易にすぎよう。いうまでもなく一般の建築空間は展覧会場ではないのである。人々は作品を観るためにだけやってくるのではない。少数の専門家に限らない一般の多くの衆目と永い時間に、内容的にも物理的にも耐えられることを配慮しなければならない。

実際、展覧会で魅力的だった同じ作品が日常的な現実空間に移されて生彩を欠く場合がある。そうした作品はホテルのロビーで気ずかれずにあるよりも、美術館の展示室で愛好家の熱い視線を間近に浴びているほうが幸せなのだ。また、作品の種類や内容によっては、美術館という文脈のなかで意味をもつものもある。逆に、現実空間でユニークな作品とて、ギャラリーにおいては映えない場合もあるだろう。

人がそうであるように、美術作品もそれぞれの住む場所があるとすれば、建築美術とは、まさしく建築のなかで建築とともに生きているのである。

（いまい　のりお／造形作家）

●プロデューサー紹介　1

西武百貨店つかしん店美術サロン

いわゆる横文字の職業が流行り、ヒンシュクを買いつつある昨今、新たに「アートプロデューサー」或いは「アートディレクター」などと言う、いかにも胡散臭い言葉が登場してきました。実際、私達もそのように呼ばれ、自称もしている訳ですが、どこか居心地の悪さがつきまといます。それは、名称自体がまだ一般的ではないからなのでしょうが、そんなとまどいとは裏腹に、とりあえず、仕事が先行しているのが現状です。そこで、私達、西武のアートプロデュースのアウトラインをご案内致します。

仕事の内容

(1)コンサルティング(2)調査・検討(3)提案(4)プレゼンテーション(5)契約(6)制作実務(7)アフターケア

私達の業務は、およそこのような順序で進行します

(1)コンサルティング――クライアントとの最初の打合せです。ここで、創り出そうとする空間のコンセプト、イメージを提出して頂き予算、納期などを確認します。

(2)調査・検討――建築のコンセプトを理解したうえで、建築とアートによる最良の作品が創出されることを念頭に、アーティストを選定します。前提となるコンセプトによって作家を絞り込むのではなく、そのコンセプトに対して、アートの側から、どれだけ表現の可能性があるかを検証しながら、一方で、各々の作家のスタイル、使用する素材、考え方、さらにはスケジュールなどを考慮して、それらの接点を拡大するかたちで方向付けをして行きます。

(3)提案――調査・検討を経ての結果を提案致します。この場合、殆どが複数案となり、クライアントとさらに話し合いながら、最終案を導き出すことになります。「調査・検討、提案」は最良の作品を現出させるための重要なプロセスであり、創造の場にかかわるということから、私達のエネルギーが最も集約される部分でもあります。

(4)プレゼンテーション――選定された作家によるエスキース・ドローイング、図面などを提出し、構想される作品についてプレゼを行ないます。クライアントの了解を頂いた時点で(5)契約となります。

(6)制作実務――作品の制作、搬入、据付などのディレクションをします。ここでは、あらゆる面に気を配りながら、作家の制作意図が確実に実現できるよう計ります。

プロデュースのポイント

1. 情報の量と質――建築界から美術界へ、美術界から建築界への正確な情報の交通は、少なくとも現時点では充分とは言えないと思います。プラニングするときに、候補作家が身近な５人よりも、全国から選ばれた50人である方が、新たな可能性が広がるはずです。ですから、やはり、豊富な情報が必要となります。さらにその情報の質も、作家に対するデータの無機的な蓄積ではなく、作家の創造行為における基本的なコンセプト、さらには個々のスケジュールまで把握し、変動する情況に対応できる、生きたものであるべきでしょう。

2. 付加価値――私達がプロデュースするものは、たんなる建造物ではなく、作家による付加価値を有する作品です。それゆえ、作品のマーケット性の調査、確認、アフターケアとしてのメンテナンスによる価値の保全は、ディレクションの重要な要素となります。

私達は建築とアートが、相互の空間を異化させる装置であり得るような、高度な次元での出合いを実現し、クライアント、設計者、作家の各々にとって、最良の結果を出すことのできるシステムでありたいと考えます。

（記・川上直也／西武百貨店つかしん店美術サロン環境造形）

●プロデューサー紹介　2

渡辺石彫事務所

設　立

昭和53年１月７日

代表者

渡辺　益国

業務案内

- 街路・公園・広場・屋内空間等におけるモニュメント、各種彫刻作品（ストリート・ファニチャー等）の設置企画、及び制作。
- 各種施設のシンボルモニュメントの企画制作。
- 現代彫刻に関する話題・問題をとりあげた季刊誌「モニュメント・プロデュース」の発行。単行本「石屋史の旅」発行。
- 現代彫刻作品展覧会の企画、開催（昭和58年より毎年開催）

〔開催例〕

1987「まちに『生きる』彫刻展」（18作家出品）

1988「河合隆三石彫展」1989「田中昇石彫展」等

主な仕事

- 島根県大田市新庁舎モニュメント
- 伊丹市立伊丹小学校モニュメント
- 守口市駅前再開発モニュメント
- 逆瀬川駅前再開発彫刻
- 阪急塚口駅前「近松モニュメント」etc.

（記・藤原由子／渡辺石彫事務所）

建築とアートの出合い

――神戸国際会議場――

田中　直人

神戸ポートアイランドは、神戸の都市機能を充実させる新しい都市空間の創造をめざして建設された島である。その中心部インターナショナルスクエアは、国際都市神戸の核となるべき、コンベンション関連施設の整備を図っているエリアで、市民広場を中心として、ホテル、国際会議場・ホール、国際展示場、駐車場等が配置されている。

この内、ポートピア'81に先立ってオープンした国際会議場は、ホールと共に国際交流会館というＳＲＣ造11階建、延床約30,000㎡の建物の４階部分に設けられていたが、その後の国際会議をはじめとする各種会議需要の増大に伴ない、会議場の増床計画が企画され、貸事務所スペースだった５階フロア（約1,860㎡）をすべて会議場スペースに改装することになった。

以上が、この建築とアートの出会いの場が生じる背景であるが、もとより、この国際会議場周辺には、建築及び環境デザイン的視点からさまざまなアートとの出会いが演出されている。ファッションタウンとよばれるこの界隈には、公共で整備したアベニューや広場における水、緑、彫刻、ストリートファニチャー、照明等と共に環境・景観形成計画協定にもとずく各建築物の敷地内セットバック空間等に、同様のデザインの実践をお願いしている。**(写真)**市民広場入口には、「時を告げるモニュメント」、「陶と水のモニュメント」がある。後者は、陶芸作家の會田雄亮氏によるアートである。

都市空間の中の、建築空間、建築空間の中のインテリア空間と、さまざまな空間のひろがりの中で、僕たちはアートを含む多様なデザインの仕掛けを試みることが多い。本来、建築デザインそのものの領域で展開すべきものに加え、アートとよばれる存在により、さらに、空間の質を高めようとすることもポピュラーになってきた。

この国際会議場の増床計画では、事務所フロアの階高（Ｈ＝3900）と構造上はずすことのできない柱列ゾーンの制約の中でプランニングがスタートした。大会議室（212㎡）２室、小会議室（87㎡）３室のほかに、このフロアの個性あるコミュニティゾーンとして、ロビーを、柱列ゾーンとＥＶホールの間に配置した。**(図)**各会議室のデザインを考えるにあたり、できるだけ神戸のイメージを感じるものにしたいということから、そのカラーコーディネーションでは、市民の花「紫陽花(あじさい)」の水色、ピンク、紫といった柔らかいトーンを表現することに努め、ベースになる天井や一般的な壁、建具、そしてサインは、白とグレーの無彩色でまとめた。

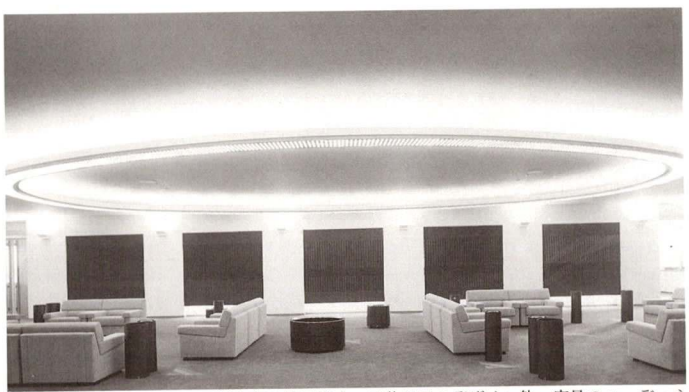
その中で、当初、制約条件とされた列柱をロビー壁面デザインに積極的に活用することをめざし、柱で仕切られたタテ185cmヨコ200cmの５ヵ所に神戸らしさを表現し、空間のポイントとなるものを、草間喜雄氏に依頼した。作品を活かすため、背景となる周囲の照明や仕上納まり等について、色々と検討を加えた。全体として、柱のある壁面で５つに分断されるものの、それぞれを窓から見るように５つのアートで一連の情景―海と山の間にひろがる神戸の街―を映し出した形になった。ロビーでは、南北の窓から見る実際の神戸の街とあわせて、アートによる情景への語らいを演出している。

この建築とアートとの出会い実現の陰には多くの人との出会いがあった。現場を担当した狩野裕行、松岡克彦の諸氏をはじめ、予算外のアート導入に対する方策として、市への寄贈スポンサーに協力してくださった関係者等、一つの「建築とアート」の出会いを支える人々の存在を忘れることはできない。〝ランドスケープ〟と名付けられたアートが融けあう建築空間が、今後さまざまな人にどのような〝ランドスケープ〟を思い起こさせるのか楽しみである。

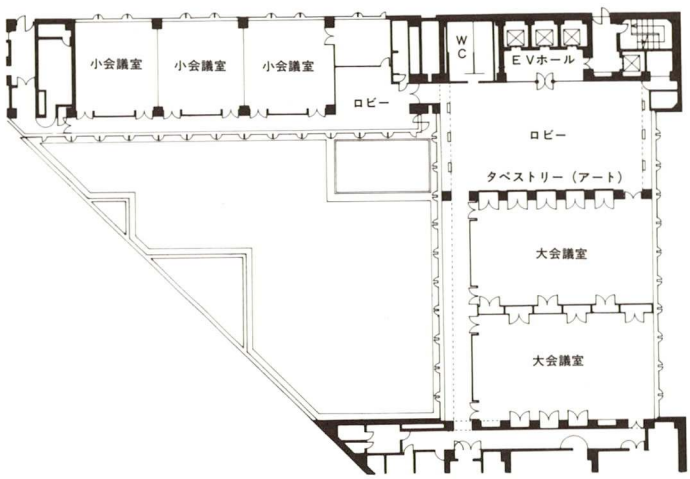
（たなか　なおと／神戸市開発局計画課主査）



ファッションタウンの一景（オールスタイル）。セットバック空間にファッションアベニューと一体化したデザインを行っている。



ロビーのアート。アートに調和する壁面構成、天井照明のデザイン他、家具のコーディネートに配慮した。



神戸国際会議場５階平面図

建築とアートを結ぶ媒体としての詩

――オフィスビルとスポーツメーカー研究所の例――

酒井利行

〝丸い鳥って〟
透明なひびきをかなでながら
時をこえて　飛翔する。

大空にゆったりと浮遊し
適格に餌をとらえ
時として舞い降りてくる。

光のカゴを棲とする　気ままな鳥。
宇宙にかがやく　未来の鳥。　（筆者作）

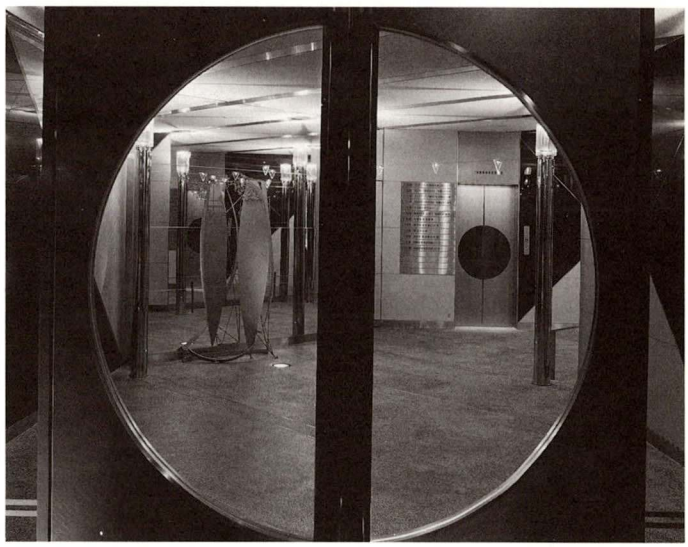
この詩は、建築家と彫刻家がイメージの対話をするために作成したものである。彫刻家吉田和央氏の作品〝丸い鳥〟に対して、設計者として、その彫刻の存在を、建築のコンセプトと結びつけるためであった。吉田氏の作品は、スチールを素材とする。

材質のもつ重量感であるとか、固さをあまり感じさせないほど、軽々と立っている。線材の組み合せで、大きい面を支えている構成には、何かサラッとした透明感やスピード感が漂っている。

〝朝日〟という言葉のもつイメージとして、我々は、まるい、円、太陽、明るい、光、赤い、飛翔情報……等を考えた。その中で形態として円、ポイントカラーとして赤を抽出し、それが明確に形態として表出されるように設計することであった。その意味で、建築のもつイメージと、彫刻のもつイメージが、うまく融合するのではないか、と思われた。〝丸い鳥〟という名称が吉田氏の単に思いつきのものなのか、それとも、どこかに出典となるものがあるのか、我々は、我々なりに考え、いろいろと本をあたりその〝丸い鳥〟の出どころを探ってみた。そこでガストンバシュラールの書いた空間の詩学の円の現象学という章の中に、〝丸い鳥〟の言葉を見つけたのである。リルケの詩を引用して次のように述べている。『……それにもかかわらず、まるい鳥の呼び声は、それをうんだ瞬間に、枯れた森の空のように、ひろびろとやすらう……。ミシュレにとって鳥は完全な円であり、それは円の生である。……鳥はここでは大空を飛翔する姿で考察されており……鳥の存在を宇宙的状況においてとらえ……宇宙性の中心をたずねる宇宙的想像力の哲学が存在するならば、このイメージは、関心をひき、意味をもつことになろう。……』吉田氏の考えた〝丸い鳥〟と我々が思いを託した〝まるい鳥〟の出典が、はからずも「空間の詩学」であったことは、この対話をいっそう感動的なものとした。思わず腕と腕をかたく組み合い。肩をたたきあいたくなるような共感の一瞬であった。我々は、建築と彫刻が、イメージの中で、がっぷり四つに組んで一体の空間を創造していく思いがした。

今回の例に引き続き、現在、あるスポーツメーカーの玄関ホールでも、同様の試みをしている。玄関ホールは、巾７ｍ、奥行き43ｍ、天井高11ｍの大空間である。その空間の中に、何か〝気〟のように漂うものを浮かせられないかと考え、北山善夫氏に、オブジェ制作をお願いした。北山氏の作品は、日本の伝統的材料である竹と和紙で構成されている。繊細で、しなやかな動き、あるいは、目に見えない何かを感じさせてくれる。〝丸い鳥〟の場合「オブジェの題」に対し「詩」をつけたが、今回は「建築のコンセプト」について「詩」をつけて、対話を行った。北山氏とオブジェと建築空間の融合をはかるために、打合せを進めているが、詩でのイメージ対話は、今回も成功を収めているようである。

詩は、文学の物語性とは違った、抽象的な、イメージの世界を、言葉の操作によって、読手の想像力を誘発する。そして、その想像力の振幅の大きさのうちに、建築のコンセプトと、アートを一体化する媒体となりうるものである。



和歌山朝日ビルディングのアート
設計、施工　竹中工務店
彫刻家　吉田和央
プロデューサー　AD&D　竹村楊子

〝風の韻律〟
階段を登りつめると
朝もやのオリンポスの丘に
ファンファーレが
高らかに鳴りひびいた

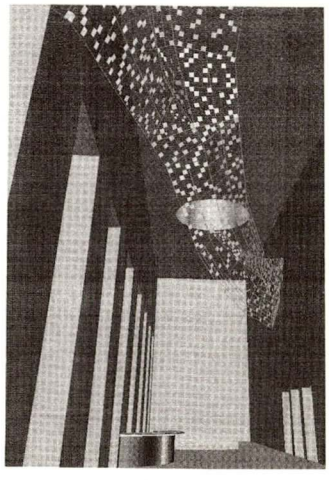
静ひつな空間に浮遊し
横たうのは　何なのか
それは　光のかなたへ
すい込まれるように　飛翔していく

竹のように　しなやかに
アキレス腱を　生き生きと躍動させ
大きく手をひろげ
栄光のゴールへ　駆けぬけていく

喝采につつまれた
花吹ぶきをのこしながら
天空から　はてしなき自然の気が
馨ってくる

目に見えない
確かな「存在」のざわめきが
マーラーの交響曲のごとく
聴えてくる　（筆者作）

アシックススポーツ工学研究所
アシックス人財開発センター
のアート
設計、施工　竹中工務店
彫刻家　北山善夫
プロデューサー　西武百貨店　川上直也
ＣＧ制作　深沢恵子



（さかい　としゆき／竹中工務店設計部）

金属と人間の調和を求めて、いまメタルエンジニアリング

Metal Engineering――私たちにとって、それはお客さまのニーズに合致した作品を生みだすことにあります。

いせさき聖苑　エントランスホール天蓋
アルミ押出材ライン入　ポリウレタン塗装

設計／山下設計・梓設計ＪＶ



私たちの仕事は、
ビル、ホテル、記念館、社寺といった建築物の
金属製内外装工事を主体としており
メタル(金属)に関わる
あらゆる技術をここに投入し
お客さまのニーズにお応えしてきました。

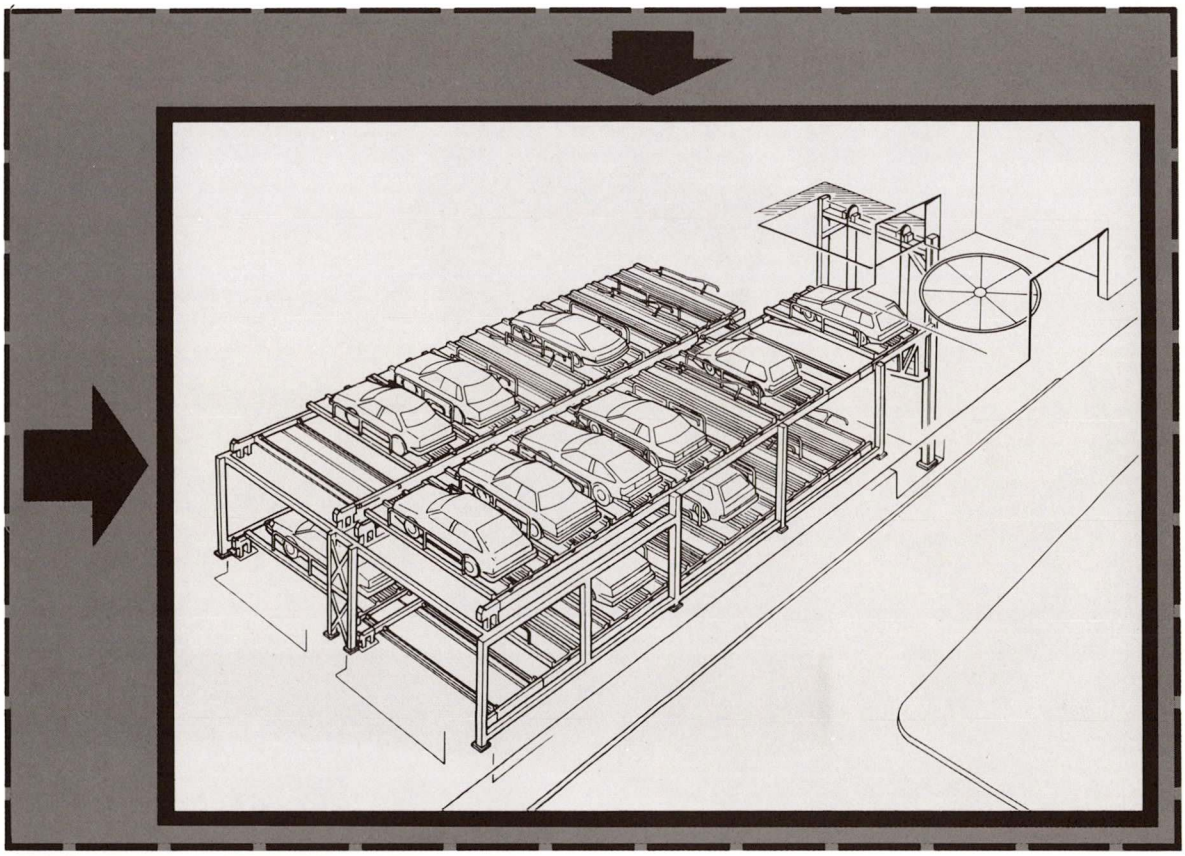
私たちは、
これをメタルエンジニアリングと呼び
キクカワの事業運営の中核に置き
さらにきめ細かくお客さまのご要望に
お応えしていこうとしています。

キクカワ

菊川工業株式会社

本社 第1・2・3部	●東京都墨田区菊川２－18－10	☎03-634-3231	〒130
菊川金属工業㈱	●千葉県印旛郡白井町白井工業団地7	☎0474-92-1141	〒270-14
キクカワM&E㈱	●大阪市西区北堀江2-9-20-102	☎06-535-4381	〒550
工場	●千葉県印旛郡白井町白井工業団地7	☎0474-92-0141	〒270-14
海外	●香　港・シンガポール・台　湾		

NISSEI



地下式駐車場、10%ダイエット。

ニュー レベル・パーク

稀少な土地を最大限に活かすために、占有容積10%減を実現。

都市の過密化、さらに地価高騰の影響も加わって、よりハイレベル、ハイクオリティな地下式駐車場が求められてきています。日精のニューレベルパークは、私たちが追い続けた3つのテーマ“COMPACT”“SPEEDY”“LOW NOISE”を実現した最新鋭機。これからビル建設、そして地下式駐車場をお考えの皆様に、自信をもっておすすめいたします。

[**占有容積※10%減**]日精のコンパクト化へのあくなき追求で実現。設計組込みが今まで以上に容易になり、土地の有効利用に貢献します。

[**高さ※60mm減**]必要有効高さが1層で60mm、2層で120mm減を実現。ムダがないのもニューレベルパークの特長です。

[**車取出時間**]従来の装置よりも※20%スピードアップ。これで待ち時間のイライラも解消。

[**低騒音・低振動**]新開発の駆動機構により実現。機械式の不変的テーマに一歩近づきました。

実績30年。日精は、日本の機械式駐車場の歴史を築いてきました。

昭和35年、日精は機械式駐車場の必要性にいち早く着目し、地下式駐車場の自社生産をスタートしました。当時はまだ需要の少なかったこの分野に、やがてくる都市過密化時代を見越しての参入でした。以来30年間、独自の技術で開発した地下式駐車場は、常にトップシェアを維持。さらに数多くの地上式も手掛け、機械式駐車場の大手メーカーとして多大なご支持をいただくまでに成長しました。地域開発・都市の再開発化に伴い、ますます広がるビル建設。日精は、これからも皆様のご期待にお応えしてまいります。

※は、当社比によるものです。

機械式駐車場の総合メーカー

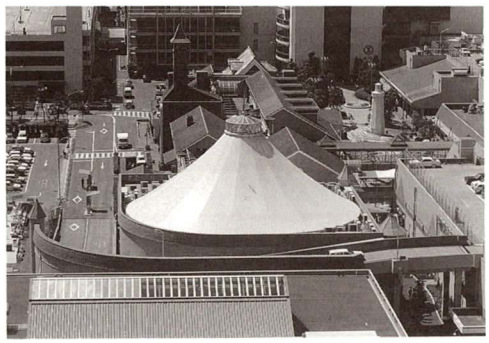
日精株式会社

大阪営業所　〒541 大阪市中央区本町4－4－24
（住友生命本町第2ビル）☎06－244－9401
本　　社　〒105 東京都港区西新橋1－18－17
（明産ビル）☎03－502－9555
営業所／名古屋・福岡・日立・広島・札幌・仙台



ららぽーとファンタジーロード棟
設計：石井和紘建築研究所

もっと大きく、
もっと自由に、
大商業空間を創造する
新構造。



大規模な恒久施設を演出——膜構造建築物。

既成の建築技術にとらわれない大規模で自由な空間づくり。このニーズを確実に具現化しているのが、膜構造建築物です。建築基準法により一般認定されて以来、恒久膜構造建築物として、さらに信頼を高め、その膜面の持つ透光性・柔軟性・耐久性を活かし、空間の個性を豊かに演出しています。時代のニーズに応える空間づくり——太陽工業は、膜構造の持つ豊富な優位性を無限の可能性へと結びつけ、商業空間をはじめ、さまざまな分野で新たな大空間を創造しています。

太陽工業株式会社
環境事業部

●お問い合わせは——東京都目黒区東山3-22-1 〒153
TEL (03)714-3481
大阪市淀川区木川東4-8-4 〒532
TEL (06)306-3061

大理石、ミカゲ、テラゾー他
建築用石材の販売・施工・設計

関ヶ原石材株式会社

本社　〒503-15　岐阜県不破郡関ヶ原町2682
電話05844(2)1234　ＦＡＸ05844(2)2422

東京営業所	〒104	東京都中央区明石町5-27-201	☎ 03(545)3921	FAX	03(545)3680
大阪営業所	〒534	大阪市都島区都島本通4-20-26	☎ 06(922)7661	FAX	06(925)7059
名古屋営業所	〒464	名古屋市千種区高見2-13-4	☎ 052(761)5286	FAX	052(762)7063
工　　場	〒503-15	岐阜県不破郡関ヶ原町２６８２	☎ 05844(2)1234	FAX	05844(2)2422

飛料

温故知新を織る——
龍村のインテリア

緞帳
タピスリー
カーテン地
壁張地
椅子張地

TIF
TATSUMURA INTERIOR FABRICS

株式会社 龍村美術織物

本社・京都店	京都市中京区壬生森町29	(075)802-3251㈹
東京店	東京都中央区日本橋２-２-20	(03) 274-2274㈹
名古屋店	名古屋市中区栄２－１－１	(052)204-0815㈹
大阪店	大阪市中央区南本町３-５-14	(06) 245-5630㈹
札幌営業所	札幌市中央区南１条西５丁目	(011)271-3644㈹



潤いの中に未来が見える。

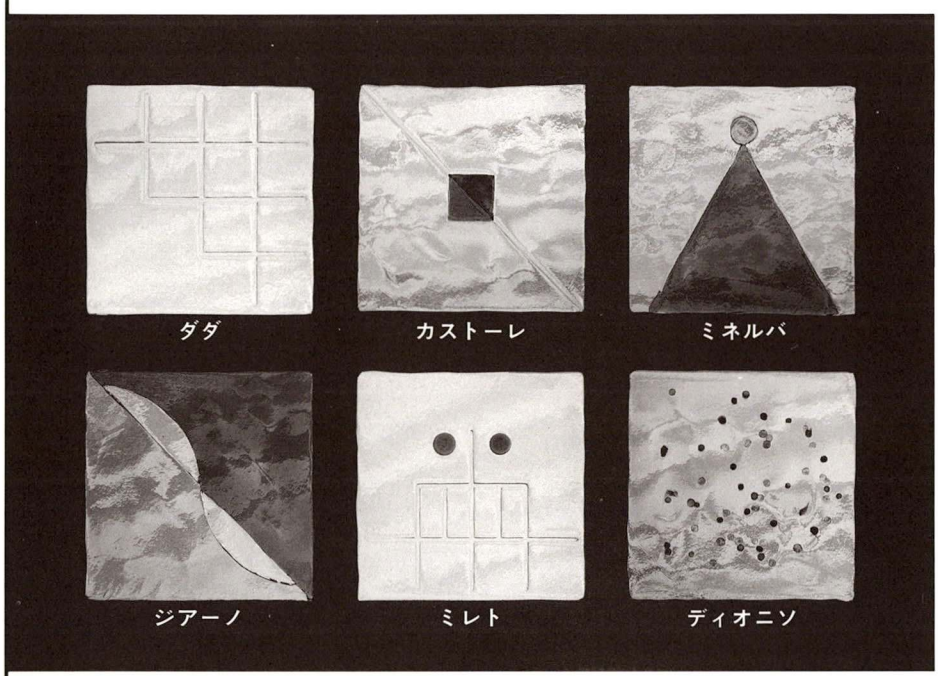
快適で人間性豊かな暮らし、
調和のとれた環境づくり。
立山アルミは、それを商品づくりに生かしたいと考えます。一貫した設計思想に基づき、蓄積された確かな技術と独創的なアイデアで高品質で付加価値の高い商品を誕生させています。
ビル建材から住宅建材、エクステリア商品、店装用品まで、快適な暮らしと豊かな環境を結ぶよりよい商品をつくるために立山アルミは、これからもたゆまぬ努力を続けてまいります。

営業内容
- 住宅サッシ
- 店装用品
- エクステリア
- アドフレーム
- ビル手摺
- 日用品
- 低階層サッシ
- 形材
- ビルサッシ

いいものを真心こめて
立山アルミ
立山アルミニウム工業株式会社
本社／〒933 富山県高岡市早川550番地
（ビル建材）TEL(0766)20-3321
大阪支店／〒570 大阪府守口市菊水通4-29
TEL(06)997-0697

新製品
ヨーロピアングラス

ヨーロッパの職人芸が息づく、アートグラス。



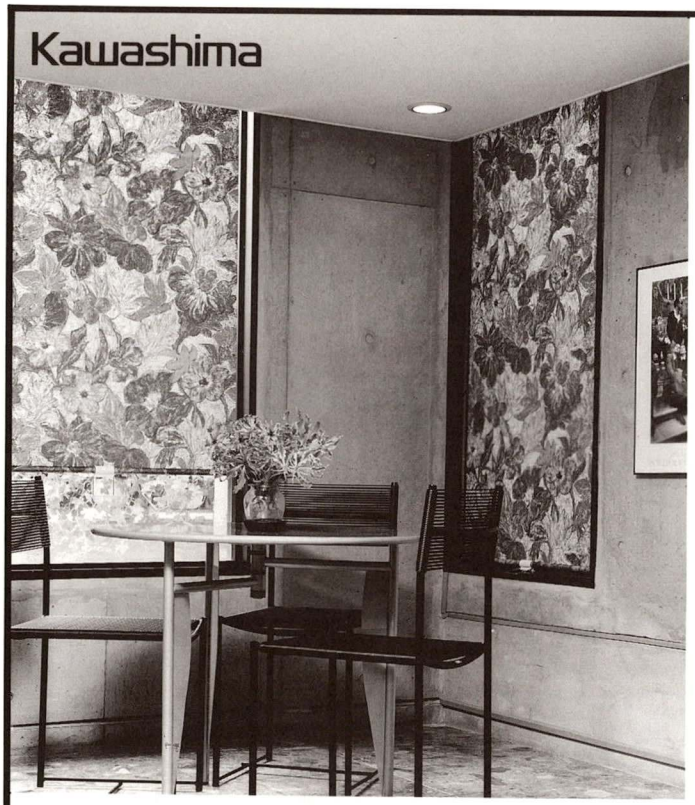
ガラスのもつ清楚な気品を基調に、宝石の優雅な美しさをみごとに再現したヨーロピアングラス・ナイアーデ。無色透明のすがすがしいガラスの中に、色のぬくもりを散りばめたアートグラスです。その色彩の妙は、空間のアクセントとして何にもまして人の心をなごませます。流れるのは、手づくりの情熱が醸し出す豊かな時間。芸術性を秘めた、ヨーロッパのクラフトマンシップが息づいています。
※デザインは、選べる豊富な12バリエーションをご用意いたしました。

仕様／●厚さ：8.0～15.0mm●寸法：310×310mm●重量：1枚当たり約2.5kg●種類／12種

ナイアーデ
Naïade
ヴェネチアのガラス職人の至芸

ガラスの向うに、明日が見える ⊙日本板硝子

札幌支店(011)241-7171 仙台支店(022)225-7821 関東支店(03)573-0153 東京支店(03)573-0127 名古屋支店(052)562-5454 大阪支店(06)222-7533 広島支店(082)263-3571 福岡支店(092)451-5594 高松営業所(0878)51-7571



ロールスクリーンが創り出す

「絵になる窓辺」

Kawashima

ROLL SCREEN Vol.5

新製品発売

- 機能が改良され操作も覚えやすく、より取扱いやすくなりました。
- どのスクリーンもお好みの位置にストップセット出来ます。
- カバー付き商品が充実しました。4型メカにもカバーが取付けられます。
  le monde シリーズはカバー付が標準仕様です。

川島織物

本社事務所 京都市上京区東堀川通一条上ル竪富田町 432 ☎(075)431-7891 ショールーム 東京 ☎(03)355-0575 大阪 ☎(06)347-0451
東京営業本部 東京都千代田区永田町2－14－2 山王グランドビル5階 ☎(03) 506-0800 札幌 ☎(011)261-2131 パリ ニューヨーク ミラノ
大阪営業本部 大阪市北区堂島1丁目1－5 梅田新道ビル6階 ☎(06) 347-0451 ル・モンドショールーム 東京 ☎(03)498-8595

新刊 全国書店で好評発売中！

〔建築技術〕6月増刊号

実践建築工事検査 I

調査・仮設・土・地業・鉄骨工事の検査・試験方法を、それぞれ項目をおって解説していく、品質確保のための必携マニュアル。

亀田泰弘 監修 A4判 292頁 税込定価3,100円

10年の超ロングセラー！

建築構造問題快答集 12

各分野の専門家が日常業務の中で出会う数々の疑問にQ&A形式で明快に回答する設計者必携の実用書。

石黒徳偏 監修 A5判 368頁 税込定価4,100円

精算法へのアプローチ！

保有水平耐力入門 下

新耐震設計法のなかで義務づけられている保有水平耐力の本質をやさしくまとめた実用入門書。上巻も好評発売中！

星 睦廣 著 B6判 128頁 税込定価1,350円

株式会社 建築技術
〒151 東京都渋谷区幡ヶ谷1-1-2 福西ビル
TEL.03(5371)3811 FAX.03(5371)8282

建築技術者必携の専門誌 建築技術 9月号
8月18日 全国書店一斉発売 税込定価 1,240円

特集◉

軟弱地盤と基礎

連載◉建築法令を考える

検証 建築強度規定の変遷と建築構造技術

第2回 市街地建築物法ができるまで

〈実施例〉

- ●地盤改良
- ●摩擦杭基礎
- ●併用基礎
- ●深い基礎
- ●フローティング基礎

①軟弱地盤における基礎計画

基礎設計の中でも難しいと言われる軟弱地盤での計画について、そのポイント、留意点を分かりやすく解説します。

②海外における軟弱地盤の基礎計画

海外の事例の中から、日本とは異なった工法が採用されている事例を紹介し、その技術的背景を考えてみます。

③各種の基礎工法

軟弱地盤に有効といわれる基礎工法を取り上げ、その特徴、計画上の留意点を整理し、併せて実施例も紹介します。

「建築と社会」誌21年●特集一覧——昭和44年～平成元年

「建築と社会」誌は、昭和42年からＡ４変形判となり、特集と作品作風頁を二本柱に、シリーズものの頁を織り込み、その時々の社会を反映したテーマを選んで掲載してきた。売価は、消費税導入に伴い980円(消費税込)に改訂する。

購読希望者は事務局（06－348－0635）へ。

＊印は欠号

巻号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
昭和44年（50集）	＊建築産業の構造と方向	鉄筋コンクリート構造耐震設計の再検討	計画と住民—中部からの報告	＊老人とすまい	＊建築の史の代にる方向—現代がえ—よみが過去—	＊政建築行待期するもの	転換しつつある住宅生産	＊解決をせまられる公害問題	＊海洋開発	＊民家の系譜と保存計画	＊第16回青年技術者	＊九州からの報告
昭和45年（51集）	現代社会とは何か	建築と安全	＊日本万国博と技術開発	＊設計のシステム化	グッドデザイン運動	高層建築問題	欧米における契約	建築家の課題と責任	＊工事計画	ディベロッパー	第17回青年技術者	＊山陽・山陰からの報告
昭和46年（52集）	住宅—60年代の総括と70年代の展望	都市エネルギと無公害化ビル	建築基準法	都市生活とみどり	＊企画と設計のプロセス	解体工学	都市と港湾	転換期のニュータウン	＊軟弱地盤と震災	変貌する建築生産	第18回青年技術者	＊自然とレジャ空間
昭和47年（53集）	冬期オリンピックと札幌	600号記念号	インテリアデザイン	＊都市交通問題	＊水利用	量産住宅の設備	＊一般号（桂中学）		都市住環境へのアプローチ	＊都市防災	第19回青年技術者	北陸の新建築
昭和48年（54集）	建築教育	＊泉北ニュータウンのコミュニティ施設	＊大阪大林ビルディング	＊レジャーと施設	＊大阪国際ビルディング	＊老人コミュニティ	住宅—建築家のすまい	＊新用途地域制と環境	構造と施工	仕上と材料	第20回青年技術者	＊ヨーロッパのまちづくり
昭和49年（55集）	歴史的環境保全	明日の建築はどうなるか	保養所作品	既成市街地の住宅地整備の方策	北摂ニュータウン計画	建築生産と流通機構の変容	ビルの省エネルギ化	高層プレハブ住宅の構造設計	＊みどり	＊屋根防水工事の失敗例とその対策	第21回青年技術者	ビル防災に関する12章
昭和50年（56集）	図書館	東海の新建築	＊インテリア	ＰＣ板を使用した工業化住宅	社会・建築・法	＊都市の景観と施設	建築とプレストレストコンクリート	生活排水処理施設のあり方	＊人間環境としてのターミナル	騒音対策と防音材料	第22回青年技術者	＊集合住宅の設備
昭和51年（57集）	証言'76—建築デザインの動向	＊建築基礎構造の問題点	医療施設	＊床工法と材料	＊建築防災と法	市街地整備	工場建築と設備	鉄骨構造のジョイント	集住体のハードとソフト	＊結露防止対策と断熱材料	第23回青年技術者	設備からみた建築の問題点
昭和52年（58集）	＊デザインの動向—部分と全体	兵庫県—その風土と建築・建築界	●日本建築協会60周年記念号●ニュータウンの管理	コンクリートの品質管理と行政指導の方向	＊日影規制と法	＊身障者施設	照明設備	埋立地における構造問題—大阪南港と芦屋浜を例として	日本住宅公団と建築作品	ミニ乱開発から計画的ミニ開発へ	建築における省エネルギー化	第24回青年技術者
昭和53年（59集）	デザインの動向—新旧のコントラスト	＊水	医療施設—病院建築と情報システム	外壁塗装材料	＊電波障害と建築	組合方式による集合住宅計画	住宅設備	新しい耐震設計	ＣＡＤ—設計とコンピュータ	＊一般号	第25回青年技術者	ビル環境
昭和54年（60集）	＊転換期の再開発	大阪南港ポートタウン	商業空間	コンクリートのひびわれ	日影規制	ホテル建築と情報システム	＊農村施設の変貌	建物の終局強度の検討	庄内のまちづくり	80年代のインテリア	第26回青年技術者	建設業の労務事情
昭和55年（61集）	80年代の都市と建築—まちづくりの歴史と展望	＊●今後の省エネルギーの趨勢●建築金物	＊●最近の銀行建築●安井建築設計事務所作品集	住宅の耐久性	建築行政と法規	最近の防水工法	＊都市景観とアメニティ	屋内体育施設の設備	水ぎわのまちづくり	今後の外装吹付仕上材	●第27回青年技術者●転機にたつマンション・集合住宅	設計のための新耐震設計法
昭和56年（62集）	職能論	中国の論文—北京の都市計画	＊ポートピア'81	台所まわりの計画と設備	シーリング材の知識	災害と法—安全な環境をめざして	都市住宅—住まい手からの発想	●建築物と風—デザイナーのために●日建設計作品集	住宅・都市整備公団—関西における都市整備を中心とした新公団の役割	間仕切壁の性能評価	第28回青年技術者	障害者の暮らしやすい環境と設備
昭和57年（63集）	新たな商業空間の展開	省エネルギーと開口部	医療施設—地域医療と設備計画	近畿の地盤と地質	都市景観—まちなみ美観への誘い	大阪市庁舎（第１期）	音とホール建築	大スパン構造	＊昭和設計作品集	●絵本にみるすまいとまちづくり●オー・エム・ホテル日航ビル	●第29回青年技術者●地方の庁舎建築	風土・空気と人間
昭和58年（64集）	＊関西の建築文化を考える	マイコンの建築への利用	＊多様化する運動施設	建築と品質管理	計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	大阪駅とターミナルビル	維持管理と設備更新	東海の将来と文化を考えるみどりとそれをとりまく人々	オフィス・インテリアの変革	プレストレスト（鉄筋）コンクリート構造	●第30回青年技術者●大阪城国際文化スポーツホール	集合住宅と生活音
昭和59年（65集）	21世紀への関西一魅力あるまちづくりを問う——	関西の超高層ビル	ビルのリフレッシュ一内外装補修技術の現状と発展—	建設産業とロボット開発	住環境と法制度	●まちの活性化と商業空間●京都駅南口再開発ビル（アバンティ）	消防設備のポイント		高齢化社会と生活空間	床の構工法	●第31回青年技術者●ディテールの思想	光応用システムと建築
昭和60年（66集）	大阪湾物語	東海の現在と近未来	●自由様式への道一建築家安井武雄●建築物の基礎を考える	情報化をめぐる建築・都市事情	ホール—それが生みだす文化—	建物の表情—最近の外壁材料	大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出●神戸研究学園都市	都市と健康スポーツ	●接合●日建設計作品	●村野藤吾の一断章●東海特集	第32回青年技術者
昭和61年（67集）	これからの住空間—都市型集合住宅にみる	屋根—そのデザインと素材	●現代デザイン一ポストモダニズム10年●これからの防水工法	インテリジェントビルの建築・設備計画	自治体営繕と公共建築	●建築防災と法●大阪市庁舎	21世紀の住居と設備	●開発●ツイン21	ＣＡＤ—その応用と展開	オフィス空間の構成	第33回青年技術者	インテリア・イクステンションとリニューアル
昭和62年（68集）	入浴物語	腐食	創立70周年記念号	躍動する東海へ	●保管・貯蔵施設●大阪府立体育会館	室内の仕上床	駅	行政建築家の可能性	シティホテルの設備	宝塚のまちづくり	●建物と街並みの接点●昭和設計作品集	第34回青年技術者
昭和63年（69集）	ホテル物語	●軟弱地盤と基礎●文化と伝統—東海からの報告	●設備におけるＬＣＣとリフレッシュ●東畑建築事務所作品集	建物の外装リフレッシュ	都心居住	中国地方の展望とひろしまの街なみ	21世紀への照明	制振	超高層住宅を考える	●大阪府営繕●集合住宅のリフレッシュ	●第35回青年技術者●８００号記念	讀賣テレビ
昭和64年平成元年（70集）	夢をのせる輸送設備	●竹中工務店年創立90周年念記●リゾート情事	●色の復権●東海の新建築と伝統技術	省力化のための材料・工法	まちづくりと法	博覧会とまちづくり	都市環境創造と設備Ⅰ	建築とアート	構造の省力化	都市環境創造と設備Ⅱ	第36回青年技術者	最近の博覧会パビリオン

法令コーナー

編集委員会法令分科会

240

神戸市火災予防条例の一部改正—スプリンクラーの設置など防災設備の強化が図られた—(平成元年9月1日施行)

はじめに　都市への集中。この現象は都市を過密化し、建築物の高層化・大規模化を余儀なくしている。一方で、高齢化社会の到来は、災害弱者の増加を招き、生活様式の変化は、新たな火災危険をもたらす。

神戸市では、こうした市民生活をとりまく環境の変化に逸早く対応し、防災設備などの強化をし、普及を促すことによって、市民生活のより一層の安全の確保を図ることとした。

高層建築物には、全館にスプリンクラーを

——高層建築物の安全管理——

現行消防法では、地上11階以上で、不特定または多数の人が利用する建築物（劇場・飲食店・ホテル・病院など）については、全館にスプリンクラー設備を設置するように規定されている。改正条例では、これらの建築物以外についても、一定の条件を付して、スプリンクラー設備の設置拡大を図った。すなわち、地上11階以上の階または高さが31ｍを超える階にスプリンクラー設備を設置した防火対象物については、周囲が消防活動上有効な道路または空地に面していない場合、下階にもスプリンクラーヘッドを設置することとされた。

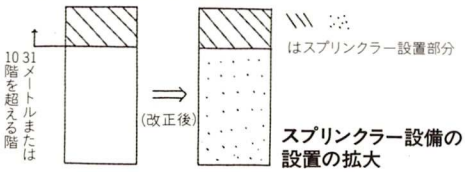
昨年の11月９日午前９時すぎに発生した日生三宮ビル（地下１階、地上12階建）火災は、７階事務所北側隅の倉庫からの出火であるが、初期消火活動は行われず、火勢が拡大し濃煙が上階に伝播している。消防隊が現場に到着したときには、７階東側窓から噴出した炎は８階窓に達し、まさに上階に延焼寸前。ちょうどこの日生三宮ビル火災の半年前に、12階から出火し４層にわたって上階延焼した、米国ロサンゼルス市のファーストインターステート銀行ビル火災を思わざるを得なかった。このロサンゼルス市のビルもスプリンクラーがなかった（正確には、スプリンクラーの取り付け工事中で、ほぼ90%完成していたが、まだ稼動していなかった）のである。



日生三宮ビル火災



スプリンクラーヘッド
火災のとき、自動的に水が放射される。



スプリンクラー設備の設置の拡大

日生三宮ビルは、幸いにも、東面が大通りに面していたため、はしご車・スノーケル車などの消防車両による必死の防ぎょ活動により上階延焼はくい止められたのだが、渦巻く濃煙により、死者１人、負傷者２人が発生する惨事となった。耐火造の建物は火熱には強いが、人間はきわめて煙に弱いのである。

人の行う初期消火は火災の覚知時間の遅れ、覚知時の火勢の状況等によっては、きわめて困難となるなど、不確実な面が多い。初期消火に失敗すれば、火災は拡大の一途を辿り、濃煙を噴き出し、火災階上の在館者の避難がきわめてむずかしくなるのである。

この日生三宮ビルは、９階以上の階には、高さが31ｍを超えるため条例規制により、スプリンクラー設備（火災自動消火奏功率96.2%、米国ＮＦＰＡ統計データ）が設置されていたが、８階以下は設置されていなかった。出火階の７階にもスプリンクラーがあれば、その高い奏功率からして、このような惨事は未然に防止できたのではないかと考えられる。

一般に、低層階は、外部からの消火・救出活動が可能なわけだが、建物の位置構造によっては、消防車両の接近ができないものもあり、さらに、消防車のかけつけ時間を考慮すると、初期拡大には対応し得ない。そこで、非特定対象物等についても下階のスプリンクラー設置の義務化を図った。

住居には、火災を早期に覚知し警報を発する装置を

——共同住宅および木造３階建住宅の避難管理——

主要構造部が耐火構造でない階数が２以上の共同住宅で、法令により自動火災報知設備の設置を課せられていないものについても、住戸用自動火災報知設備などの設置を、また木造３階建の３階部分の居住者の安全を守るため、簡易型火災警報器などの設置と、３階部分の避難を確実にするため、避難器具など外部避難のできるものの設置を求めることとした。



簡易型火災警報器

——生活の安全の確保——

簡易型火災警報器などの家庭用の防災機器は、火災発生をごく初期の段階で覚知し警報を発するため、安全かつ適切に消火と避難が行えるので、その設置を市民に求めている。

これらの規定は、いずれも努力規定であるが住宅火災による人命危険、家財の焼失を、火災初期の段階で自動的に覚知することによって防ごうとするものである。アメリカでは、住宅には簡易型火災警報器（設置率全住宅の約75%）に加えて、住戸用スプリンクラーの設置がすすめられている。日本でも近い将来、住戸用スプリンクラーの設置がすすむものと考えるが、まずは、火災を早期に自動的に知る装置の設置の促進を図ることとした。

その他の主な改正点

——消火活動上有効な開口部の措置——

１階部分で消防隊が外部から容易に開放できる構造のシャッターなどの設置対象として、倉庫のほかに、工場・作業場を加えた。従前は１階部分の床面積1000㎡以上で無窓の倉庫のみだったが、大規模な作業場が多く建築される傾向にあるため、新たに加えたものである。これは、火災時消防隊の内部進入を容易にし、消火効果を上げるための措置である。

——就寝施設の寝具類の防炎——

旅館・ホテル・病院・社会福祉施設などの就寝施設のある防火対象物で使用する寝具類は、タバコ火やストーブ火などの火源に触れても着火しないよう、防炎性能のあるものを用いるよう求めている。

——非常通報装置等を用いる通報——

火災時、時にはパニック状態に陥ることもあり、冷静な判断・行動が困難で、いつも使っている電話がなかなかうまく使用できないこともある。119のダイヤルがうまくまわせ（押せ）ない、所在地をわかりやすく言えない、こうした事態を解消する方策として、自動火災報知設備等と連動して自動的に119番通報するシステム（直接通報）やワンタッチで119番通報するシステム（ワンタッチ通報）があるが、通信機器の信頼性の担保、消防機関の対応を円滑にするため、関係者は事前に消防長に届け出て、承認を得ることとした。

おわりに　一つの事故は、ものごとに内在する潜在的危険の現れである。その内に潜む危険は可能な限り摘みとる、発現しないよう抑制する、こうした一つひとつの積み重ねが、安全で住みよい街づくりにつながっていくものと確信している。

（神戸市消防局査察課建築係長　村上正彦）

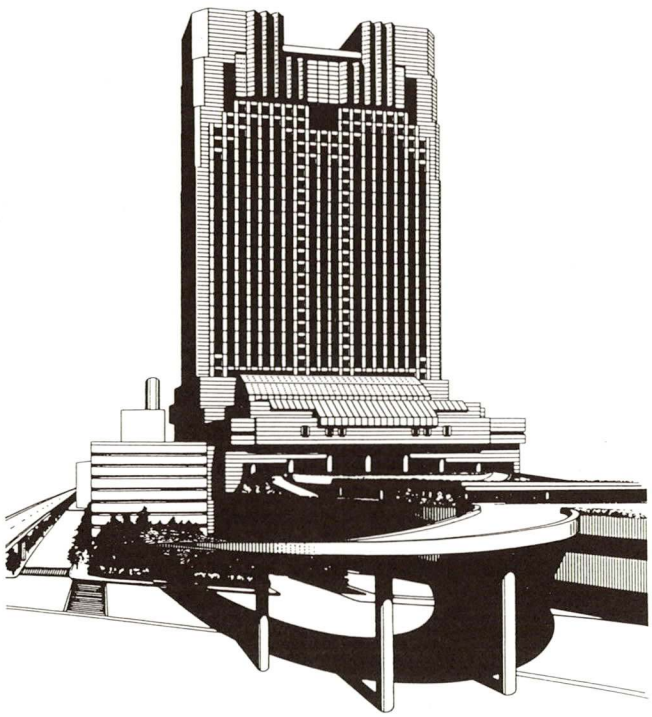
常識を打ち破った間仕切工法

耐火・遮音構造等の軽量乾式間仕切壁

ナイスタッド

特許・実用新案出願中(一部登録済)

私たちは新しい価値の創造を通じて
業界に貢献することを最大の使命としております。
ナイスタッド工法は独自の技術と発想により開発に成功したもので
既存の工法とは全く異なりスタッドを使用しない独創的なものです。
吉野石膏株式会社の協力を得て製造される
「ナイスタッド」専用の石膏ボードと特殊接着剤で構成する
画期的な耐火・遮音等間仕切壁です。
主にホテル、商業ビル等の間仕切壁として多くの実績を残しておりますが、
性能、精度、施工性は他に例を見ない数々の特徴を備えております。
これからますます多様化する社会のニーズに対応できる工法として
私たちは自信を持っておすすめいたします。



南海サウスタワーホテル大阪(開業予定平成2年3月)

設　計　㈱日建設計
監　理　南海電気鉄道㈱・㈱日建設計
施　工　㈱大林組・㈱竹中工務店・南海建設㈱共同企業体
所在地　大阪市中央区難波5—1—60
延床面積　67,778.37㎡
構造規模　SRC、S造、地上36階、地下3階、塔屋2階
工　期　昭和63年4月～平成2年1月(予定)

ナイスタッド施工中、AG45・AG65他　11,025㎡

1　施工性、工期短縮
鋼製下地(スタッド)が不要!!
同一職種により容易に施工が可能で
工期短縮が計れます。
また片追い施工も容易です。

2　経済性
ナイスタッドボード12㎜(15㎜)を使う事により
材料コストの低減、省力化
作業スピードのアップ等々経済的です。

3　耐火性、遮音性
無機質の材料で構成され
壁内の千鳥状に配置される空気層と中空層に
より耐火性、遮音性が高められます。

4　軽量化
壁厚がうすく構成材料が少く
大幅な軽量化を計る事が出来ました。

5　仕上精度、補強
ナイスタッド・ボンドにより壁厚の調整、
各種取合部のスキマ、欠損部の音洩れ防止
及び開口部切込み個所の補強も別途可能です。

Iwatani
岩谷産業株式会社
建設部門

大阪本社	〒541 大阪市中央区本町3-4-8	TEL.(06) 267-3011
東京本社	〒104 東京都中央区八丁堀2-7-1	TEL.(03) 555-5808
札幌支店	〒001 札幌市北区北七条西2	TEL.(011)726-1701
仙台支店	〒980 仙台市青葉区中央3-3-3	TEL.(022)262-2030
名古屋支店	〒460 名古屋市中区大須4-11-39	TEL.(052)242-1256
広島支店	〒730 広島市中区銀山町2-21	TEL.(082)245-3161
福岡支店	〒812 福岡市博多区博多駅中央街8-36	TEL.(092)472-2220
那覇支店	〒900 那覇市久茂地2-15-10	TEL.(0988)68-1522

常識を打ち破った間仕切工法

ナイスタッド

特許・実用新案出願中(一部登録済)

岩谷産業株式会社
建設部門
大阪本社　大阪市中央区本町３－４－８
TEL 06－267－3012
東京本社　東京都中央区八丁堀２－７－１
TEL 03－555－5808
(札幌、仙台、名古屋、広島、福岡、那覇)

1．はじめに

建設事業の増大、より深刻化しつつある建設作業員の不足というアンバランスを抱える我々は、生産性向上、コストダウンに寄与する技術を独自で、或いは関連各社と共に開発し、実用化することに懸命であり、又そのような新しい技術を活用することに真剣である。ここに紹介する「ナイスタッド」は間仕切工事の分野において、軽量で、乾式で、耐火性があり、遮音性のある、施工性の良いという多くの機能を備えた新しい技術として注目に値する。特に、上述した機能を要求する高層ホテル、高層マンション建設工事には、生産性向上、コストダウンも含めて対応力が期待できる。

2．特徴

• 生産性向上と工期短縮

軽鉄下地（スタッド）が不要の工法で、上下ランナーにナイスタッドボード（専用石膏ボード）12㎜又は15㎜を、ナイスタッドボンドと木工用ボンドを併用してビス・ステープルで仕上げる。遮音材としてグラスウール25㎜又は50㎜を使用する。このようにスタッドを使用しない為、下地に要する工数を大巾に削減できる。さらに従来のスタッド工法の場合に使用される、耐火ガラス繊維入りボード21㎜を使わないのでボード貼り作業の軽量化が可能となり、生産性が向上し工期短縮が図れる。又、ＰＳ等シャフト回りの片追い施工も可能で、加えて超高層建築用層間変位対応仕様もある。

• 経済性

ナイスタッドボード12㎜（準不燃以上）を耐火１時間ないし耐火２時間の主構成材として使用し、耐火２時間用には15㎜も併用している。材料コストを低減し、かつ生産性を向上できることは昨今の作業員不足と賃金高騰によるコストアップが吸収可能で、経済性にも秀れているといえる。

• 耐火性・遮音性

ナイスタッドボード12㎜又は15㎜を主構成材として、耐火１時間ないし耐火２時間の性能を有している事は、まさに「新しい発見」といえる。かつ他の工法に見られぬ工法として壁内の千鳥状の空気層とグラスウール入り中空層をもうけ、スタッドによるサウンドブリッジときしみ音がない優れた遮音性能が掲げられる。

• 軽量化

壁厚がうすく構成材料が少ない（例えば耐火２時間壁において、従来の21㎜の耐火ガラス繊維入り石膏ボード使用のスタッド工法と比べて、約30％〔以上〕の軽量化〔ナイスタッドAG-45比〕)ので、高層建築に適した間仕切壁といえる。

• 仕上精度・補強

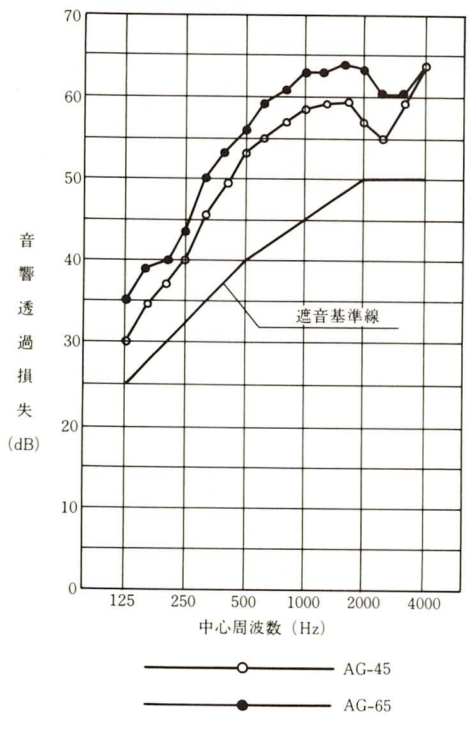
ナイスタッドはすべて現場施工で、一切工場等でのパネル等の製造はされていないが、各取合部のおさまり、スキマ、欠損部の音洩れ防止、壁厚の調整及び開口部切込み個所の補強など、事前の納まり検討をもとに習熟した作業員のもとで、施工は万全である。

（中川　徹／建材委員）

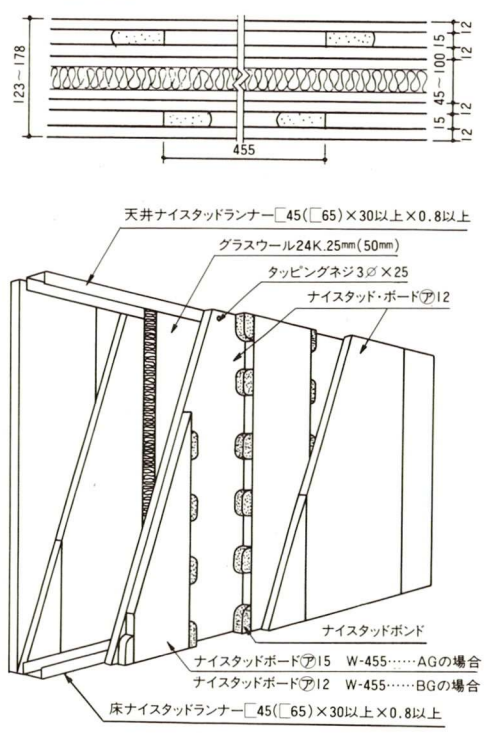
耐火遮音間仕切壁

ナイスタッドAG：2時間耐火 W-2182号
遮音構造(個) 第126号

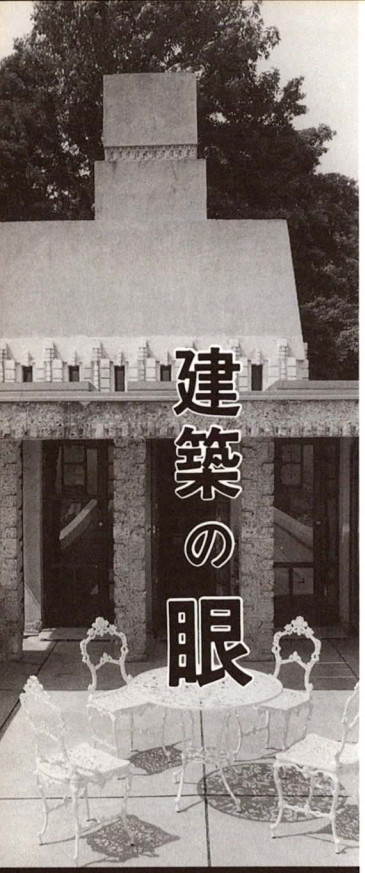
■音響測定図



■構造概要図



		商品名	遮音性能	指定番号	
				耐火構造	遮音構造
2時間耐火	遮音壁	AG	D-45	W-2182	(個)126
			D-50		
		AGF	D-55程度	W-2182	(個)126
		AGF-1	D-50	W-2182	(個)127
		AGF-2	D-50	W-2182	(個)128
		AGF-3	D-55程度	W-2182	(個)129
	一般壁	A		W-2182	
		AS	D-35相当	W-2182	
1時間耐火	遮音壁	BG	D-45	W-1098	(個)130
			D-50		
	一般壁	B		W-1098	
		BS	D-35	W-1098	
防火	遮音壁	CG	D-40	申請中	申請中
			D-45		
一般	一般壁	D			



建築の眼

安田　孝
摂南大学工学部助教授

八尾　明
神戸市住宅供給公社調査役

若林広幸
若林広幸建築研究所主宰

南　次郎
淺沼組大阪本店設計部部長

7月号から12月号まで上記の4氏が執筆

写真は淀川製鋼所迎賓館(旧山邑邸)
設計 F.L.ライト



ロンドンの若者たち

イギリスの番地はわかり易いとは言っても、同じような名前の道や通りがあって、探しあぐねることもある。ようやくたどり着いたニーブ・ブラウンのアレクサンドラ・ロードには、中央にややカーブした印象的な歩行者路が通り、その東端に１階あがった小テラスがある。そこでカメラをかまえていると、突然ひとりの若者が現われて早口でまくしたてた。よく聞きとれなかったが、そのテラスはなんとかというミュージシャンが公演をした場所であり、お前が写真をとりに出るようなところではない、ということだった。旅先でカメラをかまえる時に常に気になっていることを、きつく言われて落込んでしまった。都心にあるピムリコの住宅地はとてもわかり易い。ひと通り見学してまわった後に、そこの教会でたまたま結婚式に遭遇した。まだまだ若い花嫁の写真を、記念撮影のカメラマンの隣りでとらせてもらった。ロンドン南部のランベス地区の小さな教会の庭でも、式の直後と思われる新郎新婦と、その参列者に出会った。大阪の野外でも、どこかで花嫁姿にお目にかかれるだろうか。　（Ｔ．Ｙ）

まちのみどり（その二）

都市の中の緑は市民の心を和ませてくれる。そこに自然の営みが常に観察できるからである。窓辺の草花、庭先の生け垣、街路樹、公園の樹木、河川敷の緑、鎮守の森など身近な所に建物とそして町並みと一体となって緑が育っている。各自治体は様々な施策を講じて街の緑化と緑の保全に努めている。幹線道路の歩道の整備に合わせ街路樹や植栽帯の整備が随所で見られ歩行者の安全確保が図られている。

神戸市の緑化対策の歴史は古い。明治初期の六甲山系は禿山が多く見られた。これを植林によって緑で覆われた山並みを甦らせた。昭和47年制定の「神戸市民の環境を守る条例」の中に文化財とその周辺の緑が一体となっている環境を守る目的で「文化環境保存区域」を定め、市内の８ヶ所を指定した。「徳光院及びその周辺」は、その一例で、ＪＲ新神戸駅から布引の滝に向かう途中の徒歩でほんの15分程の所に都会の喧噪から解放された静寂と緑につつまれた重要文化財の多宝塔などの堂宇がある。爽やかな木陰に木もれ陽が一層緑を引き立てる。市民の身近な憩いの空間である。神戸市の公園面積は、昭和63年度当初で、市民一人当たり11.7㎡となり、大都市の中ではトップとなっている。自然環境に恵まれた神戸市が長い年月をかけて、緑化と公園の確保を市の重要な施策の一つとしてきたからである。（Ａ．Ｙ）

リゾートって何？－II

金余り現象の中で余力を蓄えた人が投資のつもりで買うのだろうか。はたまた高い住宅を手に入れる事を、遂に諦めた人達がせめてもの思いで買うのだろうか。いずれにせよ別荘地やリゾートマンションの広告があとをたたない。ところが実際、別荘なんて名ばかりである。別荘で暮らす為には最低ひと月の休暇がなければ価値はないし、ゆき届いた管理や料理人がいて、はじめて本当の別荘の価値がある。到着したら先ず部屋の掃除、それが終わった頃には全員疲労の為、料理を作る気力もなく外食でもしにいって一日目は終わり。中、三日か、せいぜい四日過ごして又々掃除と後片付けをして帰る。実情はほとんどバンガロー。リゾートマンションだって、結局はうさぎ小屋。

考えてみれば、多額の金利を支払って何千万かの買物をして、30年使うとして滞在延日数はせいぜい多くて800日。メンテナンスはいるし、固定資産税もいる。いざ売ろうと思ったって余程いい場所の物件しか動かない。結局、一日あたりに換算すれば一体いくらの宿泊料になるのか。ホテルにスイートルームを予約して高級料理を食べて何十年続けたってお釣りが来るし、ずっと優雅な気分で過ごせるはず。結局、目的意識のズレたリゾート開発、本格的なリゾートマンションが登場するのはまだまだ先の事なのだろうか。　（Ｈ．Ｗ）

人をもてなす建築

岡田孝男先生の御指導で、国宝に指定されている如庵をはじめ数多くの茶室名席を見学する機会を得たことは楽しい思い出として心の中に刻まれている。これも永い間、協会の事業委員を努めさせて頂いたお陰と感謝している次第である。

もとより、茶道の心得や風流心もなく、建築に携わりながらも、あまり茶室に関心を持たなかった私にとって、先生の丁寧な説明のお陰でなんとか〝茶の心〟が少しは理解出来て来た様な気がする。茶室とは茶の亭主が客をもてなすことを目的として、さまざまな努力工夫を重ね、それを造った工匠達と共に、それぞれの型を創り上げたものであり〝茶の心〟はすなわち〝人をもてなす心〟であるとすべきであると思う。正式の座敷では裃を着用して相対した人達も、一旦茶室に入れば膝をつき合わせて本心の話合いが出来たという。茶室の寸法もそれを目的として研究されたものであろうし、その為の場所作りとしての茶室という建築が生まれたのだと思う。

最近は、奇をてらって人を驚かす建築を間々見掛けることがある。建築に携わる者として、やはり人の心をもてなす様な建築を造っていきたいものだと思う。岡田先生の益々の御健康と今後永く御指導下さることを御願いしたいものである。　（Ｊ．Ｍ）

生コンクリート工場の品質管理監査と巡回による骨材試験業務などについて

財団法人 日本建築総合試験所
所 在 地…吹田市藤白台5－8－1 〒565
電　　話…(06)872－0391　FAX…(06)872－0784
業務時間…平日：9：00～17：00
土曜：9：00～12：00（9月より第2、第4土曜休日）

当試験所工事用材料試験室では、昭和61年2月に大阪兵庫生コンクリート工業組合から、組合員の生コンクリート工場の品質管理監査を初めて受託し、また、昭和62年10月から大阪府下の生コンクリート工場を月1回巡回して、採取した骨材試料の品質試験業務を開始してきました。これらの近況をご報告します。

1．生コンクリート工場品質管理監査

大阪兵庫生コンクリート工業組合では、昭和61年度から、これまで実施してきた同工業組合の品質管理監査委員会による監査にかえ、第三者機関である当試験所に監査を依頼されました。昭和61年度の監査は同62年2月に、昭和62年度は同年11月に、昭和63年度は同年10月に実施しました。また、平成元年度からは年2回実施する予定であり、本年度1回目の監査は去る7月上・中旬に実施しました。同工業組合における監査実施工場は、約150工場と多数であり、地域的にも大阪府下全域と兵庫県の瀬戸内海側と広範囲である。当試験所では本所工事用材料試験室、材料試験室、大淀分室、堺分室、京都分室、加古川分室から、コンクリートについての知識のあるもの約2名ずつが出て合計10人強で担当し、できるだけ短期間で監査を終えるようにしています。同工業組合における平成元年度第1回の監査の内容は次のとおりです。

1）抜取試料の品質と社内規格の調査

抜取試料の呼び方・配合設計基準・圧縮強度の検査実績・表面水率および配合設計の容積の確認と、社内規格に規定した工程におけるスランプ・空気量および容積の目標値および許容値の調査。

2）実地検査

1)動荷重検査　2)スランプ測定　3)空気量測定　4)実測積載容積比　5)塩化物量測定　6)圧縮強度試験　7)骨材のアルカリ・シリカ反応性試験成績表確認　8)塩化物量測定器の性能確認

上記実地検査項目の2)、3)、5)の測定と6)の圧縮強度試験用供試体の製作は、当該工場内で行ったものである。監査結果については、昭和63年度（上記平成元年度第1回とほぼ同じ内容）の概要を当試験所のGBRC誌56号に掲載予定しているので、これを見ていただきたい。

なお、大阪兵庫生コンクリート工業組合以外にも、監査の依頼をいただいており、一部は昭和63年11月に実施しています。

2．大阪府下の生コンクリート工場の巡回試料採取と骨材試験

大阪府下の3階建以上、または延面積が500㎡をこえる建築物を対象として建築物の構造耐力上の安全性確保を図るため大阪府は、指導要綱を制定しその運用によって大きな成果をおさめてきました。

その後、昭和62年に改正があって骨材の重要性や、工事施工関係者の便宜を図るため、当試験所が指定機関として骨材試験業務に加えて施工者に代って骨材試料を巡回して採取しています。

巡回方法は、当試験所があらかじめ毎月1回専用車で生コン工場を訪問し骨材試料を採取します。大阪府の面積は小さく南北60km、東西30km位と大した距離はありませんが全国有数の交通量ですから走行条件は大変悪い状況となります。1日に10～12工場を巡回しますが、連日早朝出発で移動していても工場訪問の際はできるだけ感じのよい応対を心がけながら適切採取に努めています。現在では、殆んどの工場がQCに対する理解も深く協力的ですか、ときには時間待ちや、邪魔扱いされることもあって巡回担当者も結構苦労が多いものです。巡回車から引渡された試料は直ちに試験を実施します。試験項目は、指導要綱に規定された次の項目です。

塩分量……海砂を含む細骨材
洗い損失量……山砂を含む細骨材
粘土塊量……細骨材および粗骨材

試験結果報告書は、施工者から指導要綱対象建築物にかかる報告書の発行依頼があったときに試験結果を記載して発行します。

巡回業務を開始して1年数ヶ月を経過しましたが、生コン各工場のご協力もあり定着し順調に推移しています。また、骨材品質についても品質保証に対する意欲も高まり全般的に良好な内容となってきています。

※1．大阪府特定行政庁連絡協議会策定による「コンクリート工法に関する指導要綱」昭和52年8月1日制定　昭和62年7月22日改定
※2．上記指導要綱の対象建築物に生コンクリートを納入している工場

3．関西生コンクリート専業協同組合の品質管理試験

関西生コンクリート専業協同組合は、大阪兵庫生コンクリート工業組合に加盟していませんが、自主管理の強化を目指して品質管理監査および品質管理試験を制度化し平成元年1月度から当試験所が依頼をうけて実施しています。この制度は継続更新依頼であり、また試料は当試験所の抜取り採取方式とし試験項目・実施回数は下表のとおり規定しています。

試　験　項　目	試　験　回　数
骨　材	
洗　い	2/年
粘土塊量	1/月
安定性	1/年
塩分量	1/月（細骨材のみ）
すりへり	1/年（粗骨材のみ）
有機不純物	1/年（細骨材のみ）
比重1.95の液体に浮くもの	1/年（細骨材のみ）
アルカリ骨材反応	2/年
セメント	2/年（物理試験、化学分析）
フレッシュコンクリート	3/年（スランプ、空気量、圧縮強度）

品質管理試験項目および実施回数表

構造の頁

172
パンタドーム構法 −1−
バルセロナ・オリンピック屋内競技場

川口　衛

パンタドーム構法は、スペース・フレームの合理的な建て方を可能にすることを考慮して開発した、新しい構造システムである。スペース・フレームのうち、プレート型（全体の形が平面板状になっているもの、たとえば大阪万博のお祭り広場大屋根など）の屋根構造の建て方については、地上でスペース・フレームを組み立て、それを直接リフトアップする方法が、1970年前後にすでに確立されていると言ってよい。しかし、ドーム型のスペース・フレームの建て方については、このような確立した手法がなく、従来、ケース・バイ・ケースの試行錯誤的方法が用いられてきた。パンタドーム構法は、このような状況を踏まえ、ドーム型スペース・フレームについても一般性のある合理的な建て方が必要であるとの観点から考え出された、ひとつの提案である。

ドーム型スペース・フレームが、平板型のような便利な方法でつくれないのは、ドームが「折りたためない」からである。パンタドーム構法は、本来、ドームに内在するフープ作用（桶のたがに似た作用）を部分的に除去することによって、ドームがパンタグラフのように折りたためる、という原理に立脚している。あらかじめ、3列のヒンジ・ラインに沿って折りたたんだ状態でドームを組み立て、これをジャッキなどを用いて一斉に持ち上げる。このとき、ドームは大きく形を変えながら上昇するが、その形態変化は決して無秩序なものではなく、完全にコントロールされた運動をする。ドームの最終形状が得られたら、外されていたフープ部材（キー・メンバーと呼んでいる）を本来の部位にセットすると、ドームが完成する。これがパンタドーム構法によるドーム型スペース・フレームの構造原理である。

パンタドーム構法は、神戸のワールド記念ホール（1984年竣工、建築設計：昭和設計）の建設にはじめて適用され、好成績をあげたが、第二弾は海を越えてスペインのバルセロナで試みられることになった。

バルセロナでは1992年にオリンピックが開催されるが、1983年に行われた国際指名コンペの結果、オリンピック主体育館の設計を磯崎新氏が担当し筆者がその構造設計を行うこととなった。体育館の規模は1万7000人収容で、大屋根のスパンは128×106 m、アリーナ面から屋根頂部までの高さは45mである。現地の諸条件を考慮した結果、この屋根構造にはパンタドーム構法が適していると判断されたので、設計は当初からこの構法を織り込む形で行われた。建築家の磯崎氏も、この構法に大きな関心を示し、建築造形にも構造手法が反映されるべきだとの観点から、完成後の建物の形がパンタドームのリフトアップ中の形を彷彿させるよう、大屋根のヒンジラインに沿って、明確な屋根曲面の折れ曲がりとスカイライトを設け、また、リフトアップ中に最も大きな動きを示す大屋根4隅からの放射線に沿っても、大きなスカイライトを設けて、建設手法を暗示することになった。

神戸のワールド記念ホールに対して、バルセロナ体育館は構造上もいくつかの点で異なっている。そのひとつは柱と屋根との関係で、バルセロナ体育館では両者の分離が明確である。大屋根周辺に沿って配置された柱列が、各柱頭で大屋根を鉛直に支持している。第二に、後者ではアリーナ面が低く、そのレベルは柱脚面より15m近くも下にある。このため、リフトアップ中の構造の形態変化は、よりダイナミックである。第三に、プランの形態が後者では長方形に近く、リフトアップ中のパネル間の相対変位が隅角部に集中する傾向にあり、このため、骨組パターンを決める上で工夫が必要であった。第四には3列のヒンジラインが、骨組完成後もそのまま残されたことで、柱頭、柱脚の2ヒンジはもちろん、大屋根内のヒンジ・ライン部にも下弦材を追加せず、先に述べたように、この位置にスカイライトの帯を設け、内部空間に対しても、ヒンジ・ラインの存在を明示している。

大屋根の鉄骨量は約950 tである。施工はドラガドス社、鉄骨製作はオロナ社（いずれもスペイン企業）、リフトアップはVSL社（スイス）が担当した。構造体は本年5月に完成し、目下仕上げ工事が行われている。

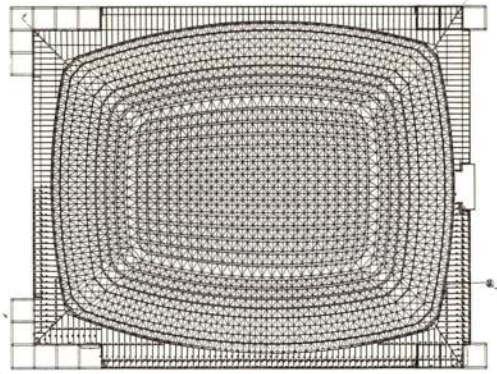


図3　大屋根骨組伏図

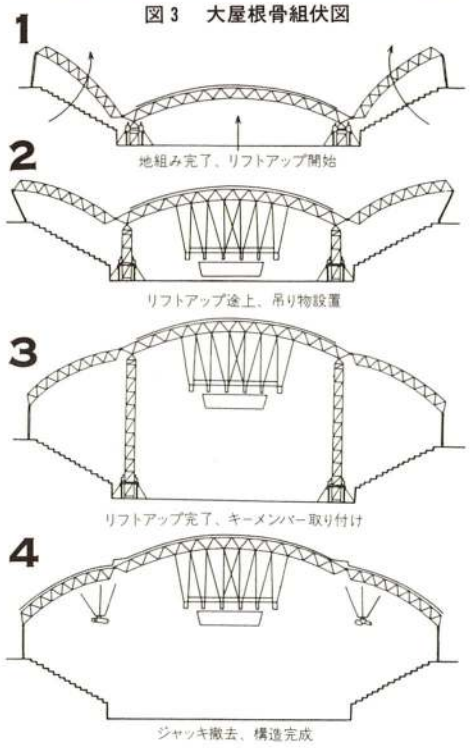


図4　パンタドーム構法による建て方要領

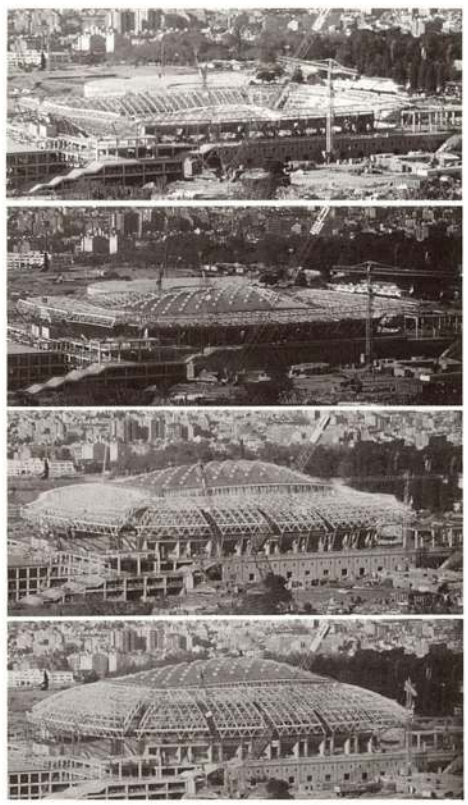


図5　リフトアップ・プロセス

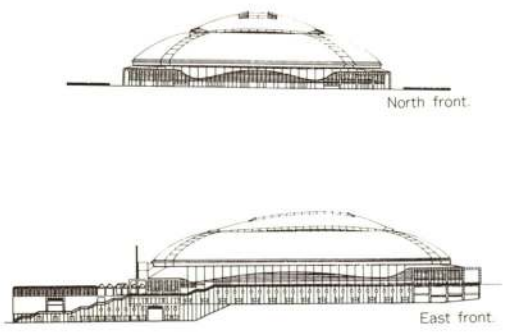


図1　立面図

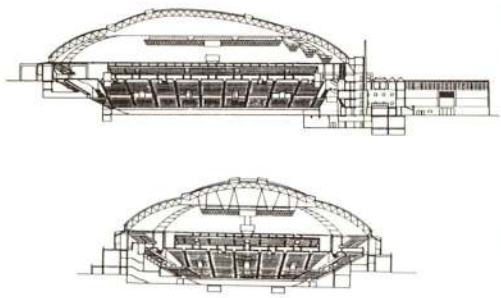


図2　断面図

（かわぐち　まもる　法政大学教授）

設備の頁

174

積層プラスチックフィルム電極よりなる二段式静電集塵装置の特性

杉田　直記

静電集塵装置は、静電気を用いると通常の機械的捕集作用に比べ電気的作用力を有効に粒子捕集に活用できるので、大いにその効果を期待されてきた。とくに圧力損失が低いという点において、きわめて優れた特性を有しており、空気清浄分野において最も高性能かつ経済的な実用集塵装置として、その地位を確立するに至っている。

ここでは、積層プラスチックフィルム電極よりなる二段式静電集塵装置の概要を紹介する。

処理風量Q、集塵電極総面積A、粒子移動速度wに対し、捕集効率ηは、つぎのDeutsh　の式で表される。

$$\eta = 1 - \exp\left(-\frac{A}{Q}w\right) \quad \cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots(1)$$

これを二段式静電集塵装置に適用するため、集塵極板間の距離をd、集塵極板の気流方向奥行き長さをL、気流速度をvとすると、(1)式は(2)式に書き改められる。

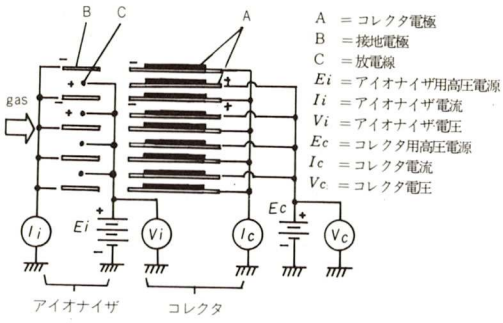
$$\eta = 1 - \exp\left(-\frac{wL}{vd}\right) \quad \cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots(2)$$

さて、いま同じ大きさで処理風量を大きくする場合を考えると、通過風速vを大きくすることになるが、捕集率を同一に保つにはwが一定なので、奥行きLを長くするか、極板間隔dを狭くするしかない。Lを長くする場合には外形も大きくなってしまうが、dを狭くすることができれば外形寸法は大型化せず、逆に小型化することさえ可能である。こうして処理風量の増大、捕集効率の向上、装置の小型化（薄型化）のためには、極板間隔dをできる限り狭くすることが唯一の手段であることがわかる。しかし電極間隔を狭くすると、電気絶縁が困難となり、火花の発生や短絡の危険性が増大する。換言すると、安全性を含めた電気絶縁を確保するためには、単に従来の設計で電極間隔dをスケールダウンするという方法には限界があり、何らかの革新的方法が必要となる。

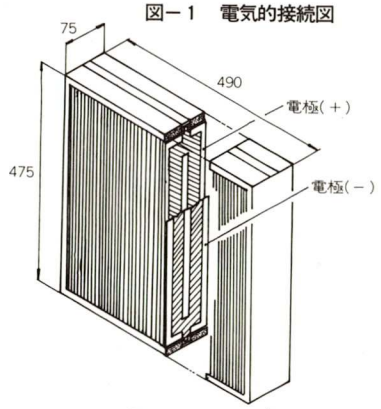
積層プラスチックフィルム電極を捕集部（コレクタ）に用いた二段式静電集塵装置は、これらの問題を解決したもので、ユニークな電極で構成され、安全性が高く、高い捕集性能を有する。

構造

電気的接続を**図－1**に示し、捕集部の外観を**図－2**に示す。

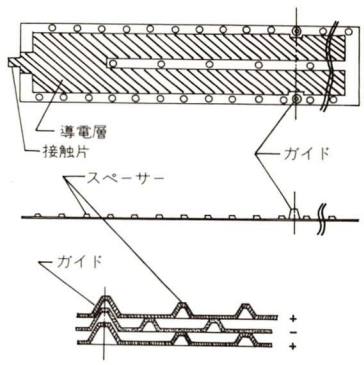


図－1　電気的接続図



図－2　捕集部の外観

本装置は、コロナ荷電部（アイオナイザ）と捕集部（コレクタ）よりなる。アイオナイザは、タングステンワイアのコロナ放電極と平行平板の対向電極とを用い、コロナ放電によって粒子の荷電を行う。コレクタは、積層プラスチックフィルムの電極間の静電界によって粒子を捕集するものである。プラスチックフィルムは、その片面のみに導電性が向き合わないように交互に逆向きに積層してあり、上下流の両端および中央に設けられた突起状のスペーサによって一定間幅(2.1㎜）に保持される。プラスチックフィルム電極の構造を**図－3**に示す。中央に設けられたガイド突起は、積層の際の位置決めのためのもので、これによって積層による極板のずれを防止している。

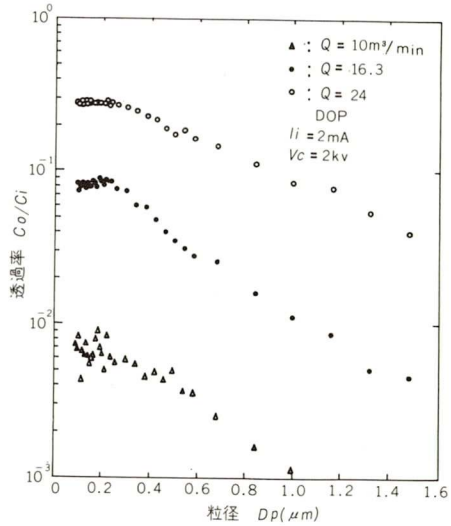


図－3　コレクタ電極の構造

導電層への給電は、端部の接触片を通して行われ、空気流通路の空間に高電界が生ずる。しかし導電層は、プラスチックフィルムの片面のみに印刷され、互に向かい合うことがないので、ファイバー状の塵埃が付着してもスパークを発生することがない。また接地側集塵極板の絶縁層においても、ダストの持っている電荷は、フィルム表面の吸着水分層を伝わり、裏側の導電層へと流れるため、電荷蓄積による間隙電界の低下、それに伴う捕集性能の低下はさけられる。

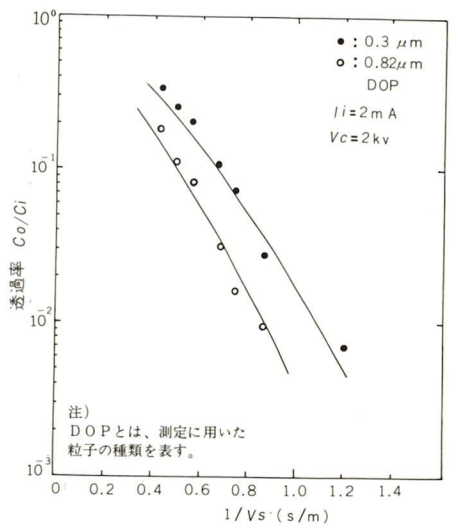
捕集特性

粒径別の個数透過率の測定結果を、**図－4**に示す。コレクタ面風速Vsは1.97、1.33、0.82m/sの三通りとし、おのおのに対応する風量は24、16.3、10m³/minである。



図－4　粒径別捕集性能

全般的に、粒径が小さくなると透過率は増加してゆくが、粒径0.1～0.3μmあたりで平坦になり、最大透過率を示す粒径もこのあたりにある。Vs＝1.33m/sについて見ると、最大透過率は9×10^{-2}で、その粒径は0.195μmである。これは、コレクタ面風速を1.33m/s以下にすると、粒径の全範囲において捕集効率が91%以上となることを示している。同様に、Vsを0.82m/sにすれば、最も捕集しにくい粒径においても99%以上捕集されることを示している。



図－5　透過率の風速依存性

コレクタ面風速Vsを変化させた場合の捕集特性を**図－5**に示す。(2)式に従えば、透過率の対数は$1/Vs$に対し直線的に減少するはずであるが、アイオナイザ通過時間の増加により、粒子の電荷量が増大するため、コレクタ内滞留時間の増加効果と相まって、透過率の特性曲線は直線からはずれ、より小さくなり、高い捕集性能を示すことを表している。

（すぎた　なおき　ミドリ安全工業株式会社
技術開発事業部研究室次長）

施工材料の頁

169 鋼繊維補強コンクリートの土間コンクリートへの適用

高見法侑／花田清治／守田孝

鋼繊維補強コンクリート（ＳＦＲＣ）についてはすでに、本誌1981年11月号で紹介されているが、その後、適用用途に対応した利用技術の開発、規準・指針等の作成・制定が学会・協会等で活発に進められてきた。その結果、ＳＦＲＣは土木・建築分野のさまざまな用途で数多くの実績を積み重ね、すでに一般的な材料・工法として位置づけられるようになってきた。

このように実用の段階に入り、今後さらに使用量の増大が期待されるＳＦＲＣを、土間コンクリートへの適用例を中心に再度紹介する。

鋼繊維

ＳＦＲＣに用いられる鋼繊維（ＳＦ）は、鋼線から製造される伸線ファイバー（断面：円形）と、薄鋼板から製造されるせん断ファイバー（断面：角形）の２種に大別される。いずれも付着強度を高めるため、表面にインデント加工や波形加工、さらには端部にフックを付けるなどの形状的工夫を施している。

寸法　ＳＦの寸法は換算直径が0.5～0.7㎜、長さが25～50㎜程度である。一般には、長さが30㎜のものを主体に使用されており、長さ25㎜のＳＦは吹付工法で使用される場合が多い。また、ＳＦの直径dと長さℓの比ℓ/dはアスペクト比と呼ばれ、アスペクト比が大きいほどＳＦＲＣの諸強度特性も高くなる傾向を示すことから、適用用途、施工法等によっては、アスペクト比の大きい、長さ50㎜のＳＦを用いる場合もある。

ＳＦ混入率　コンクリートに混入されるＳＦの量は、ＳＦ混入率で示される。これは、ＳＦＲＣ１㎥中に占めるＳＦの容積比を百分率で表している。実用的なＳＦ混入率の範囲は0.4～1.5％（重量で30～120kg/㎥）程度である。

ＳＦＲＣの特性

ＳＦＲＣは、普通コンクリートと比べ、つぎの特性を有する。

1）引張強度、曲げ強度、せん断強度が大きい。（**表-1**）

表-1　SFRC(SF混入率2%)の普通コンクリートとの比較

初期ひびわれ強度	1.5～2.0倍
引張および曲げ強度	1.5～1.8倍
せん断強度	1.5～2.0倍
靱性	30～60倍
疲労強度	著しく改善される
耐衝撃性	同上
耐摩耗性	1.0～1.5倍

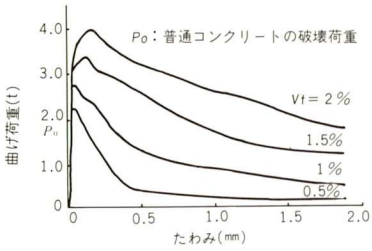


図-1　ＳＦＲＣの荷重－たわみ曲線

2）靱性（タフネス）が大きく、ひび割れ発生後も大きな耐荷力をもつ。（**図-1**）

3）ひび割れに対する抵抗性が大きい。すなわちひび割れが発生しにくく、また発生したひび割れが成長しにくい。

4）耐衝撃性、耐疲労性に優れている。

5）凍結融解作用に対する抵抗性が優れている。

土間コンクリートへの適用メリット

ＳＦＲＣを土間コンクリートに適用した場合、従来工法（無筋および鉄筋コンクリート造）に比べ、つぎのメリットがある。

1）従来の工場、倉庫等の土間コンクリートは、コンクリートの乾燥収縮やフォークリフト、運搬車両等の走行によるくり返しや衝撃等の動的荷重によりひび割れが発生しやすいが、ＳＦＲＣでは、コンクリート中のＳＦがひび割れの進展を拘束するので、ひび割れの発生が少なくなる。

2）従来の土間コンクリートは、ひび割れ防止対策として鉄筋を配置していたが、ひび割れ抑制効果の大きいＳＦＲＣは、鉄筋を省略することができる。さらに、曲げ強度、靱性が大きいので、土間の厚さを薄くすることができる。

3）配筋作業工程がなくなるので、その分、工事の省力化、工期の短縮ができる。

4）鉄筋省略、土間厚さの減少により、建設時の土間施工コストの低減が期待できる。加えて耐用年数が延びるので、メンテナンス費用も少なくてすみ、トータルコストを大幅に削減できる。

土間コンクリート適用例

設計　Ａ電気会社新設工場の土間（面積約4,000㎡）で、当初は鉄筋コンクリートで設計されていた。これを積載荷重（２ｔフォークリフト走行）および地盤の支持力等を設計条件として、ＳＦＲＣに置換設計した。**表-2**に、原設計とＳＦＲＣ土間コンクリートの仕様を示す。

表-2　土間コンクリートの仕様

	鉄筋コンクリート（原設計）	ＳＦＲＣ
厚さ（cm）	15	13
鉄筋	D10@200（ダブル）	無筋
ＳＦ混入量(kg/㎥)	―――	30
SFの形状寸法(mm)		0.7φ×50

調合　ＳＦＲＣのスランプは、コンクリートポンプ施工を考慮して、15±2.5㎝とした。ＳＦは設計基準強度（曲げ：40kg／㎠）を満足させるため、ＳＦＲＣ１㎥当たり30kg混入とした（ＳＦ混入率：約0.4％）。ＳＦＲＣはＳＦを混入することによりコンシステンシーは低下するため、ベースコンクリート（ＳＦ混入前のコンクリート）の調合は、一般に単位水量、単位セメント量が大きく、細骨材率も大きくするが、本ケースではＳＦ混入量が30kg／㎥と少ないので、レデーミクストコンクリートの標準品をそのまま用いることとし、ＳＦ混入によるスランプの低下量３㎝も含めて、標準品210-18-20を使用した。

ＳＦＲＣの製造　ＳＦＲＣの製造方法としては、①生コンプラントのミキサーにＳＦを投入混練する、②現場でアジテータ車のドラムにＳＦを投入混練する、の二つがあるが、②の製造方法を採用した。すなわち現場にＳＦ投入用の架台を設置し、ベースコンクリートをアジテータ車で搬入、ドラムを高速回転させながら、架台上から１車（５㎥積載）当たり150kgのＳＦを直接ドラム内に投入、ＳＦＲＣを製造した。施工時に実施したＳＦの分散性調査結果では、コンクリート中のＳＦは設計値に対し94～105％の範囲にあり、ほぼ均等に分散されていることを示した。（**写真-1**）

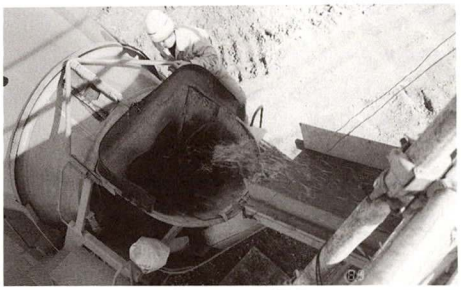


写真-1　ＳＦ投入

施工　ＳＦＲＣの全打ち込み量は約540㎥、打ち込みは３回に分けて実施した。アジテータ車で製造されたＳＦＲＣを、コンクリートポンプ（ピストン式、最長圧送距離約80ｍ）により圧送したが、圧送性はホースの脈動、閉塞等もなく、良好であった。打ち込み時にはＳＦＲＣ表面のＳＦの突起や露出を防ぐため、荒均し後タンピング（**写真-2**）を入念に行い、ＳＦを沈降させた。仕上げは普通コンクリート施工時と同様に、動力コテ、金ゴテ押さえの順序で実施した。



写真-2　ＳＦＲＣタンピング

おわりに

建築分野におけるＳＦＲＣの適用用途は現在はほとんどが土間コンクリート、間仕切壁等の非構造部材であり、柱・梁・スラブ等の構造部材では、通常の鉄筋補強に対する安全性向上としての適用に限られている。しかしＳＦＲＣの優れた強度特性、靱性、ひび割れに対する抵抗性は建築物の耐震性向上に有効であり、鉄筋と併用すれば相乗効果も期待できる。今後、ＳＦＲＣの特性を適切に評価し、それを織り込んだ設計法が確立されれば、さらに適用用途は拡大するものと考えられる。

たかみ　のりゆき　株式会社神戸製鋼所　スラグ・建材部営業室　課長
はなだ　きよはる　〃　〃　係長
もりた　たかし　〃　〃　〃

安藤忠雄建築展・講演会「中之島2001」

パリ、ロンドン、ニューヨーク等に比べて、日本の都市には魅力が乏しいと言われる。特に大阪は絶望的な状況にあると言えるだろう。街を歩いても、経済効率の追求によって緑や公共施設は隅においやられ、人々は息苦しい街に住んでいることが分かる。これから求められるのは、利便性とか、機能性とかいった価値から外に出られる空間、精神的なゆとりを持てるような場所ではないだろうか。特に芸術や文化を孕む街はエキサイティングに開花していくであろう。

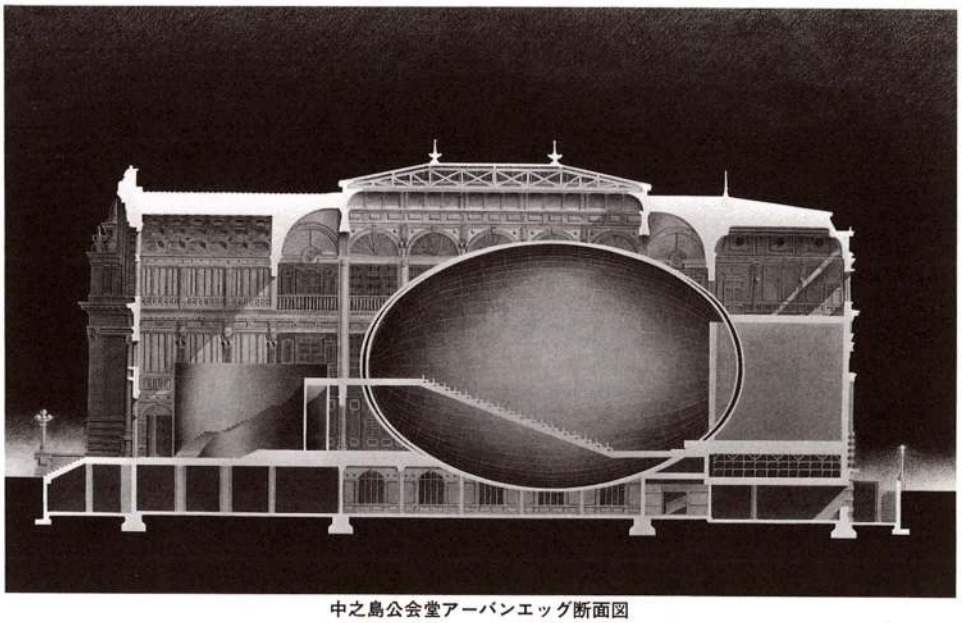
堂島川と土佐堀川とではさまれた大阪の中心にある中之島、ここは経済機能の軸としての御堂筋と交差し、豊かな緑で囲まれた歴史的建築物で占められる。このエリアはわが国でも他に類をみない貴重な歴史的街区である。中之島が文化、芸術の島として浮上するならば、この周辺のみならず大阪全体を刺激していくであろう。

今回の展覧会はこうした視点から、大阪中之島をとり上げたいと思う。長さ10Mのドローイング、中央公会堂改造計画――アーバンエッグ模型、CG、パネル、写真等を通して、歴史的価値をもった中之島を大阪の文化、芸術ゾーンとして考えていこうというものである。

と　き　1989年 9 月13日(水)～ 9 月24日(日)
AM11:00～PM 8 :00
ところ　ナビオ美術館（大阪市北区角田町７－10 ナビオ阪急3F）TEL 06－316－1343
入場料　一般 500円／学生 300円

安藤忠雄講演会

と　き　1989年 9 月13日(水)ＰＭ６:00～
ところ　朝日生命ホール（地下鉄御堂筋線淀屋橋下車朝日生命館8F）
TEL 06－202－3919
入場料　1000円
定　員　先着順 472名
主　催　安藤忠雄建築展実行委員会
後　援　ナビオ美術館



中之島公会堂アーバンエッグ断面図

第21回中部建築賞 作品募集

中部建築賞は、昭和44年に創設されて以来、今回で21回を迎え、受賞作品の社会的評価も高まってきている。

同賞は、中部地域社会の発展に貢献したとみられる優秀な建築作品に対して功績を讃え、建築主、設計者、施工者の三者に対し贈るもので、現在、今年度の作品を募集中である。

応募作品　平成元年３月31日までに竣工した作品で、一般部門と住宅部門に分けられる。
応募手引　所定の申込書に記入し、指定の図書及び応募料を添えて、期日までに建物の所在する各県の加盟団体を経由して提出すること。但し、加盟団体のない県においては直接当協議会に提出のこと。
添付図書　図面、写真、説明書など
応募料　応募作品１点につき一般部門35,000円、住宅部門5,000円
申込締切　1989年 8 月31日
審 査 員　鬼頭　梓（建築家）
福知保長（日本建築学会東海支部長）
塩野谷　格（中部開発センター副会長）
税田公道（新日本建築家協会東海支部長）
山梨清松（静岡県建築士会会長）
藤田順吉朗（富山県建築士会顧問）
岡田賢治（福井大学工学部助教授）
片木　篤（名古屋大学工学部講師）
主　催　中部建築賞協議会
問 合 せ　中部建築賞協議会事務局
〒460 名古屋市中区栄４－３－26（昭和ビル）東海建築文化センター事務局内）
TEL 052－262－0838

建築物防災週間実施 ―平成元年度上期―

建築物防災週間は火災、地震、がけ崩れ等の災害により建築物の被害はもとより、多くの人命が失なわれている実状に、広く一般住民を対象に建築物に関連する防災知識の普及に努め、防災関係法令及び制度の徹底を図り、建築物防災対策の推進に寄与することを目的としている。

期　間　1989年 8 月30日(水)～ 9 月 5 日(火)
実施内容　(1)建築物に関連する防災知識の普及及び啓蒙
(2)建築物防災関係法令の周知及び遵法精神の高揚精神の高揚
(3)建築物の維持管理の徹底及び定期報告制度の普及
(4)防災上危険な建築物の改善のための各種助成処置の周知及び改善指導
実施方法　(1)ポスターの掲示
(2)広報紙、テレビ等による広報活動
(3)講演会、講習会等の開催
(4)建築物防災相談所の開設
(5)防災査察の実施
(6)関係運動との同調

PLER 1989 NARA 奈良国際会議

テーマ　「地球時代・建築と環境」
「環境」「エネルギー」「建築」をキーワードとし、未来の建築の姿や居住環境を論ずる。
講　師　J・クック、宮脇　檀、B・ギボニ、奥村昭雄、石井　修ほか
パネリスト　石山修武、渡辺豊和、A・クレイナー
と　き　1989年 9 月 9 日(土)～10日(日)
ところ　奈良県新公会堂（奈良市春日野町101）
参加料　2000円（別に資料代1000円）
問合せ　PLEA1989奈良国際会議事務局（ＯＭソーラー協会内　TEL 0534－54－0086）

日本建築協会

月間の動き

平成元年6月分

通常総会

28日　5時35分～6時5分　於本会会議室
出席者　佐野会長ほか13名
議事　(1)昭和63年度一般勘定事業報告並びに決算報告承認の件
(2)昭和63年度創立70周年記念事業報告並びに決算報告承認の件
(3)平成元年度事業計画並びに収支予算承認の件

定時評議員会

28日　5時～5時35分　於本会会議室
出席者　多井副議長ほか45名（委任状共）
議事　(1)理事1名補選の件
(2)昭和63年度一般勘定事業報告並びに決算報告承認の件
(3)昭和63年度創立70周年記念事業報告並びに決算報告承認の件

理事会

第2回定例理事会
28日　4時～4時50分　於本会会議室
出席者　佐野会長ほか20名
議事　(1)昭和63年度一般勘定事業報告並びに決算報告承認の件
(2)昭和63年度創立70周年記念事業報告並びに決算報告承認の件
(3)大阪府庁舎・周辺整備基本計画提案競技参加作品東京展示会主催の件
(4)関西国際空港全体構想早期実現期成会参加団体加入の件
(5)木材科学講座－新しい木材の活かし方－協賛の件
(6)「KOBEインターホーム'90」協賛の件
(7)大阪市街地再開発促進協議会理事重任承認の件
(8)中之島公会堂再生への提案（アイデアコンペ）後援の件
(9)本会東海支部・中国支部昭和63年度事業並びに決算報告及び平成元年度事業計画並びに収支予算承認の件
(10)入退会者承認の件
(11)報告事項

企画委員会

5日　12時～1時半　於本会会議室
出席者　佐野会長、三品委員長ほか6名
議事　(1)委員長の互選
(2)第2回日本建築協会賞の実施について
(3)その他

編集委員会

第3回編集委員会
8日　4時～6時　於本会会議室
出席者　長谷部委員長ほか8名
議事　(1)5月号「まちづくりと法」特集報告
(2)6月号「博覧会とまちづくり」特集経過報告
(3)7月号「都市環境創造と設備1」特集経過報告
(4)8月号「建築とアート」特集経過報告
(5)9月号「構造の省力化」特集経過報告
〃　「鹿島建設」特集経過報告
(6)10月号「都市環境創造と設備2」特集企画
〃　「ユーザー参加のハウジング」特集企画
(7)収支状況報告

第3回作品作風小委員会
8日　6時半～8時　於本会会議室
出席者　塘副委員長ほか6名
議事　(1)最近の掲載状況・予定の報告
(2)「Gallery」内容報告と今後の検討

第3回会員企画小委員会
13日　6時～9時　於本会会議室
出席者　高田副委員長ほか7名
議事　シリーズものの掲載内容について

第4回施工材料分科会
13日　6時～9時　於本会会議室
出席者　志水幹事ほか4名
議事　(1)編集委員会の報告
(2)10月号「最近の地方博パビリオン」特集の企画

「W」座談会・会員企画小委員会企画
20日　6時～10時　於デザイン・オフィスレイ
出席者　中野温子(京大)、湯村直美(摂南大)、船原洋子(大阪芸大)、溝口委員(司会)ほか2名

第3回計画系―インテリア・住宅―分科会
22日　6時半～9時　於本会会議室
出席者　加藤幹事ほか5名
議事　平成2年1月号「商品化住宅のデザイン」特集企画

第3回広告企画小委員会
27日　4時～5時半　於本会会議室
出席者　長谷部委員長ほか5名
議事　(1)6月号「博覧会とまちづくり」特集広告収入報告
(2)7月号「都市環境創造と設備－1」特集広告収入途中経過報告
(3)8月号「建築とアート」特集報告
(4)9月号「構造の省力化」特集・「鹿島建設大阪支店設計部作品集」特集報告
(5)10月号「都市環境創造と設備2」特集・「ユーザー参加のハウジング」特集報告
(6)平成元年度独自特集企画及び検討
(7)収支状況報告

第11回being幹事会
28日　7時～10時半　於本会会議室
出席者　北村委員ほか7名
議事　今後の「being」について

平成元年9月号「鹿島建設大阪支店設計部作品集」特集幹事会
28日　1時半～3時半　於鹿島建設会議室
出席者　岡島幹事ほか4名
議事　9月号「鹿島建設大阪支店設計部作品集」特集案検討

事業委員会

第2回「The KANSAI 21」企画分科会
1日　6時半～8時半　於本会会議室
出席者　ゲスト　加藤晃規氏（大阪大学）
宮野副委員長ほか2名
議事　企画内容の検討

第1回「エコロジカルアーバンプランニング」企画分科会
6日　6時半～8時半　於本会会議室
出席者　宮野副委員長ほか3名
議事　(1)企画内容の検討
(2)今後のスケジュール

第1回関西のビッグプロジェクト講演会企画幹事会
8日　7時～9時　於本会会議室
出席者　林幹事ほか2名
議事　(1)当幹事会の開催説明
(2)幹事、事務局の自己紹介

第3回「音楽と建築」企画分科会
13日　6時半～9時　於本会会議室
出席者　ゲスト　石川康介氏（近畿大学）
田畑主査ほか3名
議事　(1)講演内容の検討
(2)今後の作業予定

第3回「The KANSAI 21」企画分科会
14日　6時半～8時半　於本会会議室
出席者　山田主査ほか2名
議事　会告原稿の検討

第4回若い会員の集い「関西の祭事」研究会
22日　6時半～9時　於本会会議室
出席者　大森幹事ほか2名
議事　(1)各祭事のまとめと報告
(2)資料、文献の収集
(3)今後の作業予定

第4回「The KANSAI 21」企画分科会
23日　6時半～9時　於本会会議室
出席者　山田主査ほか2名
議事　(1)会告原稿の検討
(2)今後の作業予定

第2回「エコロジカルアーバンプランニング」企画分科会
27日　6時半～9時　於本会会議室
出席者　宮野副委員長ほか2名
議事　(1)講演会の講師の検討

(2)企画内容の検討

第2回関西のビッグプロジェクト講演会企画幹事会

28日　7時～9時　於本会会議室

出席者　林幹事ほか3名

議事　関西のビッグプロジェクト講演会第1回の企画案

出版委員会

15日　5時～6時　於本会会議室

出席者　須賀委員長ほか7名

議事　(1)〈プロのノウハウ〉と特装本の経過報告

(2)今後のテーマと執筆者選定について

(3)プロのノウハウ講座シリーズ第2回「建築設備の健康診断」について

建材委員会

14日　3時半～5時半　於本会会議室

出席者　金井委員長ほか21名

材料説明：イワタニ・ナイスタッド／中川徹

議事　(1)南海サウスタワーホテル現場見学6／16

(2)工場見学会（今秋予定）につき検討を進める

(3)今後の検討建材

建築クラブ

第206回朝食会

13日　8時～9時半　於大阪グランドホテル

演題　「小売屋の目」

講師　正井　春吾

（㈱フォーサイ・インターナショナル）

出席者　70名

第21回役員会

22日　12時～1時半　於本会会議室

出席者　塚本代表　佐倉委員長ほか6名

議事　(1)岸さかえを励ます大阪府民の会総会出席勧誘の件

(2)7月以降のスピーカーについて

見学会

大阪音楽大学ザ・カレッジ・オペラハウス見学会

23日　2時～4時

参加者　75名

●建築概要

所在地　豊中市庄内西町

設計　日建設計

施工　鹿島建設

需要者参加型住宅供給研究会

23日　3時～6時半　於　本会会議室

出席者　高田委員ほか3名

議事　10月号「ユーザー参加のハウジング」特集案検討

6月の入会者（敬称略）

〔団体会員3社〕

㈱アーバン・ブレーン　　大阪府建築家協同組合

錦建設㈱

〔個人会員31名〕

青木　隆一（日本建設）	馬野　藤生（日本建設）	江村　隆（日本建設）
川口　修（日本建設）	神原　宏也（日本建設）	瀬戸　康介（日本建設）
竹下　忠範（日本建設）	西口　徹（日本建設）	長谷川浩二（日本建設）
平原　剛（日本建設）	藤田　昭男（日本建設）	前川　猛（日本建設）
松浦　昭弘（日本建設）	山本　貴史（日本建設）	若林　良知（日本建設）
大川　和彦（大阪府建築部）	喜代吉規男（広島市役所）	坂口　正雄（近畿電気工事）
迫村　隆毅（日建設計広島）	篠崎　祐嗣（西日本旅客鉄道）	篠沢　清見（建築研究振興協会）
嶋津　孝之（広島大学）	田村　圭吾（田村総合建築）	高見　美喜（アトリエ・マイ）
武田　弘（武田工務店）	寺本　英一（鴻池組名古屋）	徳永　敏夫（ジェイ・アンド・エフ）
富田　昌義（大林組）	西村　忠司（鹿島建設）	野口　桂三（野口建設）
守山　久子（日経アーキテクチュア）		

〔准会員3名〕

三浦　要一（大阪市立大学院）	山藤　理文（修成建設専門）	楊　壁恵（台北工専）

建築デザインのための 構造計画

須賀好富 著　　B5判・216頁・2800円（消費税抜）

建築技術選書〈特装版〉

よいデザインは構造計画によって支えられ，構造計画はよいデザインの「かて」となる．建築家が構造計画を認識し，構造家の計画案が建築家のアイデアに刺激を与えることにより始めて優れた建築が生まれる．建築家と構造家のギャップを埋めるための知識を図・写真などの最新情報を載せてわかりやすくまとめた，両者待望の技術書．

〈目　次〉
第1章　構造とデザイン
第2章　柱の計画
第3章　はりの計画
第4章　架構の計画
第5章　屋根の計画
第6章　床の計画
第7章　耐震壁の計画
第8章　コストと構造計画

企画／日本建築協会

〒600　京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
☎075-343-0811　振替／京都 0-26789

㈱学芸出版社

プロのノウハウ

コンクリート工事のチェックポイント100

四六判・2色刷・224頁・2000円（消費税抜）

加賀秀治 著

生コン工場の普及につれてその技術面はメーカー任せとなり，現場技術者のコンクリートに対する知識の低下を招き，施工不良による欠陥構造物につながりやすくなっている．本書では，使用材料の選定から施工欠陥の補修までコンクリート工事に必要な基本的事項と管理のポイントを改訂されたJASS5に従い簡便に解説．

Ⅰ．コンクリート技術の展望
Ⅱ．コンクリート工事の施工計画
Ⅲ．使用材料の選定
Ⅳ．コンクリートの調合設計
Ⅴ．生コンの発注　Ⅵ．型わく工事
Ⅶ．コンクリートの運搬（ポンプ圧送）
Ⅷ．コンクリートの打込み・締固め
Ⅸ．コンクリートの養生
Ⅹ．コンクリートの品質管理・検査
Ⅺ．施工欠陥と補修
Ⅻ．特殊コンクリートの施工

企画／日本建築協会

〒600　京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
☎075-343-0811　振替／京都 0-26789

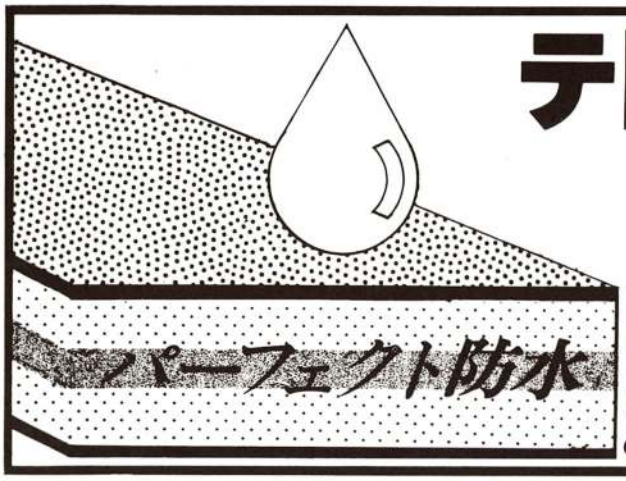
㈱学芸出版社

室谷

内装不燃材

室谷商事株式会社

本社　神戸市中央区三宮町3−7−6(神戸フクトクビル5階)
電話　神戸(331) 0881〜3
支店　大阪市北区西天満2丁目6番8号(堂ビル5階)
電話　大阪(364) 2031〜4
倉庫　神戸市東灘区御影石町4丁目（電話811-3610)



テトカッパー防水層

防水専業の研究・経験から生れたすくない資源のパーフェクトな防水層です。
この防水層は（一層防水）施工するだけで、防水は完璧です。
温度変化に伸びがなく、柔軟性に富み、耐酸、耐薬品性に優れ、腐蝕しません。

カッパー防水帯　コーパータイト　新工法
オクロン防水帯　プレノテクト吹付工法

●お申込次第カタログ進呈

奥山化工業株式會社

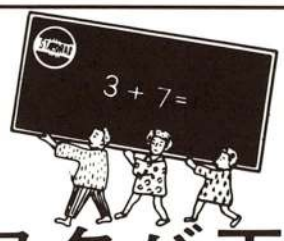
本　社	東京都中央区銀座8−4−9	電話03（571）2703
大阪事務所	大阪市淀川区東三国6−1−41	電話06（391）1081-2
埼玉営業所	埼玉県桶川市東1−3−30	電話0487(74)2845-6
厚木出張所	神奈川県厚木市金田259	電話0462（21）1761
名古屋出張所	名古屋市南区若草町33	電話052（811）3660
九州出張所	佐賀県佐賀郡諸富町大字諸富津450	電話0952（47）2945

新しい時代の、新しい扉をひらきたい。

TOYO Shutter

東洋シヤッター株式会社

本　社　〒540 大阪市中央区常盤町1−3−8（日本生命谷町ビル）
TEL（06)943−6571（代）
■東京/横浜/盛岡/仙台/水戸/静岡/岡崎/名古屋/富山/大津/京都/神戸/広島/高松/福岡/他全国主要都市



Standard Board&Slate

フタバ工業

〒547　大阪市平野区加美北3−4−5　TEL 大阪06(792)5858(代)

奉仕感謝の店
タイル工事施工

株式会社 川岸窯業商店

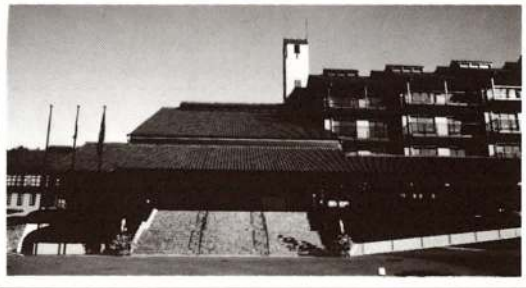
本　社　〒550 大阪市西区西本町1−13−33
電話　大阪 06(532)代0461　〒550
天理営業所　天理市丹波市新町50

活字のない印刷

日本写植印刷株式会社

代表取締役　神田都義

本　社	〒545 大阪市阿倍野区阪南町7-5-30	☎06(606)1111代
日本写植センター	〒892 鹿児島市名山町4-7 三宝ビル	☎0992 (26) 4371
津山写植センター	〒708 津山市大手町8番5号 模範店会館	☎08682 (4) 1771



あらゆる屋根工事の相談は、

ナニワ瓦株式会社

〒556 大阪市浪速区塩草二丁目二番三号
☎ 五六一〜七四一六
ファックス 五六一〜七四五四

空気調和・給排水・衛生・防災設備　設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　社　東京都港区浜松町1-25-7　電話（434）6171（大代）
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話（302）2271（代）
支　店　北海道・東北・名古屋・中国・九州
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社

大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備
公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－344－1851（大代）　大阪本社 ☎06－448－3603（代）
大阪支社 ☎06－448－5851（代）　名古屋支店 ☎052－211－1535（代）　中国支店 ☎082－247－5541
九州支店 ☎092－431－2147（代）　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国。

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒650 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)441-8231
東京本社　〒102 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)261-8231
支　社　名古屋・福岡
支　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

空気調和　給排水衛生　搬送機設備　設計施工
人に優しい環境づくり

第一工業株式会社

大阪支店　〒530 大阪市北区西天満3丁目6番14号
電話　06－364－6661（代表）
本　社　〒100 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号
電話　03－211－8511（代表）

空気調和設備　産業設備
給排水設備　水処理施設
電気設備　環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　白谷清二
大阪支店長　三田村嘉也

大阪支店　大阪市中央区北浜2－2－21　電話06(202)3071(代表)
本　店　東京都千代田区有楽町1-4-1　電話03(502)6111(大代)
支　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・四国

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　社
大阪営業所　大阪市北区西天満5-11-12　電 06－313－1846
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9－3　電0720－49－2128

空気調和設備
衛生設備　設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話（352）1131(代)
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2－22　電話（667）3431（大代）
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

MODAIR
空気調和設備
換気・除塵設備　設計施工

東洋熱工業株式会社大阪支店

大阪市西区靱本町3－1－27　TEL（443）8071
本　社　東京都中央区京橋2丁目9　TEL（562）1351
支　店　名古屋・福岡

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　社　大阪市中央区城見2丁目1番61号ツイン21MIDタワー　電話 06－949－1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話 03－344－7911
大阪本店　大阪市北区西天満4丁目6番18号　電話 06－363－1371
支　店　仙台市青葉区大町2丁目2番10号　電話022－261－3002
名古屋市中村区名駅南2丁目14番19号　電話052－581－8571
広島市中区紙屋町1丁目2番22号　電話082－247－4535
福岡市中央区大名2丁目4番22号　電話092－761－3795
営業所　札幌・横浜・京都・神戸・松江
出張所　青森・秋田・盛岡・大宮・千葉・川崎・富山・福井・和歌山・鳥取・岡山・高松・下関・熊本・鹿児島・沖縄

給・排水・衛生・消火・空調設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津6丁目8番4号　電話大阪（458）3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号（オートセンタービル1.2階）
郵便番号542　電話 大阪(06) 768－5031代表
メンテナンス部　電話 大阪（06）768－1 6 5 1代表
東京支店　東京都千代田区九段南2丁目2番5号（九段ビル2～4階）
郵便番号102　電話 東京(03) 262－3241代表

空調・衛生・防災設備　設計並施工

日本管工業株式会社

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681) 5101～5・夜間専用(691) 1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話（06）352－3501(代)
三重支店　津市栄町2－111　電話(0592)26－3610(代)
四日市営業所　四日市市西末広町　電話(0593)53－7431(代)
滋賀営業所　大津市中央2丁目4-28　電話(0775)22－9738(代)

電気・計装工事 設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長 栗 原 信 英

大阪市北区角田町1-1 東阪急ビル TEL 06-313-1101
支 店 東京・名古屋・舞鶴・京都・天理
大阪南・神戸・広島・四国・九州

Carrier 冷暖房は CARRIER キャリア

東洋キャリア工業㈱デストビューター関西地区

日本冷熱工産株式会社

本社及大阪営業所 吹田市豊津町40番38号
電話 大阪 (384) 1201～7

電気工事設計施工

株式会社 三 興 社

代表取締役 土 井 敏 裕

本 社 大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル7階)
電 話 (361) 3 6 7 1 (代)
支 店 東京都中央区日本橋箱崎町20番5号
電 話 (671) 1 4 7 8 (代)
出張所 川崎・相模原・堺・滋賀

―誠実と技術でお応えする―

住友電設株式会社

取締役会長 代 谷 正 元
取締役社長 相 馬 一 男

本社／〒553 大阪市福島区福島7丁目22-8 ☎(06)452-1151(大代) 東京／〒105 東京都港区芝2丁目2－17 ☎(03)454-7311(大代)

営業種目 設計・施工・監理

●電力工事
発変電設備工事
架空送配電線工事
地中送配電線工事

●設備工事
ビル電気設備工事
工場電気設備工事
防爆電気設備工事
計装工事
空調工事
給排水衛生工事
特殊配管工事
消防施設設備工事

●プラント工事
●情報システム工事
光伝送システム工事
CATVシステム工事
各種アンテナ装置工事

限りなきクリーンに挑戦する!!
電気設備・クリーンルーム・冷暖房設備
給排水衛生設備・計装制御設備・立体自動倉庫
エネルギー集中監視システム・回転式自転車置場
設計施工

三宝電機株式会社

取締役社長 嘉 納 伝 三

本 社 〒530 大阪市北区西天満2－6－8(堂ビル) TEL 06(364)1471 TELEX 523－3287
東京支店 〒105 東京都港区新橋2-16(ニュー新橋ビル) TEL 03(504)0231 TELEX 222－6724
名古屋支店 〒462 名古屋市北区金城三丁目12－14 TEL 052(991)5131
神戸支店 〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル) TEL 078(881)5571

電気設備 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役 山 本 貴 士

本 社 大阪市北区中之島3－2－4 朝日ビル TEL 大阪06 (385)1361(代)
大阪営業所 TEL 大阪06(385)1361(代) 京都営業所 TEL 京都075(311)1185(代)
東京営業所 TEL 東京03(574)0665 福岡出張所 TEL 福岡092(771)6168

特殊壁装材製造販売 和室に最適

●聚楽壁紙●ホクシノン(無機質壁紙)

㈱ホクシンクロス

〒583 大阪府羽曳野市島泉8－173－1
TEL(0729)39－3610

工場 〒580 大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一 〒639-11奈良県大和郡山市小泉町2744
第二 〒597 大阪府貝塚市王子501

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社

大阪支社

専務取締役支社長 横 田 幸 一

大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号 電話大阪 (202)0325～9番
本 社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支 社 札幌・仙台・丸ノ内・新宿・横浜・名古屋・九州
営業所・出張所 全国主要都市32ヶ所

営業種目

●防水工事 塗布防水・シート防水・モルタル防水
●樹脂注入接着工法 各種樹脂注入接着補修工事
●亀裂補修工事 各種樹脂注入・充填・コーキング
●シーリング工事 シリコン・チオコール・ウレタン・アクリル
●吹付工事 アクリル・リシン・弾性タイル・その他
◇建設業許可 大阪府知事許可 (般－53)第51225号
◇日本シーリング工事業協会々員

大阪市北区末広町3－21
星和地所扇町ビル201S
TEL 06(315)0701

㈱特殊技研

Constructioh chemistry for the future.

コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材

Master Builders Technologies

ポゾリス物産株式会社
日曹マスタービルダーズ株式会社

本 社：東京都港区六本木3－16－26 TEL03-582-8813
大阪支店：大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル) TEL06-202-3294

技術と信頼で人と企業に貢献する

青葉印刷株式会社

代表取締役社長 依 藤 孝 蔵

〒534 大阪市都島区中野町2丁目10番11号 TEL(06)351—5428(代)
FAX(06)351—5299

省エネルギー時代の断熱用シート防水材

日立バイナリーシートP

日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。

日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)

特　許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

半世紀の実績が誇る技術とアフターケアー！

長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種
- オリエンタルカラースーパーメタル(CSPM)
- オリエンタルスチールライト(ＳＴＬ)
- オリエンタルメタル(ＯＰＭ)
- 鋼板製オリエンタルフネンシングル
- オリエンタルオリセラム


体育館屋根フネンシングル

波板規格　S小波・S大波・V波・ボックス波・Wジャンボ波・Vデッキ
SVジャンボ波・ボルトレスルーフBL・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター(強制)〕
ボーロイド(断熱材)D.G.K.　※カタログを御請求下さい

オリエンタルメタル製造株式会社

大阪本社　〒660　尼崎市昭和南通り３－26 松本ビル　電話大阪(06)412－5131(代)
大阪支店及工場　大阪・九州・名古屋・広島・東条・刈谷・姫路

東京本社及工場　〒335　蕨市塚越５丁目６番32号　電話 蕨(0484)42－3115(代)
支店及工場　東北・東京・関東・熊谷

デンカCSAファミリー製品

- **デンカCSA**（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
- **デンカタスコン**（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充塡モルタルに
- **デンカキューテックス**（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート軀体の漏水補修に
- **デンカES**（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
- **デンカΣ1000**（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・網野（07727）2－2220
舞鶴（0773）76－0133

金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）332－6861
TEL 東京（03）272－8501

小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）443－6181

光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）252－6000

株式会社トーゴー／本社
TEL 滋賀・守山(0775) 83－2381

上で制電。

床を創る TAJIMA

レイフラット・セイデン/タピスOA



OA機器の多いインテリジェントオフィスには、それにふさわしい環境が必要です。タジマフロアベースは、配線を床下にすっきり収納できる二重床。そして、制電性に優れた置き換え自由なビニル床タイル「レイフラット・セイデン」や、快適性を兼ねそなえたカーペットタイル「タピスOA」を上に敷けば、静電気もシャットアウト。タジマはシステムで、オフィスに機能と快適をお届けします。

オフィスはますますインテリジェント。



タジマフロアベース

スーパートレンチ方式を採用したことにより、大容量配線が整然とできる、脚調節式の鋼製二重床。施工も簡易なので、レイアウト変更にも素早く対応、平らな二重床を容易に実現します。不燃性、軽量（37kg/m²）、強度、価格と、まさにパーフェクト。二重床へのあらゆるニーズを満足させる実力派です。

株式会社タジマ
東京／〒101 東京都千代田区岩本町3-11-13 ☎03-866-6101㈹
大阪／〒550 大阪市西区京町堀1-10-5 ☎06-441-5951㈹

タジマフロアベース

下で配線。

建築と社会 第70輯第8号
平成元年8月25日発行（毎月1回25日発行）
昭和24年3月19日第3種郵便物認可
社団法人 日本建築協会 〒530 大阪市北区梅田1の13の12(7) 電話06(345)2826(代)
振替口座大阪一三九七五番
正会員の購読料は会費にきめて徴収
定価九八〇円（本体九五一円 送料共 消費税二九円）